

沼津市文化財調査報告書 第118集

沼津市内遺跡発掘調査報告書 1

平成14年度

確認調査 興国寺城跡

平成19年度

試掘調査・確認調査 日吉庵寺跡・三芳町遺跡・三明寺遺跡・拓南遺跡他

平成20年度

確認調査 三明寺遺跡・子ノ神遺跡

平成21年度

試掘調査・確認調査 日吉庵寺跡他

平成22年度

確認調査 三芳町遺跡

平成23年度

試掘調査・確認調査 六右エ門畠遺跡他

平成24年度

試掘調査・本発掘調査・測量調査 日吉庵寺跡・若松崎古墳群他

平成25年度

試掘調査・確認調査・分布調査 御幸町遺跡・松長古墳群他

平成26年度

試掘調査・確認調査・測量調査・分布調査 大泉寺畠遺跡・馬見塚古墳群他

平成27年度

試掘調査・確認調査・測量調査 大泉寺畠遺跡・山神上遺跡他

平成28年度

確認調査・分布調査 大泉寺畠遺跡・山神上遺跡他

2019

沼津市教育委員会



平成 21 年度 日吉庵寺跡出土埴仏 S= 1 / 1
(左:写真 右:埴仏の 3 次元レーザースキャナーによる画像 (PEAKIT) を編集)



平成 26 年度 戸田石丁場刻石「ほそ川越中守石場」

例　言

1. 本書は、静岡県沼津市内において沼津市教育委員会が平成 14 年度及び平成 19 年度から平成 28 年度にかけて実施した市内遺跡発掘調査等事業の報告書である。
調査箇所名については、平成 31 年 1 月 1 日時点での静岡県に周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されているものに準拠した。
2. 発掘調査等事業は、沼津市教育委員会教育長が主体となって、文化庁より国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（旧国宝重要文化財等保存整備費補助金）と、静岡県より静岡県文化財保存費補助金を得て実施した。
3. 調査体制及び調査担当者は各調査年度の第 1 節、各遺跡及び調査地点の所在地は各調査年度の第 2 節に記載した。
4. 本書に係わる資料の保存整理は、平成 30 年度の試掘・確認調査とともに文化庁及び静岡県より前述の補助金を得て実施し、報告書を刊行した。
5. 本報告書作成に係わる事業関係者は以下のとおりである。

事業主体者	沼津市教育委員会	教　育　長	服部裕美子
事業担当者	沼津市教育委員会事務局	教　育　次　長	芹澤一男
文化振興課			
	課　　長	原　将史	
	課長補佐	杉山好永	
	課長補佐兼		
	文化財調査係長	鶴田晴徳	
整理担当者	学　芸　員	谷口哲也	
	臨時嘱託	矢田晃代	

6. 資料の保存整理事業の実務は、沼津市文化財センターで実施した。本書の執筆・編集は調査担当者の記録を基に、谷口・矢田が担当した。
7. 本報告書の執筆にあたり、出土品の分類・年代観について以下の方々に御指導及び御教授をいただいた。記して深く感謝の意を示す次第である。（五十音順・敬称略）
池谷初恵・佐藤祐樹・藤澤良祐
8. 本書に係わる発掘調査の記録類及び出土品は、沼津市教育委員会事務局文化振興課（沼津市文化財センター〒 410-0106 沼津市志下 530）で仮保管している。

凡 例

- 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は、東京湾の平均海面を基準として海拔高を表示している。
- 出土品の実測図の縮尺は各図に表示するとともに、土器 1/3・2/5、石器 1/3・4/5、軒瓦 1/4、丸瓦・平瓦 1/6 を基本とした。写真図版の縮尺はすべて任意である。
- 土層・遺物胎土の色調・記号は、『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所に基づいて記載し、計測は土色計（SCR-1 第一合成株式会社製）を用いた。
- 遺構の略号は以下のとおりである。
TP：テストピット TRE：トレンチ SB：竪穴住居址 SD：溝状遺構 SK：土坑 PT：ピット
P：柱穴 SX：性格不明遺構
- 遺物観察表における推定値・復元値・残存値には（ ）を付して表記した。
- 本報告書で用いる本文の記述・表現は、以下の文献に基づいている。
池谷信之 1995「愛鷹・箱根山麓の扇序と出土石器」『静岡県考古学会シンポジウムIX
愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』静岡県考古学会 シンポジウム実行委員会
池谷初恵 1995「伊豆国における奈良平安時代の土器様相—三島市壱町田遺跡を中心として—」
『大場川遺跡群』三島市教育委員会
柴垣勇夫 2001「沼津市日吉廃寺跡出土の瓦」『沼津市史研究』10 沼津市教育委員会
鈴木敏則 2001「湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』
第5分冊 東海土器研究会
沼津市教育委員会 2002『沼津市史 資料編 考古』
加納俊介・石黒立人 2002『弥生土器の様式と編年—東海編—』株式会社木耳社
鈴木敏則 2004「静岡県下の須恵器編年」「有玉古窯」浜松市教育委員会
富士市教育委員会 2002「東平遺跡 第16地区（三日市廃寺跡）、第27地区発掘調査報告書」
愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編窯業2 中世・近世 濑戸系』愛知県
愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史 別編窯業3 中世・近世 常滑系』愛知県

目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

　第1節 地理的環境 1

　第2節 周辺の遺跡と歴史的環境 1

第Ⅱ章 平成 14 年度の調査

　第1節 平成 14 年度の調査体制 5

　第2節 興國寺城跡 5

第Ⅲ章 平成 19 年度の調査

　第1節 平成 19 年度の調査体制 14

　第2節 日吉廃寺跡・三芳町遺跡他 14

　第3節 静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内 24

　第4節 三明寺遺跡 26

　第5節 拓南遺跡 27

第Ⅳ章 平成 20 年度の調査

　第1節 平成 20 年度の調査体制 30

　第2節 三明寺遺跡・子ノ神遺跡 30

第Ⅴ章 平成 21 年度の調査

　第1節 平成 21 年度の調査体制 33

　第2節 岡宮北土地区画整理事業地内 33

　第3節 日吉廃寺跡 34

第Ⅵ章 平成 22 年度の調査

　第1節 平成 22 年度の調査体制 46

　第2節 三芳町遺跡 46

第Ⅶ章 平成 23 年度の調査

　第1節 平成 23 年度の調査体制 49

　第2節 岡宮北土地区画整理事業地内（六右エ門畠遺跡他） 49

第Ⅷ章 平成 24 年度の調査

　第1節 平成 24 年度の調査体制 53

　第2節 日吉廃寺跡 53

　第3節 岡宮北土地区画整理事業地内 60

　第4節 若松崎古墳群 61

第Ⅸ章 平成 25 年度の調査

　第1節 平成 25 年度の調査体制 63

　第2節 御幸町遺跡 63

　第3節 松長古墳群 66

　第4節 高架側道 7 号線 67

　第5節 御手洗池地区 69

第X章 平成 26 年度の調査	
第1節 平成 26 年度の調査体制	70
第2節 戸田石丁場	70
第3節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡他）	74
第4節 馬見塚古墳群	77
第XI章 平成 27 年度の調査	
第1節 平成 27 年度の調査体制	79
第2節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡・山神上遺跡他）	79
第3節 西浦久料石丁場	85
第XII章 平成 28 年度の調査	
第1節 平成 28 年度の調査体制	87
第2節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡・山神上遺跡）	87
第3節 西浦地内分布調査	94
主要参考・引用文献	96
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第 1 図	調査地位置図	2
第 2 図	興國寺城跡調査地位置図	5
第 3 図	興國寺城跡トレンチ配置図	6
第 4 図	興國寺城跡出土遺物実測図	6
第 5 図	興國寺城跡トレンチ 1 平面図・断面図	7
第 6 図	興國寺城跡トレンチ 2 平面図・断面図	8
第 7 図	興國寺城跡トレンチ 3 平面図・断面図	9
第 8 図	興國寺城跡トレンチ 4 平面図・断面図	10
第 9 図	興國寺城跡トレンチ 5 平面図・断面図	10
第 10 図	興國寺城跡トレンチ 6 平面図・断面図	11
第 11 図	興國寺城跡トレンチ 7 平面図・断面図	12
第 12 図	興國寺城跡トレンチ 8 平面図・断面図	13
第 13 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡調査地位置図	14
第 14 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 1 区トレンチ配置図・断面図	15
第 15 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 1 区柱穴列平面図・断面図	15
第 16 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 2 区 - 1 トレンチ配置図・断面図	16
第 17 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 2 区 - 2 トレンチ配置図・断面図	16
第 18 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 3 区トレンチ配置図・断面図	17
第 19 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 4 区トレンチ配置図・断面図	18
第 20 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 5 区トレンチ配置図・断面図	19
第 21 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 6 区トレンチ配置図・断面図	19
第 22 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡 7 区トレンチ配置図・断面図	20
第 23 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡出土遺物実測図 (1)	21
第 24 図	日吉庵寺跡・三芳町遺跡出土遺物実測図 (2)	22
第 25 図	静岡東部拠点第一地区上地区画整理事業地内調査地位置図	24
第 26 図	静岡東部拠点第一地区上地区画整理事業地内トレンチ配置図・断面図	25
第 27 図	三明寺遺跡調査地位置図	26
第 28 図	三明寺遺跡テストピット配置図・断面図	26
第 29 図	拓南遺跡調査地位置図	27
第 30 図	拓南遺跡出土遺物実測図	27
第 31 図	拓南遺跡テストピット配置図	28
第 32 図	拓南遺跡テストピット平面図・断面図	29
第 33 図	三明寺遺跡・子ノ神遺跡調査地位置図	30
第 34 図	三明寺遺跡・子ノ神遺跡テストピット配置図	31
第 35 図	三明寺遺跡・子ノ神遺跡テストピット平面図・断面図	32
第 36 図	岡宮北上地区画整理事業地内調査地位置図	33
第 37 図	日吉庵寺跡調査地位置図	34
第 38 図	日吉庵寺跡 1 区トレンチ配置図・断面図	35
第 39 図	日吉庵寺跡 2 区トレンチ配置図・断面図	36

第 40 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（1）	37
第 41 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（2）	38
第 42 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（3）	39
第 43 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（4）	40
第 44 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（5）	41
第 45 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（6）	42
第 46 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図（7）	43
第 47 図	三芳町遺跡調査地位置図	46
第 48 図	三芳町遺跡 1 区トレンチ配置図・断面図	47
第 49 図	三芳町遺跡 2 区・3 区トレンチ配置図・断面図	48
第 50 図	三芳町遺跡 2 区住居址 2 平面図・断面図	48
第 51 図	岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図	49
第 52 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 区テストピット配置図・断面図	50
第 53 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 区出土遺物実測図	50
第 54 図	岡宮北土地区画整理事業地内 2 区テストピット配置図・断面図	51
第 55 図	岡宮北土地区画整理事業地内 3 区テストピット配置図・断面図	52
第 56 図	日吉廃寺跡調査地位置図	53
第 57 図	日吉廃寺跡調査区全体図・断面図	55
第 58 図	日吉廃寺跡土坑 1 平面図・断面図	56
第 59 図	日吉廃寺跡土坑 3 平面図・断面図	56
第 60 図	日吉廃寺跡ピット平面図・断面図	57
第 61 図	日吉廃寺跡出土遺物実測図	58
第 62 図	岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図	60
第 63 図	岡宮北土地区画整理事業地内テストピット配置図・断面図	60
第 64 図	若松崎古墳群調査地位置図	61
第 65 図	若松崎古墳群平面図（広域）	61
第 66 図	若松崎古墳群平面図（詳細）・立面図	62
第 67 図	御幸町遺跡調査地位置図	63
第 68 図	御幸町遺跡テストピット配置図	64
第 69 図	御幸町遺跡テストピット平面図・断面図	65
第 70 図	松長古墳群調査地位置図	66
第 71 図	高架側道 7 号線調査地位置図	67
第 72 図	高架側道 7 号線テストピット配置図・基本土層図	68
第 73 図	高架側道 7 号線出土遺物実測図	68
第 74 図	御手洗池地区調査地位置図	69
第 75 図	御手洗池地区トレンチ配置図・断面図	69
第 76 図	戸田石丁場調査地位置図（広域）	71
第 77 図	戸田石丁場調査地位置図（詳細）	71
第 78 図	戸田石丁場平面図	72
第 79 図	戸田石丁場刻石（1）「ほそ川越中守石場」	73

第 80 図	戸田石丁場刻石（2）	73
第 81 図	岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図	74
第 82 図	岡宮北土地区画整理事業地内宮久保地区テストピット配置図	74
第 83 図	岡宮北土地区画整理事業地内伊右エ門烟地区テストピット配置図・断面図	75
第 84 図	岡宮北土地区画整理事業地内伊右エ門烟地区出土遺物実測図	76
第 85 図	馬見塚古墳群調査地位置図	78
第 86 図	岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図	79
第 87 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査 1 区テストピット配置図・断面図	80
第 88 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査 2 区・3 区テストピット配置図・断面図	81
第 89 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査 4 区・5 区テストピット配置図	81
第 90 図	岡宮北土地区画整理事業地内 2 次調査テストピット配置図	82
第 91 図	岡宮北土地区画整理事業地内 2 次調査テストピット平面図・断面図	83
第 92 図	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図	84
第 93 図	西浦久料石丁場調査地位置図	85
第 94 図	西浦久料石丁場平面図	86
第 95 図	西浦久料石丁場立面図	86
第 96 図	岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図	87
第 97 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査テストピット配置図	88
第 98 図	岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査テストピット平面図・断面図	89
第 99 図	岡宮北土地区画整理事業地内 2 次調査テストピット配置図・断面図	90
第 100 図	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（1）	91
第 101 図	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（2）	92
第 102 図	西浦地内分布調査地位置図	95

挿表目次

第 1 表	調査位置一覧表	3
第 2 表	興國寺城跡出土遺物観察表	7
第 3 表	日吉廐寺跡・三芳町遺跡出土遺物観察表	23
第 4 表	拓南遺跡出土遺物観察表	29
第 5 表	日吉廐寺跡出土遺物観察表（1）	43
第 6 表	日吉廐寺跡出土遺物観察表（2）	44
第 7 表	日吉廐寺跡出土遺物観察表（3）	45
第 8 表	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表	50
第 9 表	日吉廐寺跡出土遺物観察表	59
第 10 表	高架側道 7 号線出土遺物観察表	68
第 11 表	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表	76
第 12 表	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表	84
第 13 表	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表（1）	92
第 14 表	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表（2）	93

写真図版目次

- 巻頭カラー図版 平成 21 年度 日吉庵寺跡出土博仏 S= 1 / 1
(左:写真 右:博仏の3次元レーザースキャナーによる画像 (PEAKIT) を編集)
平成 26 年度 戸田石丁場刻石「ほそ川越中守石場」
- PL. 1 平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 1 (北東より)
平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 2 (西より)
平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 3 (北より)
- PL. 2 平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 4 (南東より)
平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 5 (南より)
平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 6 (北より)
- PL. 3 平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 7 (東より)
平成 14 年度興国寺城跡トレンチ 8 (東より)
平成 14 年度興国寺城跡出土遺物
- PL. 4 平成 19 年度日吉庵寺跡・三芳町遺跡 1 区トレンチ 5 (西より)
平成 19 年度日吉庵寺跡・三芳町遺跡 6 区トレンチ (北より)
平成 19 年度日吉庵寺跡・三芳町遺跡出土遺物 (1)
- PL. 5 平成 19 年度日吉庵寺跡・三芳町遺跡出土遺物 (2)
平成 19 年度日吉庵寺跡・三芳町遺跡出土遺物 (3)
- PL. 6 平成 19 年度静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内掘立柱建物跡 (西より)
平成 19 年度静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内出土遺物
平成 19 年度三明寺遺跡テストピット 2
- PL. 7 平成 19 年度拓南遺跡テストピット 7 (西より)
平成 19 年度拓南遺跡出土遺物
平成 20 年度三明寺遺跡・子ノ神遺跡テストピット 13 (北より)
- PL. 8 平成 21 年度日吉庵寺跡 1 区トレンチ 1 北側遺構検出状況 (南より)
平成 21 年度日吉庵寺跡 2 区トレンチ 1 遺物出土状況 (北より)
平成 21 年度日吉庵寺跡 2 区トレンチ 3 遺物出土状況 (東より)
- PL. 9 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (1)
- PL. 10 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (2)
- PL. 11 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (3)
- PL. 12 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (4)
- PL. 13 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (5)
- PL. 14 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (6)
- PL. 15 平成 21 年度日吉庵寺跡出土遺物 (7)
- PL. 15 平成 22 年度三芳町遺跡 1 区トレンチ 3 住居址 1 (北より)
平成 22 年度三芳町遺跡 2 区トレンチ 2 住居址 2 (北より)
平成 23 年度岡宮北土地区画整理事業地内 1 区テストピット 2 (北より)
- PL. 16 平成 23 年度岡宮北土地区画整理事業地内 2 区テストピット 6 (西より)
平成 23 年度岡宮北土地区画整理事業地内 3 区テストピット 10 (北より)
平成 23 年度岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物

- PL.17 平成 24 年度日吉廐寺跡南壁土層断面図（北より）
平成 24 年度日吉廐寺跡穴掘状況（西より）
平成 24 年度日吉廐寺跡土坑 3 遺物出土状況（南より）
- PL.18 平成 24 年度日吉廐寺跡出土遺物（1）
PL.19 平成 24 年度日吉廐寺跡出土遺物（2）
平成 24 年度岡宮北土地区画整理事業地内テストピット 3（南より）
平成 25 年度御幸町遺跡テストピット 9（東より）
- PL.20 平成 25 年度御幸町遺跡テストピット 10（東より）
平成 25 年度高架側道 7 号線テストピット 2（南西より）
平成 25 年度高架側道 7 号線テストピット 3（南西より）
- PL.21 平成 25 年度高架側道 7 号線出土遺物
平成 25 年度御手洗池地区テストピット（北より）
平成 26 年度岡宮北土地区画整理事業地内伊右エ門畠地区溝状遺構（南より）
- PL.22 平成 26 年度岡宮北土地区画整理事業地内伊右エ門畠地区出土遺物
平成 27 年度岡宮北土地区画整理事業地内 2 次調査テストピット 5（南東より）
- PL.23 平成 27 年度岡宮北土地区画整理事業地内 2 次調査出土遺物
平成 27 年度西浦久料石丁場矢穴石
平成 28 年度岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査テストピット 6（東より）
- PL.24 平成 28 年度岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物
PL.25 平成 28 年度西浦地内分布調査立保地区（1）
平成 28 年度西浦地内分布調査立保地区（2）
平成 28 年度西浦地内分布調査立保地区（3）
- PL.26 平成 28 年度西浦地内分布調査重須地区表面探集遺物（1）
平成 28 年度西浦地内分布調査重須地区表面探集遺物（2）
平成 28 年度西浦地内分布調査木負地区表面探集遺物

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

沼津市は、駿河湾最奥部の東側から伊豆半島西海岸の北端に位置する。北部には愛鷹山がそびえ、その南側にはかつて浮島沼と呼ばれ、その後、湿地帯となる浮島ヶ原が広がる。さらに、南側の海岸線沿いには富士市田子の浦から狩野川河口に続く富士川起源の千本砂礫州が形成されている。千本砂礫州は、約10,000年前から6,000年前にかけての海面上昇により、富士川の砂礫が沿岸流によって運ばれ、砂礫州の形成が開始された。約5,000になると、海面下降により、砂礫州は離水し、約4,000年前にはさらに海側に砂礫州が形成されるようになる。その後、再び海側に砂礫の堆積が始まり、約2,000年前には現在の姿になったと考えられている。

浮島ヶ原の東側に広がる現在の市街地は黄瀬川扇状地の南西部に位置し、黄瀬川扇状地は約3,190年前から3,060年前にかけて相次いで発生した天城カワゴ平火山活動起源による土石流や、約2,900年前の富士山東斜面の山体崩壊によって黄瀬川流域を流下した御殿場泥流堆積物で構成されている。

狩野川以南に静浦山地が連なり、伊豆半島西海岸部は、達磨火山が海岸に迫る地形を呈しており、内浦地区から大瀬崎へ続く海岸線は、岬と入り江がありくんだリス海岸となっている。大瀬崎から南側に広がる西海岸では、北流する黒潮、偏西風による波の作用によって海食崖が発達しており、その影響から大瀬崎や御浜岬のように南から北へ延びる砂嘴が形成されている。かつては達磨火山と接する形で井田火山、大瀬崎火山が存在していたが、いずれも浸食によって元の山体を残していないため大きさは定かではない。このように伊豆半島北西地域は急峻な山地が広がることから集落の多くは小河川によって形成された狭い沖積地に営まれている。

今回報告する遺跡・調査地は、愛鷹山麓・千本砂礫州・黄瀬川扇状地・伊豆半島西海岸に所在する。愛鷹山麓では興国寺城跡（1）、三明寺遺跡・子ノ神遺跡（4・6）、拓南遺跡（5）、六右エ門烟遺跡とその周辺（7・10）、土狩烟遺跡隣接地（12）、山神上遺跡周辺（19・21）大泉寺烟遺跡・山神上遺跡（23）の試掘・確認調査、馬見塚古墳群（20）の分布調査を行った。調査対象地はいずれも尾根上である。千本砂礫州では松長古墳群（15）の分布調査を行った。黄瀬川扇状地及びその周辺部では、日吉庵寺跡（2・8・11）の本发掘調査および確認調査、杉崎町遺跡隣接地（3）、三芳町遺跡（9）、御幸町遺跡（14）、高架側道7号線（16）、御手洗池地区（17）の試掘・確認調査を行った。御手洗池地区を除く調査地点で黄瀬川扇状地堆積物が認められている。伊豆半島西海岸では若松崎古墳群（13）、戸田石丁場遺跡（18）、西浦久料石丁場遺跡（22）の測量調査、西浦内地内遺跡分布調査（24）を行った。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

旧石器時代

旧石器時代の遺跡の多くは、愛鷹山南麓の緩斜面で確認されている。愛鷹山で人間活動が開始されたのは後期にあたる38,000年前頃であり、火山活動による断絶を挟みながら13,000年前頃まで続いた。愛鷹山麓で最も古い石器群は、井出字堀込地先の愛鷹山の丘陵裾部に位置する井出丸山遺跡で認められており、愛鷹中部ローム直上の第IVスコリア層から第VII黒色帶にかけて出土している。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、草創期から後期にわたって愛鷹山南麓で確認されている。愛鷹運動公園内に位置する葛原沢第IV遺跡では草創期後半の竪穴住居址を検出しており、全国的に貴重な例である。

平野部では、9,000年前頃からの海面上昇により西部の千本砂礫州の堆積がさらに進み、その後、海面下降によって浮島ヶ原周辺が次第に陸化したことから、中期から後期にかけて離鹿塚遺跡や雄鹿塚



第1図 調査地位置図

第1表 調査位置一覧表

No.	年度	調査区分	遺跡名・事業名	No.	年度	調査区分	遺跡名・事業名
1	H14	確認調査	興國寺城跡	13	H24	測量調査	若松崎古墳群
2	H19	試掘・確認調査	日吉庵寺跡・三芳町遺跡	14	H25	確認調査	御幸町遺跡
3		試掘調査	静岡東部拠点第一地区 土地区画整理事業地内	15		分布調査	松長古墳群・大塚古墳群
4		確認調査	三明寺遺跡	16		試掘調査	高梁側道7号線
5		試掘調査	拓南遺跡	17		試掘調査	御手洗池地区
6	H20	確認調査	三明寺遺跡・子ノ神遺跡	18		測量調査	戸田石丁場
7	H21	試掘調査	岡宮北土地地区画整理事業地内	19	H26	試掘・確認調査	大泉寺畠遺跡他
8		確認調査	日吉庵寺跡	20		分布調査	馬見塚古墳群他
9	H22	確認調査	三芳町遺跡	21		試掘・確認調査	大泉寺畠遺跡・山神上遺跡他
10	H23	試掘・確認調査	六右門畠遺跡他	22		測量調査	西浦久料石丁場
11	H24	本発掘調査	日吉庵寺跡	23	H27	確認調査	大泉寺畠遺跡・山神上遺跡
12		試掘調査	岡宮北土地地区画整理事業地内	24		分布調査	西浦地内

遺跡、鳥沢遺跡、下道遺跡などが認められるようになる。後期になると遺跡数は極端に減り、晚期になると愛鷹山麓上ではほぼ存在しなくなるが、浮島沼周辺に立地する雌鹿塚遺跡や雄鹿塚遺跡は晚期まで継続している。

伊豆半島西海岸では長井崎遺跡や権現台遺跡などが確認されており、いずれも早期から晚期まで断続的に営まれた集落跡である。戸田地区では縄文時代の遺跡はほとんど認められていないが、部田神社の北側より黒曜石製石鎌が出土している。また、井田地区で縄文土器片が出土しており、これらの遺物から戸田・井田地区は、中期以降、人間活動の場になっていたと考えられる。

弥生時代

弥生時代になると、標高の低い地域に集落が形成されるようになる。例えば、大平地区に所在する丸山遺跡や、愛鷹山の山裾端部に所在する葱川遺跡など縄文時代から弥生中期まで続く集落や、千本砂礫州上に西通北遺跡や軒通遺跡、中通遺跡など弥生中期に形成される集落が出現する。後期後半になると愛鷹山麓では植出遺跡や八兵衛洞遺跡、八兵衛屋敷遺跡、尾上Ⅱ橋遺跡、尾上Ⅲ橋遺跡、尾上Ⅳ橋西遺跡、北神馬土手遺跡、二本松遺跡などの集落が多数出現する。弥生時代後期後葉から終末期になると、中見代Ⅰ遺跡や植出遺跡、尾上Ⅲ橋西遺跡など丘陵上に立地する遺跡で方形周溝墓が確認されるようになる。

狩野川下流域では沢田遺跡や尾崎遺跡、豆生田遺跡、御幸町遺跡など新たな集落が出現する。

また、伊豆半島北西地域では縄文時代から続く長井崎遺跡や権現台遺跡、戸田・井田地区では小山田遺跡や井田遺跡が営まれている。

古墳時代

古墳時代になると、千本砂礫州上には前方後円墳である神明塚古墳、愛鷹山麓地域には前方後方墳である高尾山古墳や前方後円墳である長塚古墳、子ノ神古墳など、市内では大型の古墳が築造される。古墳時代後期には、市内全域にかけて墳丘が小型化し特定の範囲に密集するようになり、愛鷹山麓では石川古墳群や東原古墳群、狩野川下流域では天神洞古墳群などが築かれる。

また、狩野川下流域や伊豆半島北西地域では、凝灰岩の崖面を利用した靈山寺横穴群や江浦横穴群などの横穴墓も築かれている。弥生時代後期後半に愛鷹山麓に出現した集落は、古墳時代初頭になると急

速に衰退する。古墳時代前期の集落は、狩野川下流域の低地に営まれるようになり、藤井原遺跡や御幸町遺跡、豆生田遺跡などがその例である。しかし中期になるとまとまつた集落の検出が少なくなる。これは、藤井原遺跡で中期の住居址を覆う厚い砂質層が認められることから、古墳時代中頃の海進など自然環境の変化が集落のあり方を一変させたとの見方もある。古墳時代後期の集落は、狩野川下流域では、前期から継続して営まれている御幸町遺跡や豆生田遺跡、千本砂礫州上の鳥沢遺跡、下道遺跡、東畠毛遺跡などで確認されている。

古代

沼津市北部は、古代郡国制では駿河国駿河郡に属する。沼津市は、「東のうみづみち」と呼ばれた東海道の東端に位置しており、馬や堅魚、紙、絹織物などを都へ納めるための拠点として重要な地域であった。そのようなことから、必然的に中央との関係も強いものとなり、藤井原遺跡や御幸町遺跡のように郡衙関連と推測される集落が繁栄することとなった。特に、8世紀前葉に位置付けられる清水柳北一号墳は、上円下方墳を呈し火葬墓であることから中央官人層の墳墓とされるなど、中央との密接な関係を物語っている。

奈良時代になると中央集権による国家体制が確立し、民衆統治の精神的なよりどころあるいは新しい文化波及の拠点として各地に仏教寺院が建立された。黄瀬川扇状地端に位置する日吉庵寺は、国分寺等の建立に先立ち、この地域を支配した豪族の氏寺として建立されたものと考えられる。

中世

中世の沼津は、駿河・伊豆・相模及び甲斐のほぼ境目となるため、政治的、軍事的にきわめて重要な地域であった。愛鷹山の山裾に走る根方街道沿いには、興国寺城や東熊堂砦などが築かれるようになり、在地土豪層も屋敷を構えるようになる。内浦地域には北条氏の重要な水軍基地である長浜城が築城され、狩野川下流域には小田原の北条氏に備えて武田勝頼により三枚橋城が築城された。

近世以降

慶長18年（1613）、三枚橋城の城主であった大久保忠佐の死により三枚橋城が廃城となった後も、周辺は城下町から東海道の宿場町として発展した。安永6年（1777）、水野忠友により三枚橋城の跡地を利用して沼津城が築かれると、宿場町としてだけでなく、再び城下町として栄えた。明治時代になると沼津城は廃城となり、旧沼津城の二の丸跡を利用して沼津兵学校が開設される。兵学校が東京に移転したのち、旧沼津城の跡地は競売にかけられ、度重なる大火や道路の建設などにより堀が埋められ、現在では城郭の痕跡はほとんど認められず地名が残るのみである。

第II章 平成14年度の調査

第1節 平成14年度の調査体制

平成14年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	長澤靖夫
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	三澤幸男
	文化振興課	課 長	大澤敏夫
		課 長 補 佐	鈴木裕篤・望月孝夫
		文化財調査係長	高尾好之
		文化財管理係長	山本恵一
調査担当者			
興国寺城跡確認調査		文化財管理係長	山本恵一
		臨時嘱託	長野裕之

第2節 興国寺城跡

所在地

沼津市根古屋字赤池 126-3 外

調査面積

453m² (周知面積 383,000m²)

調査期間

平成14年9月17日～平成15年3月25日

調査原因

史跡の保存整備事業に伴う遺構分布状況の確認

遺跡の概要

興国寺城跡は、JR原駅の北約6.5kmに位置し、笛山と呼称される舌状丘陵地上に立地している。興国寺城跡の築城時期は、16世紀半ばとされ、魔城は慶長12年(1607)の天野康景出奔による破却が契機とされる。

当城跡は平成7年には国指定史跡となり、現在も保存 第2図 興国寺城跡調査地位置図

整備事業が継続されている。

また、城郭遺構の下層には、弥生時代や古墳時代の遺構や遺物も確認されている。

調査の概要

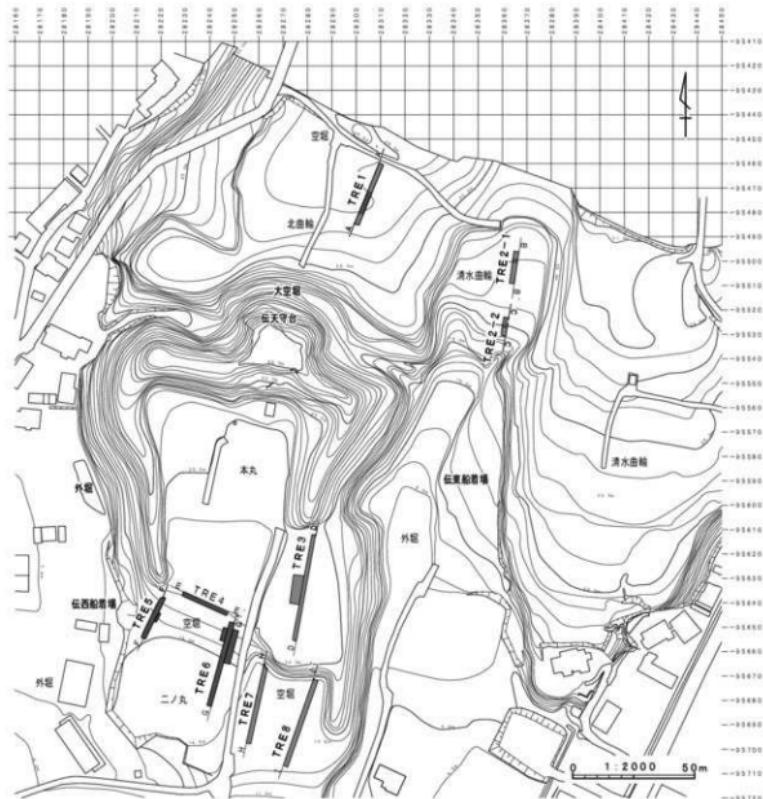
調査は、北曲輪、清水曲輪、本丸等にトレーニング (以下TRE) を8か所設定し、重機による表土掘削後、人力による掘り下げを行い、空堀や土壁の有無、曲輪等の造成状況の確認を行った。

調査の結果

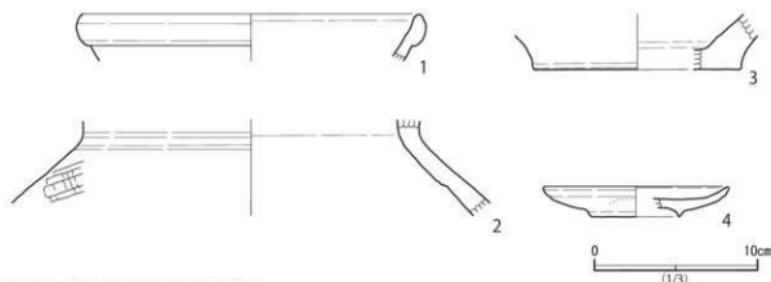
TRE 1では北曲輪に設置された空堀の南側部分を確認した。TRE 2では清水曲輪の造成状況を確認した。TRE 3では、かつて石矢台南側に存在していた櫓台が、昭和期に崩され、曲輪が埋め戻されている状況を確認した。TRE 4では石組水路を確認した。この石組水路は南北方向に延びている。TRE 5とTRE 6では、本丸と二の丸を分断する空堀の一部を確認した。さらにTRE 6からは、三日月堀の痕跡も確認できた。TRE 7及びTRE 8では空堀の一部を確認した。出土遺物は、弥生時代後



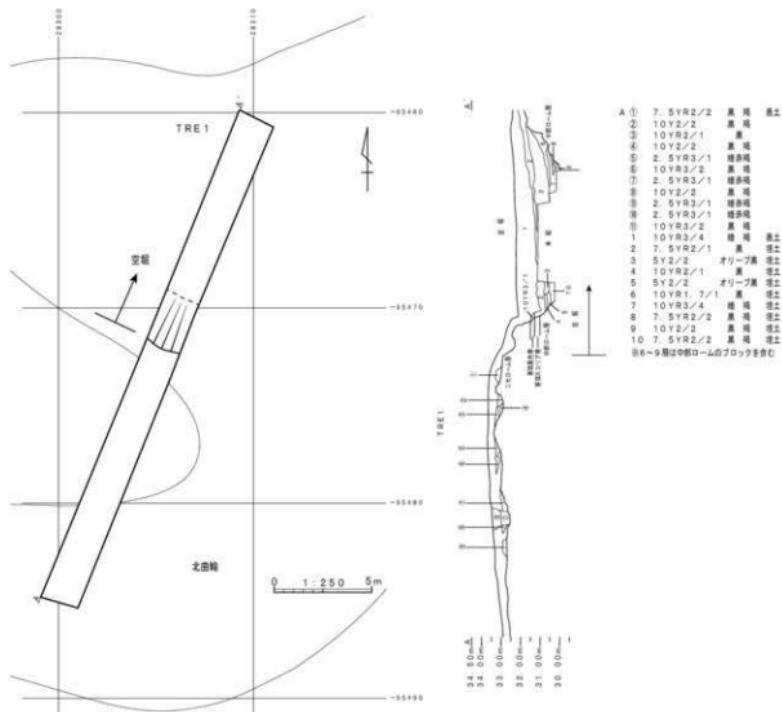
第2図 興国寺城跡調査地位置図



第3図 興国寺城跡トレンチ配置図



第4図 興国寺城跡出土遺物実測図



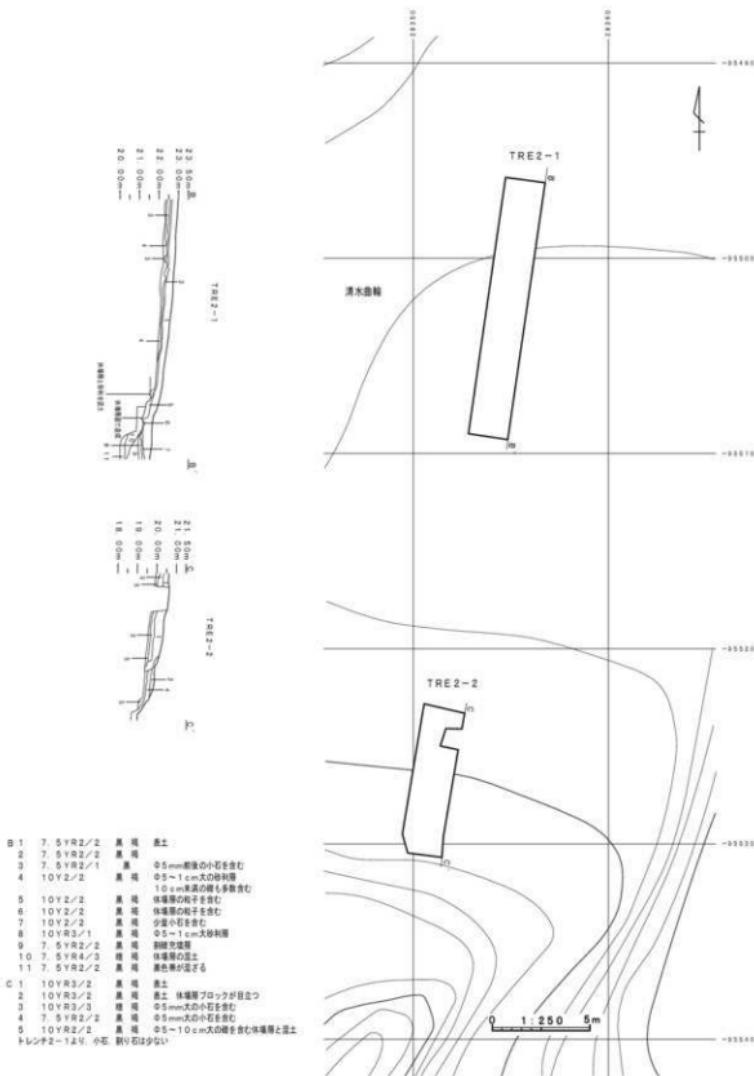
第5図 興国寺城跡トレンチ1平面図・断面図

期から古墳時代前期の土器や中世以降の土器、陶磁器類、古銭（元豐通寶（1078年））などである。

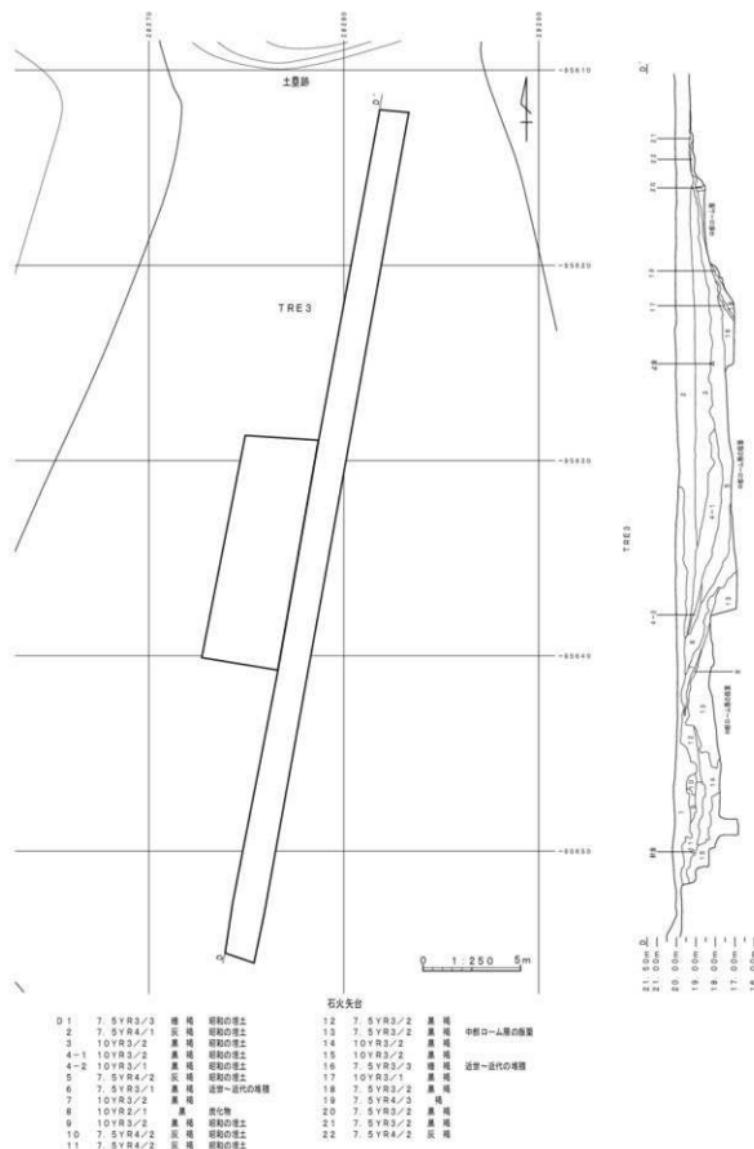
出土した遺物は4点を図示した(第4図)。1は瀬戸・美濃産の播鉢である。大窯第3段階前半にあたる。2は常滑産の甕の頸部である。13世紀代と考えられる。3は常滑産の甕の底部である。13世紀から15世紀代である。4は近世初期の志戸呂産の皿である。

第2表 興國寺城跡出土遺物觀察表

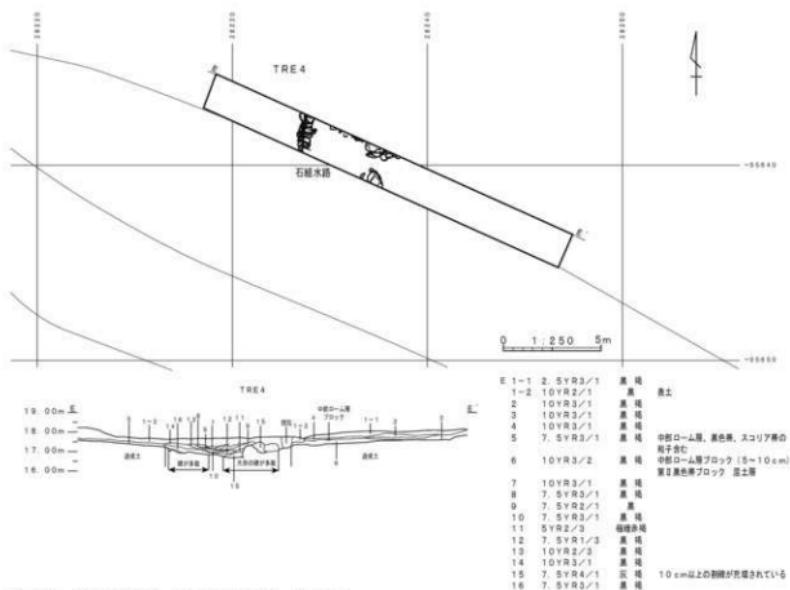
固废 编号	废物名 称	三土地类 型	固废 特征 (物理 化学 性质 (cm))	附土	情况	色固	堆放部位	产地	备注
第4固 1	-	TRES	(20.4) — —	否	良	735YR-1 深灰色	目碌砾	客户-美资	大深坑3阶段前半
第4固 2	-	-	- — —	腐殖	良好	735YR-4 浅色	砾部	来港	ISO 10
第4固 3	-	TRES	- — (12.8)	微密	良好	235YR-1 深灰色	砾部	来港	ISO 10-150代
第4固 4	-	-	(11.2) (1.4) (3.2)	疏松	良好	735YR-1 浅灰	目碌砾→砾部	芯芦园	170初破



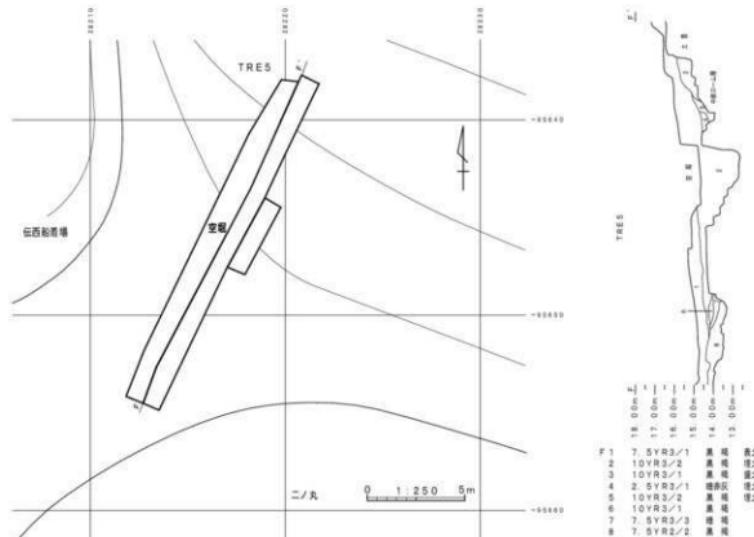
第6図 興國寺城跡トレンチ2平面図・断面図



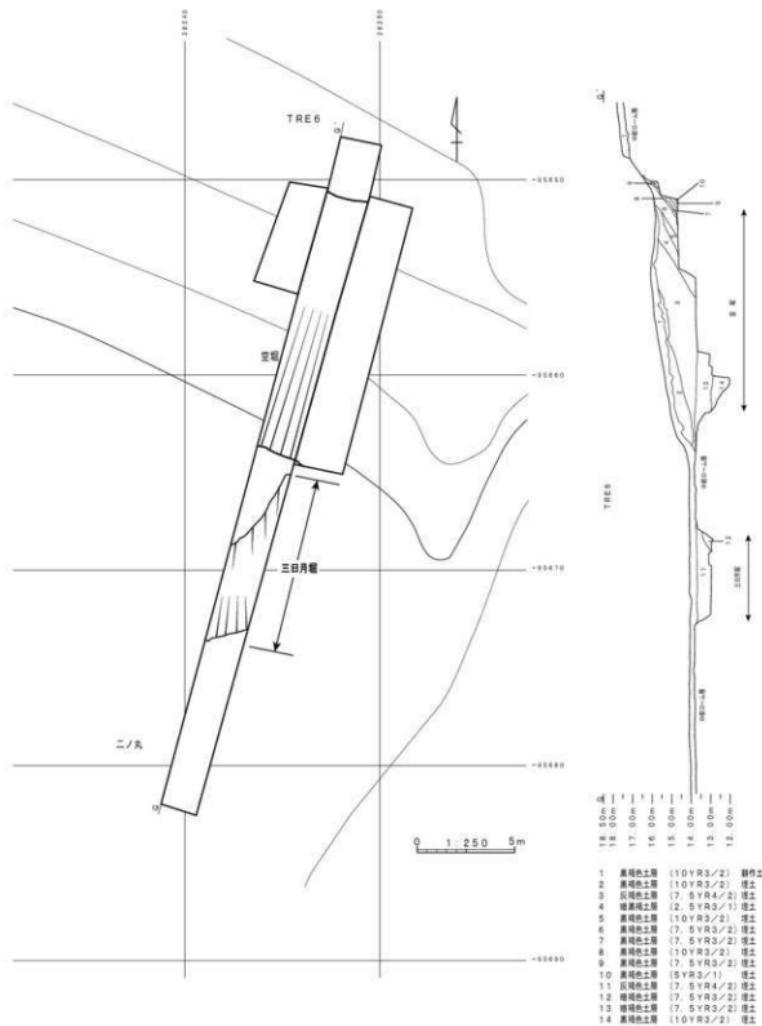
第7図 興國寺城跡トレンチ3平面図・断面図



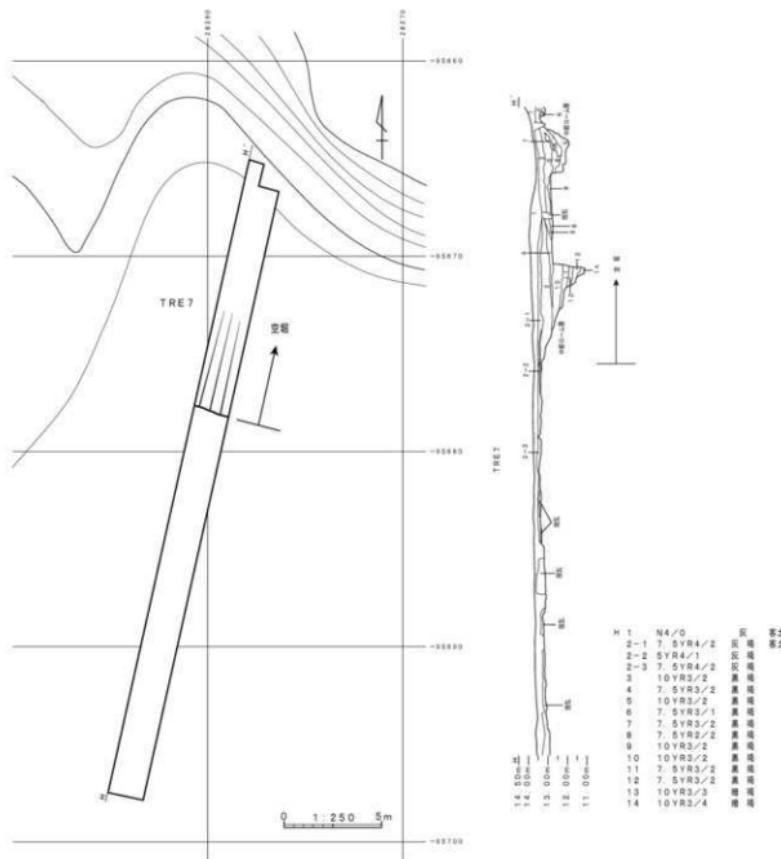
第8図 興國寺城跡トレーンチ4平面図・断面図



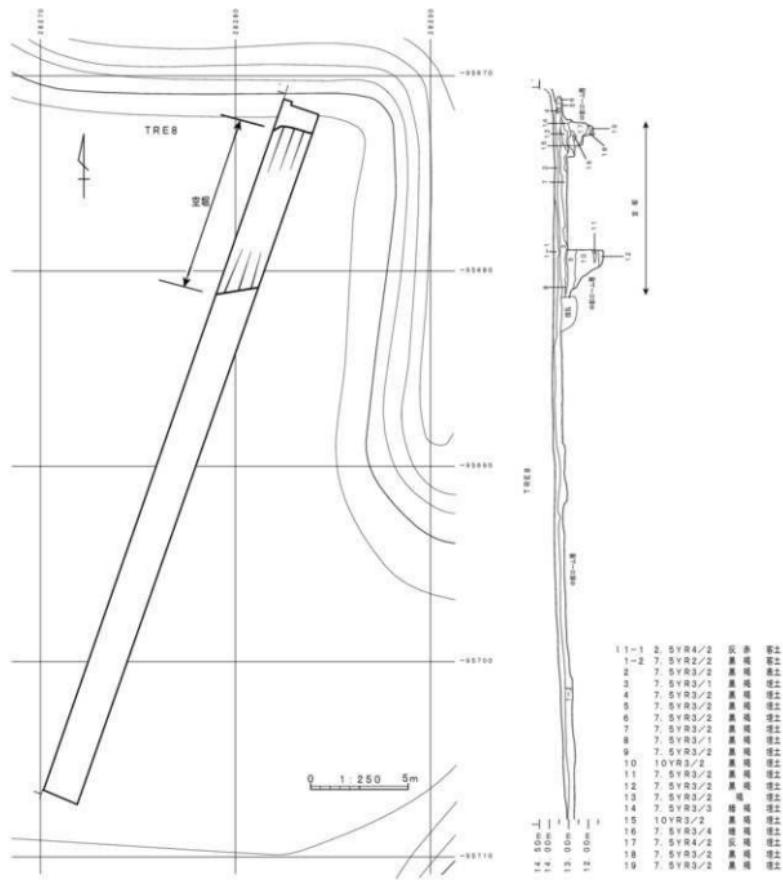
第9図 興國寺城跡トレーンチ5平面図・断面図



第10図 興國寺城跡トレンチ6平面図・断面図



第 11 図 興國寺城跡トレント 7 平面図・断面図



第12図 興国寺城跡トレンチ8平面図・断面図

第Ⅲ章 平成 19 年度の調査

第1節 平成 19 年度の調査体制

平成 19 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教育長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教育次長	村上益男
	文化振興課		

課長	鈴木敬人
副参事	鈴木裕篤
課長補佐	後藤 豊
文化財調査係長	高尾好之

調査担当者

日吉廃寺跡・三芳町遺跡試掘・確認調査	文化財調査係長	高尾好之
静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内試掘調査	文化財調査係長	高尾好之
三明寺遺跡確認調査	文化財調査係長	高尾好之
拓南遺跡試掘調査	文化財調査係長	高尾好之

第2節 日吉廃寺跡・三芳町遺跡他

所在地

沼津市富士見町 167-1 外

調査面積

616.8m² (工事対象面積 5335.92m²)

調査期間

平成 19 年 11 月 6 日～平成 19 年 12 月 19 日

調査原因

静岡東部拠点第二地区土地区画整理事業

遺跡の概要

日吉廃寺跡は JR 沼津駅の北東約 1 km に位置する。

黄瀬川扇状地端の低台地上に立地する弥生時代から平安時代までの散布地、集落跡、寺院跡である。大正 6 年には、丹那トンネル開設に伴う東海道熱海線の敷設による塔跡の発掘調査が行われた。その後、昭和 34 年から昭和 38 年にかけて日本大学が中心となり発掘調査を実施しており、昭和 41 年には、発掘調査担当者によって、金堂跡や塔跡、礎石、回廊といった古代寺院に関する重要構造の概要報告が行われている。

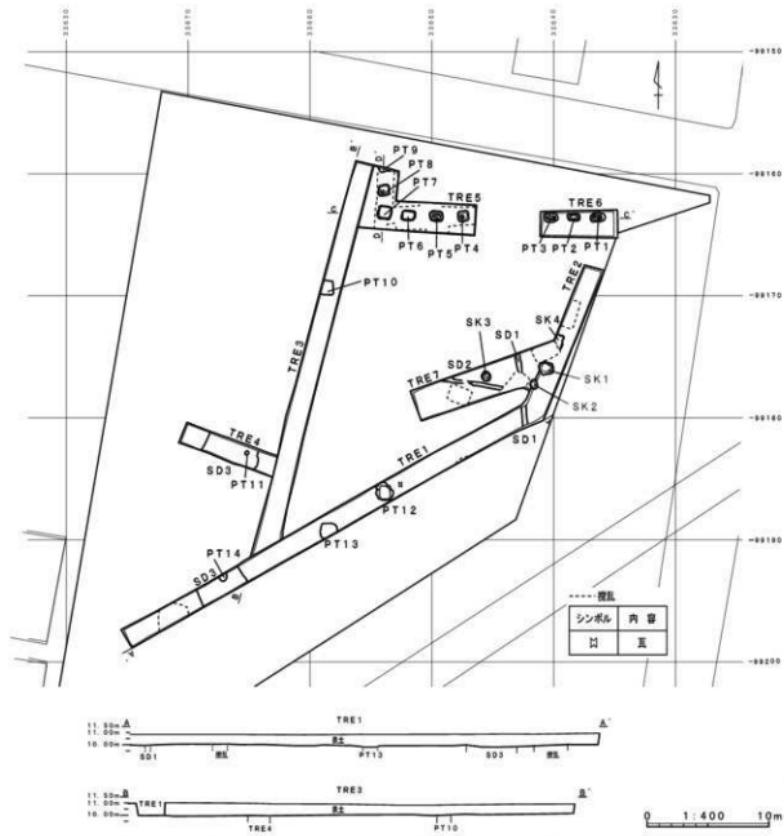
昭和 45 年には山神社境内（塔跡）が沼津市指定史跡となり、昭和 52 年に指定範囲内の確認調査と復元整備が行われ、史跡公園となった。平成 19 年からは鉄道高架化事業に伴う区画整理事業の確認調査、本発掘調査を実施している。

三芳町遺跡は、JR 沼津駅から東へ約 500 m に位置する。黄瀬川扇状地端の低台地上に立地し、弥生時代後期から中世にかけて断続的に営まれた集落跡である。なお、平成 13 年度には、遺跡内的一部分が本発掘調査され、平成 16 年度に報告書が刊行されている。

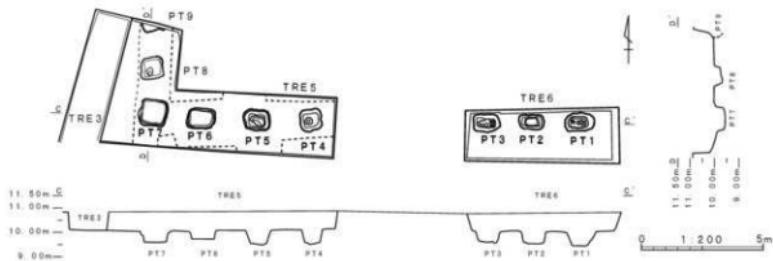
調査の概要

調査対象地は富士見町から三芳町へかけて点在するため、便宜的に 7 つの区を設けた。それぞれの

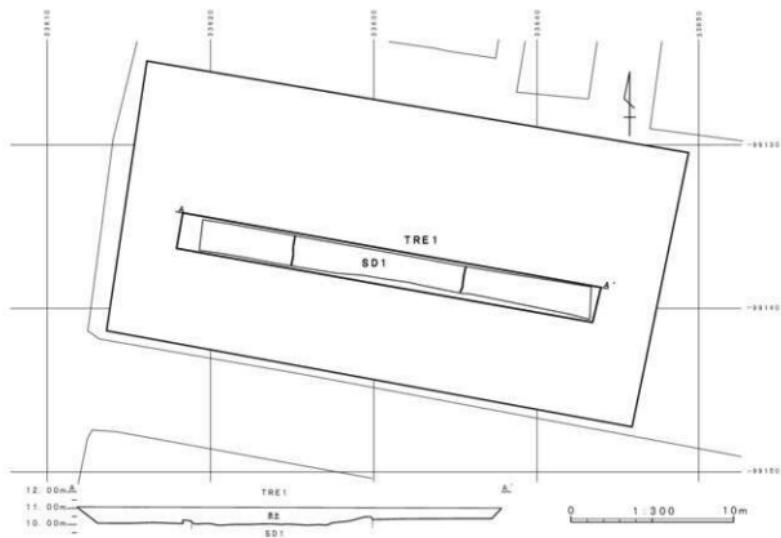




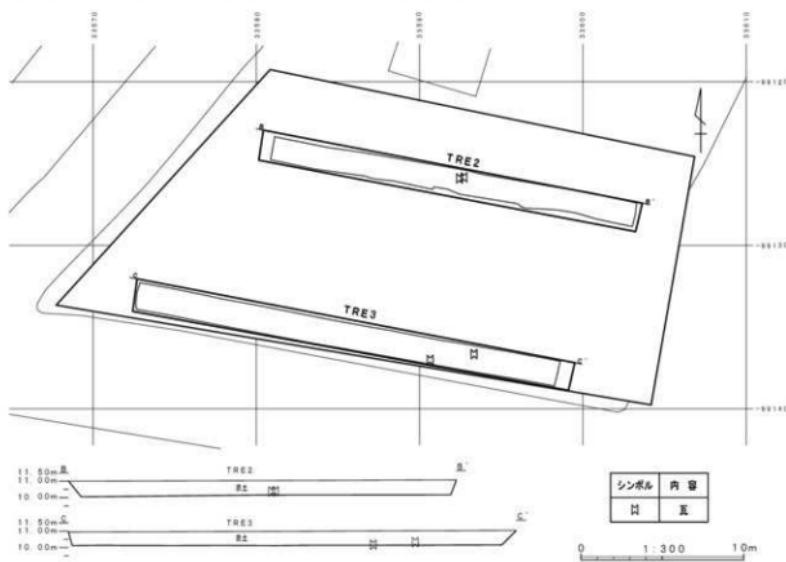
第14図 日吉廃寺跡・三芳町遺跡1区トレンチ配置図・断面図



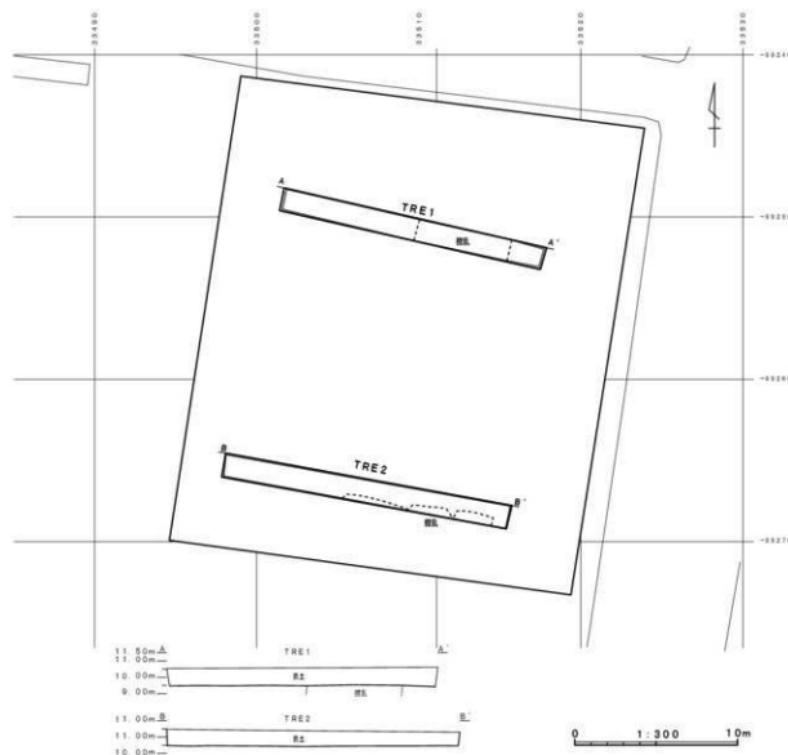
第15図 日吉磨寺跡・三芳町遺跡 1区柱穴列平面図・断面図



第16図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡2区-1トレンチ配置図・断面図



第17図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡2区-2トレンチ配置図・断面図



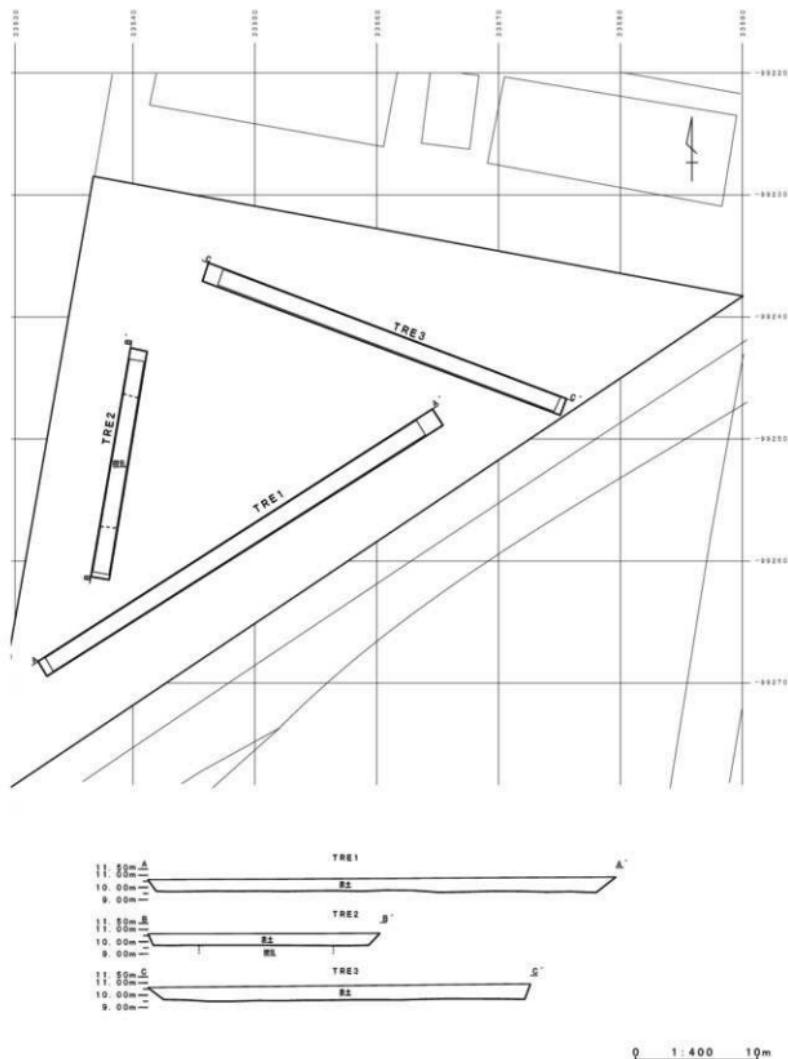
第18図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡3区トレンチ配置図・断面図

区にトレンチを設定し、重機と人力を併用して掘り下げを行った。検出した遺物と遺構は、測量や写真撮影による記録保存を行った。

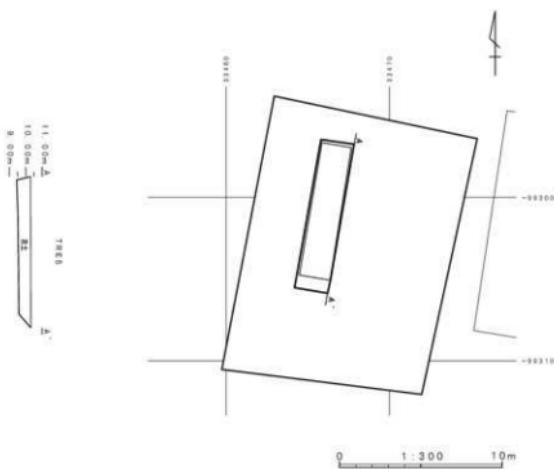
調査の結果

調査の結果、1・2・6・7区で遺構を検出した。検出された遺構は、1区で溝状遺構3条、土坑4基、ピット14基（第14図・第15図）、2区で溝状遺構1条（第16図）、6区で竪穴住居址1軒（第21図）、7区で竪穴住居址1軒、ピット12基である（第22図）。そのうち、1区は日本大学による調査範囲と重なっており、遺構の再確認をするに至った。

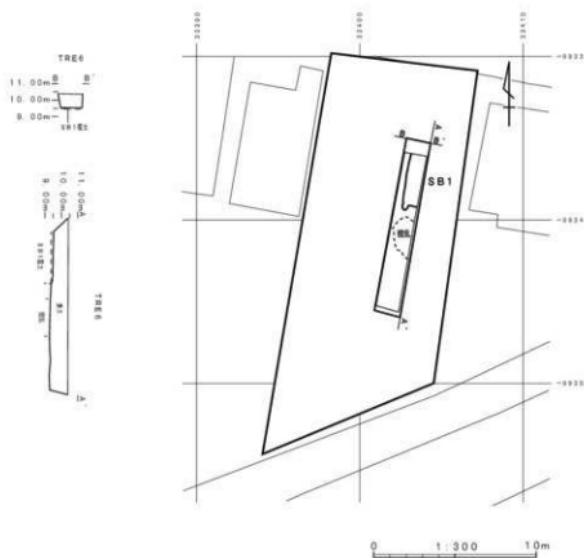
出土遺物は、土師器・須恵器・瓦等が出土しており、そのうち7点図示した（第23図・第24図）。1は須恵器の摘み蓋であり8世紀代に位置付けられる。2は9世紀後半頃の信州系統質須恵器の环身である。3と4はそれぞれ重圓文縁單弁八葉蓮華文様の軒丸瓦と四重弧文様の軒平瓦であり、7世紀後半に位置付けられる。5は扁行唐草文様の軒平瓦であり、8世紀半ば頃に位置付けられる。6は平瓦である。7は砥石である。



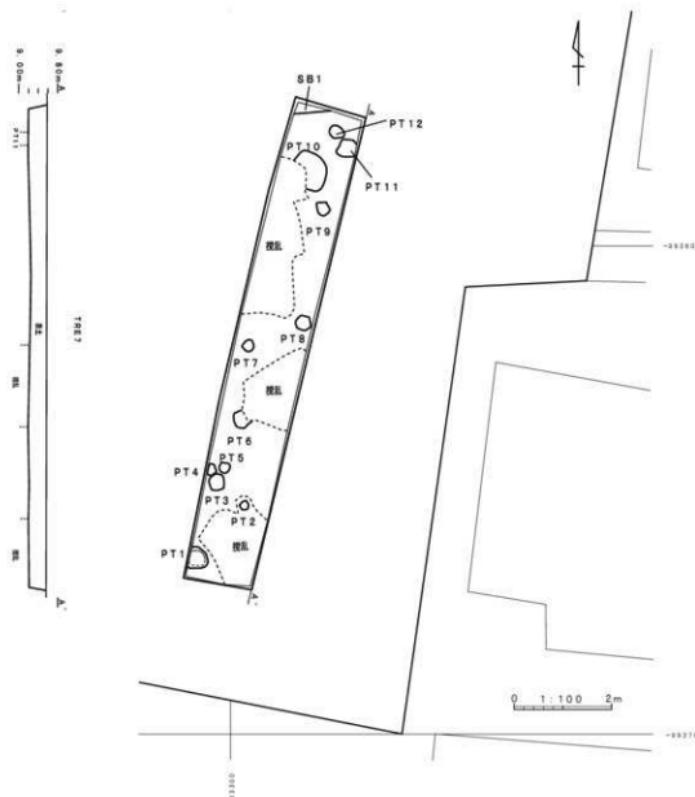
第 19 図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡 4 区トレンチ配置図・断面図



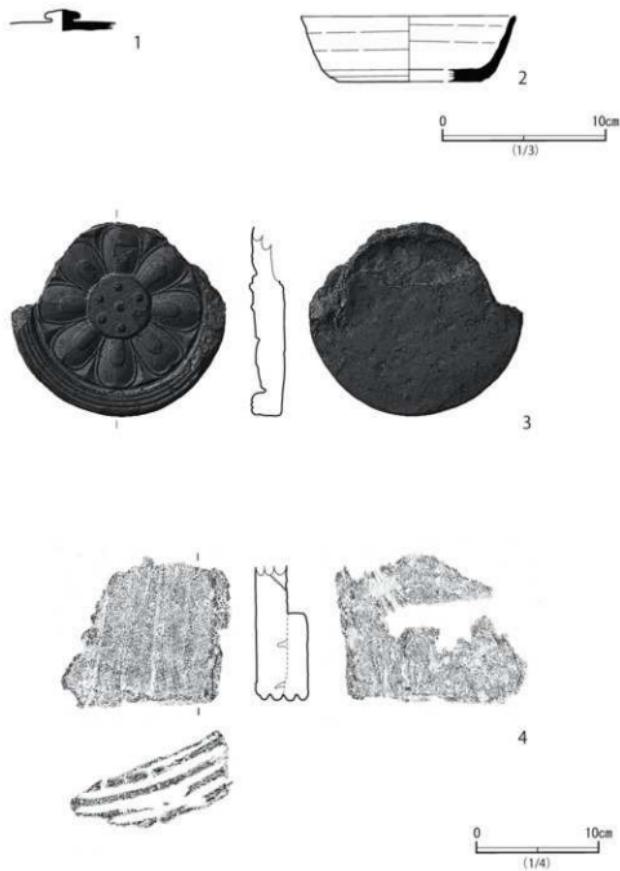
第20図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡5区トレンチ配置図・断面図



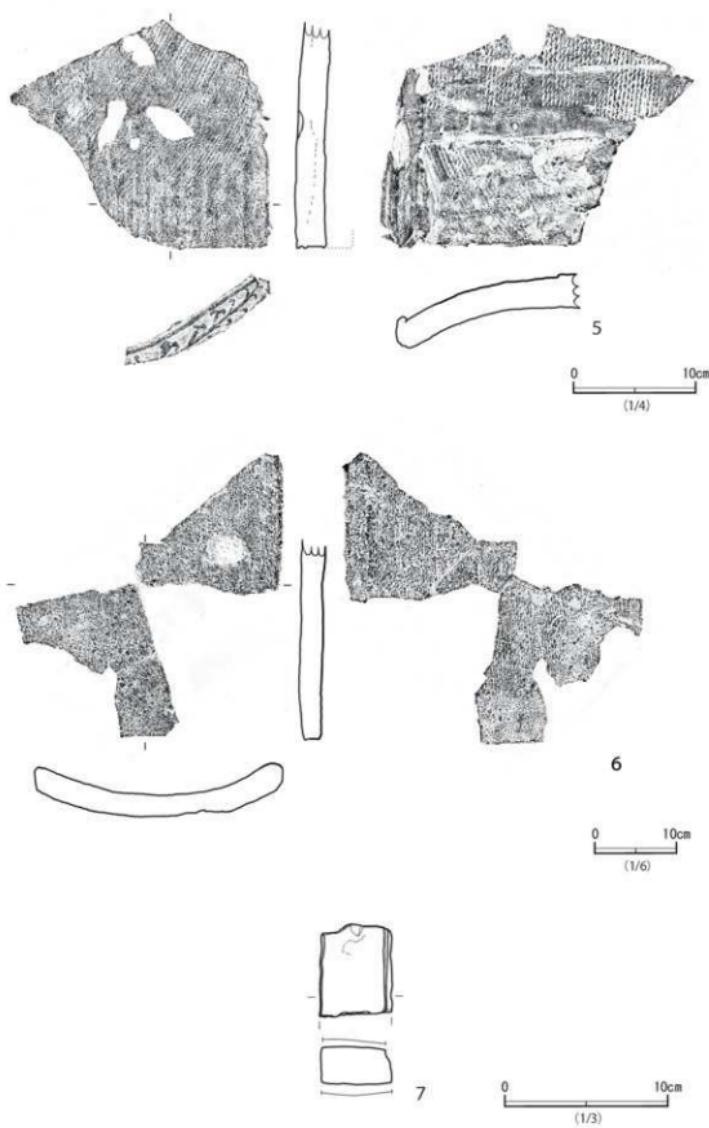
第21図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡6区トレンチ配置図・断面図



第 22 図 日吉庵寺跡・三芳町遺跡 7 区トレーニチ配置図・断面図



第 23 図 日吉廃寺跡・三芳町遺跡出土遺物実測図（1）



第 24 図 日吉廃寺跡・三芳町遺跡出土遺物実測図（2）

第3表 日吉庵寺跡・三芳町遺跡出土遺物観察表

土器

団体 番号	遺物 番号	出土地点	種類	口径 器高 底径 (cm)	胎土	焼成	色調	施作部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第22回 1	—	3区表様	灰面	12 —	白色・黑色・灰色 半透明釉粒	良好	25YR/1 黄灰色	天井部	右口クロ成形 腹宝珠状ツマミを有する	外面一部脚がかかる	V型(BC)
第23回 2	—	2区表様	灰肩	13.0 4.0 8.8	白色・黑色 赤色釉粒	较差	10YR/1 灰色	口縁部～底部	右口クロ成形	外面 ■転子テ、底部凹輪ヘラケズリ 内面 ■転子テ	IC後半 信州系

瓦

団体 番号	遺物 番号	出土地点	種類	分類	幅 (cm)	全長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	胎土 含合物 割密	焼成	色調	備考
第22回 3	—	1区表様	軒丸瓦	畫面大端 墨引八葉 蓮瓣文	瓦当重複 (31.0)	(34)	瓦当部 (2.0) 側面 (2.5)	瓦当部 方向ナデ	ケズリ	径 4cm 以下の 小石多量に含む やや密	良	凸面 25YR/1 黄灰色 凹面 23YR/1 黄灰色	
第22回 4	—	2区表様	斜平瓦	四垂机瓦	瓦当面積 (3.1) 瓦当重複 (31.0)	(31.0)	瓦当部 (4.2) 側面 (2.5)	厚成	布目 側面ケズリ	径 4cm 以下の 小石多量に含む やや密	良好	凸面 7.5YR/4 に近い褐色 凹面 5YR/4 に近い褐色	
第24回 5	—	2区表様	斜平瓦	舉行唐草文	瓦当面積 (3.0) 瓦当重複 (31.0)	(31.5)	瓦当部 (2.6) 側面 (2.4)	磚目切き、一部横方向ナデ	布目、ケズリ、糸切り痕 一部ケズリ	径 3cm 以下の 小石少量に含む やや密	良好	凸面 10YR/2 反寅褐色 凹面 10YR/3 に近い褐色	側面欠損
第24回 6	—	1区表様	平瓦	—	幅(8.5) 幅(30.5)	(35.0)	1.0	磚目切き、一部横方向ナデ	布目、一部ケズリ	径 5cm 以下の 小石少量に含む やや密	良好	凸面 10YR/1 極灰色 凹面 5YR/1 灰色	

石器

団体 番号	遺物 番号	出土地点	種類	石材	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第24回 7	—	2区表様	砾石	砂岩	—	3.7	4.5	2.9	107	

第3節 静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内

所在地

沼津市杉崎町 3-4

調査面積

105m² (工事対象面積 500m²)

調査期間

平成 20 年 1 月 11 日

調査原因

静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業

遺跡の概要

調査地は杉崎町遺跡から南西方向に約 20m の地点に位置する。

杉崎町遺跡は、JR 沼津駅の北東約 600 m の住宅街一帯に位置し、標高約 8 m の地点に位置している奈良時代から平安時代の集落跡である。

調査の概要

調査は、東西方向に 4 か所、南北方向に 1 か所のトレンチを設定し、重機と人力を併用して掘り下げを行った。トレンチ 1 とトレンチ 5 で規則的な柱穴が検出されたため、調査区を拡張し配列の延長を確認した。検出した遺構・遺物は、測量や写真撮影を行った。

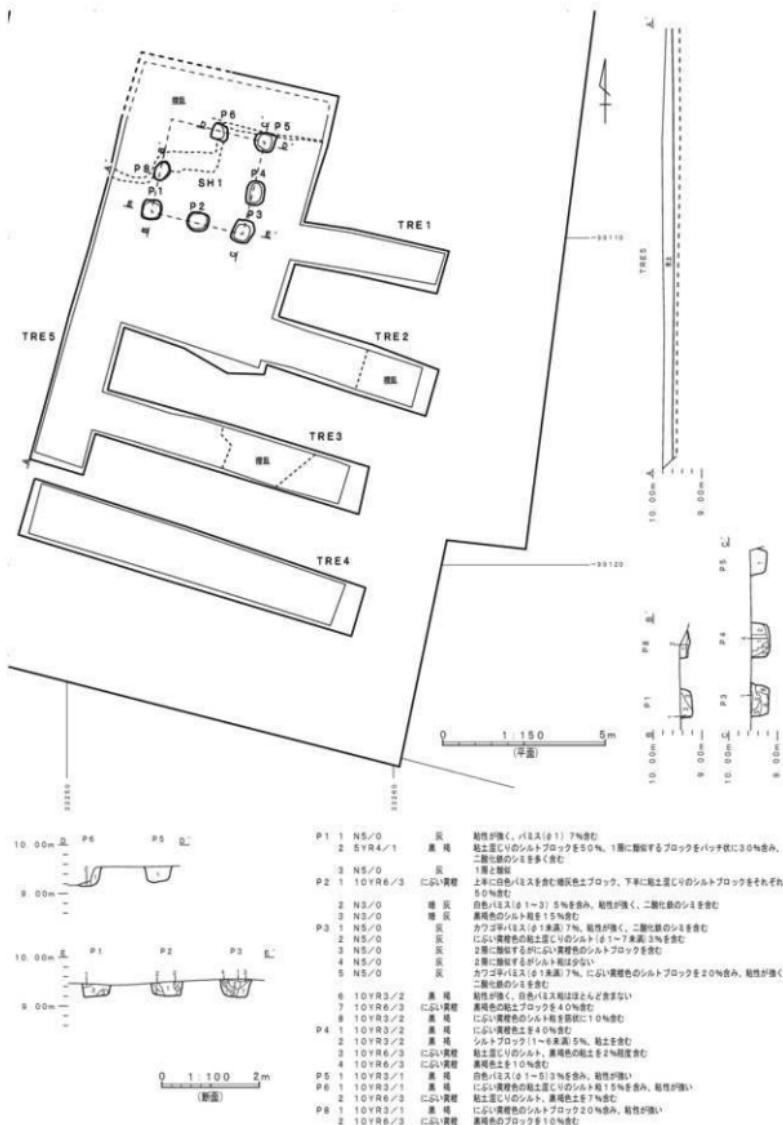
調査の結果

調査区を拡張した結果、掘立柱建物跡を 1 軒検出した（第 26 図）。掘立柱建物跡の規模は、一部搅乱により滅失していたものの、2 間 × 2 間となる。

遺物は、掘立柱建物跡の柱穴覆土より奈良時代、平安時代とみられる土師器片が出土しているが、破片資料であったため図示できなかった。



第 25 図 静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内調査地位置図



第 26 図 静岡東部拠点第一地区土地区画整理事業地内トレンチ配置図・断面図

第4節 三明寺遺跡

所在地

沼津市大崎字谷津 3995 外

調査面積

24m² (工事対象面積 1,500m²)

調査期間

平成 20 年 1 月 16 日～平成 20 年 1 月 18 日

調査原因

(仮称) 門池北工業団地造成事業

遺跡の概要

三明寺遺跡は、愛鷹山東南麓に立地する。JR 沼津駅から北東約 3.6km の地点に位置し、門池の北側に隣接する。旧石器時代の石器、縄文時代の土器、石器、古墳時代の土器が確認されている集落跡である。

調査の概要

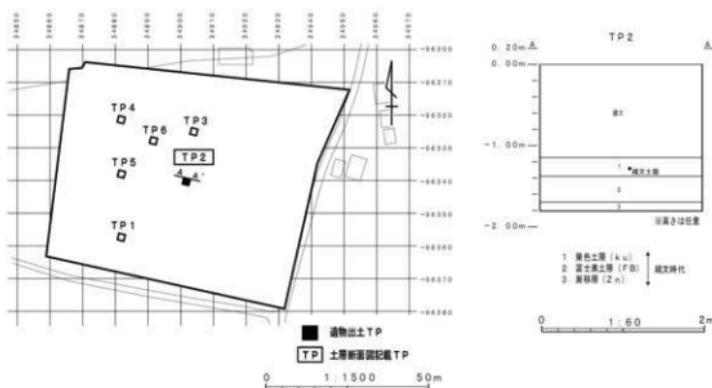
調査は、調査区に 2m × 2m のテストピットを 6か所設定し、重機による表土掘削後、人力による掘り下げを行った。

調査の結果

遺構は検出されなかった。遺物は、縄文土器の破片が数点出土しているが、図示には至らなかった。



第 27 図 三明寺遺跡調査地位置図



第 28 図 三明寺遺跡テストピット配置図・断面図

第 5 章 拓南遺跡

所在地

沼津市足高字尾上 496 外

調査面積

76m² (工事対象面積 6,033m²)

調査期間

平成 20 年 1 月 21 日～平成 20 年 2 月 8 日

調査原因

駐車場造成工事

遺跡の概要

拓南遺跡は、東名高速道路沼津インターチェンジの北北西に約 2 km、愛鷹山東南麓に広がる標高約 212 m から 230 m にかけての緩斜面の尾根上に所在する。旧石器時代の石器と縄文時代の石器及び土器、弥生土器、平安時代の須恵器等が確認されている集落跡である。

調査の概要

調査区に 2 m × 2 m のテストピットを 19 か所設定し、重機と人力を併用して掘り下げを行った。出土した遺物は、測量や写真撮影による記録保存を行った。

調査の結果

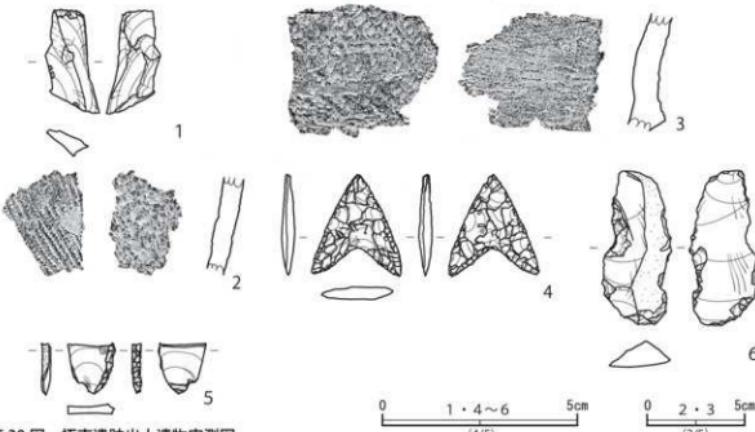
遺構は確認されなかった。遺物は旧石器時代の石器と縄文時代の土器片、石器が出土している（第 30 図）。

1 は漸移層から出土した剥片である。2 は縄文時代早期の撚糸文土器で、3 は縄文早期後葉の茅山下層式に比定される。4 は四基の石鏃である。5 はナイフ形石器の基部で、先端部が折れている。6 は加工痕のある剥片である。

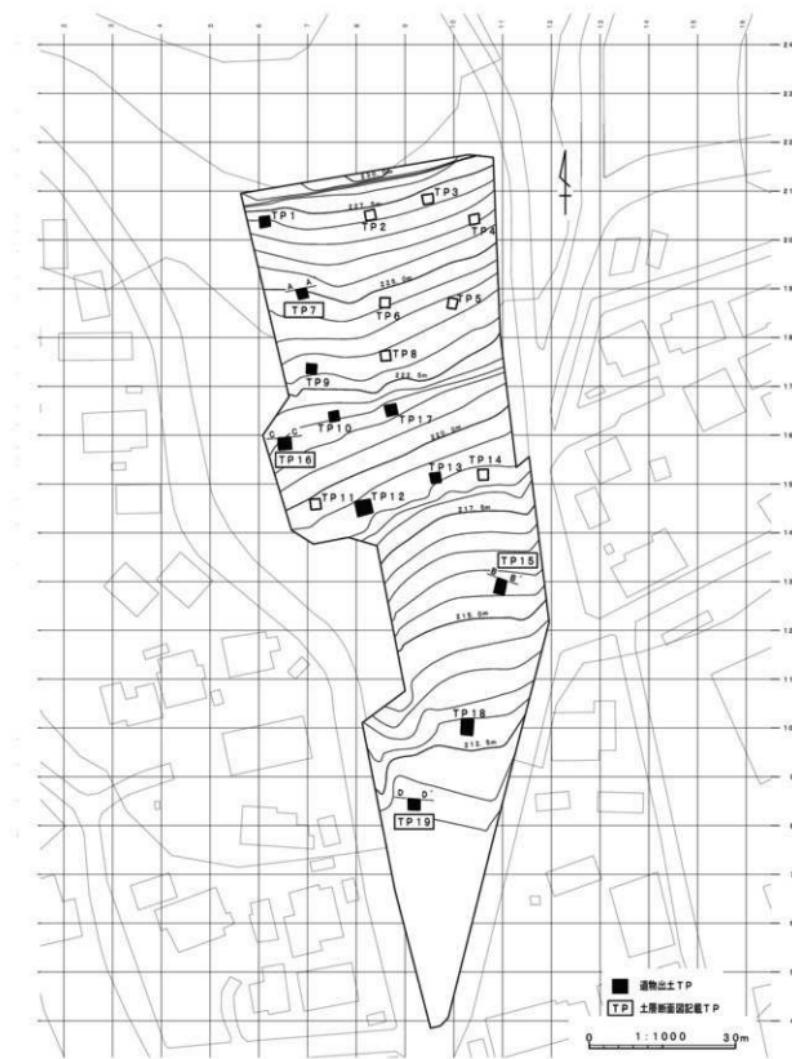
本調査の結果、調査区内に旧石器時代から縄文時代早期に至る埋蔵文化財が遺存することが判明した。そのため、平成 21 年度に本発掘調査を行い、平成 23 年度に報告書を刊行した。



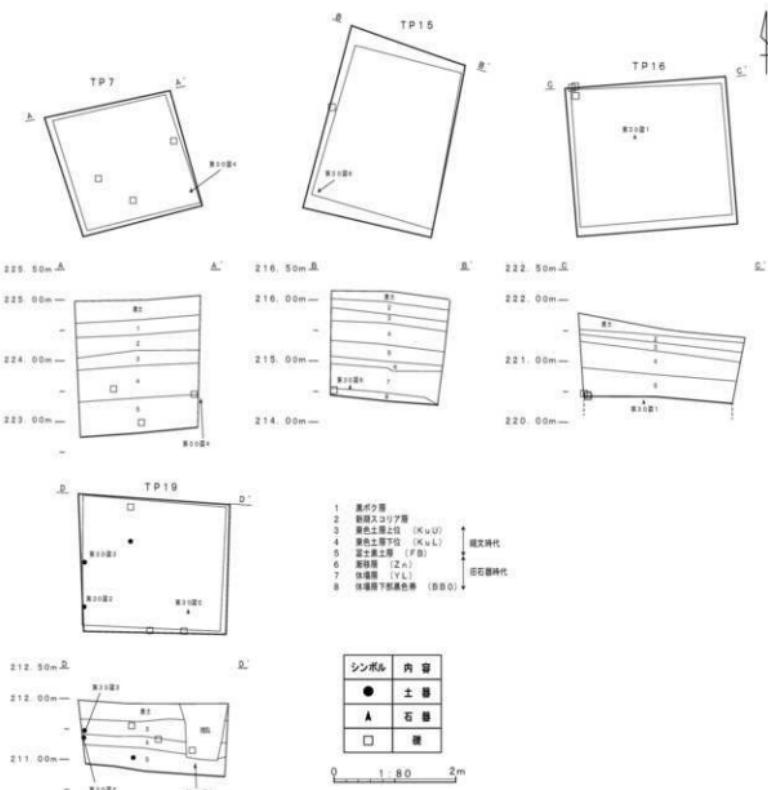
第 29 図 拓南遺跡調査位置図



第 30 図 拓南遺跡出土遺物実測図



第 31 図 拓南遺跡テストビット配置図



第32図 拓南遺跡テ스트ピット平面図・断面図

第4表 拓南遺跡出土遺物観察表

石器

調査番号	遺物番号	出土地点	器種	石材	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第30回1	27	TP16	剝片	珪質岩	Zn	2.66	1.38	0.53	16	
第30回4	1	TP7	石器	高麗石	KU	4.15	3.70	0.55	12	
第30回5	44	TP19	ナイフ形石器	高麗石	FB	(2.10)	(1.98)	(0.41)	03	
第30回6	37	TP15	剝片	高麗石	YL	3.94	1.76	0.62	38	挿入石器

土器

調査番号	遺物番号	出土地点	土器型式	層位	時期	胎土	器種	推定部位	色調	備考
第30回2	42	TP19	板瓦文土器	KuL	早期前段	白色の泥灰1%含む 砂粒含む	—	腹部	25YR4/2 [=51]無褐色	
第30回3	41	TP19	茅山下原式	KuL	早期後段	白色の泥灰5%程度含む 砂粒含む	—	腹部	5YR4/2 褐色	

第IV章 平成 20 年度の調査

第1節 平成 20 年度の調査体制

平成 20 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	村上益男
	文化振興課		
		課 長 上原正之	
		副 參 事 鈴木裕篤	
		課 長 補 佐 後藤 豊	
		文化財調査係長 高尾好之	

調査担当者

三明寺遺跡・子ノ神遺跡確認調査	文化財調査係長 高尾好之
	指 導 主 事 小林明正
	指 導 主 事 厚地淳司
	指 導 主 事 渡邊 均
	事 務 員 劍持直樹

第2節 三明寺遺跡・子ノ神遺跡

所在地

沼津市大岡字谷津 3988-1 外

調査面積

360m² (対象面積 21,800.94m²)

調査期間

平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 10 月 30 日

調査原因

(仮称) 門池北工業団地造成事業

遺跡の概要

調査対象地は三明寺遺跡と子ノ神遺跡にまたがっている。

三明寺遺跡は、門池に隣接しており、標高約 42 m から 60 m の尾根上に位置する。旧石器時代の石器、縄文時代の土器、石器、古墳時代の土器が確認されている集落跡である。

子ノ神遺跡は三明寺遺跡と同じ尾根筋上で南側が近接しており、標高約 60m から 66m 地点に位置する。

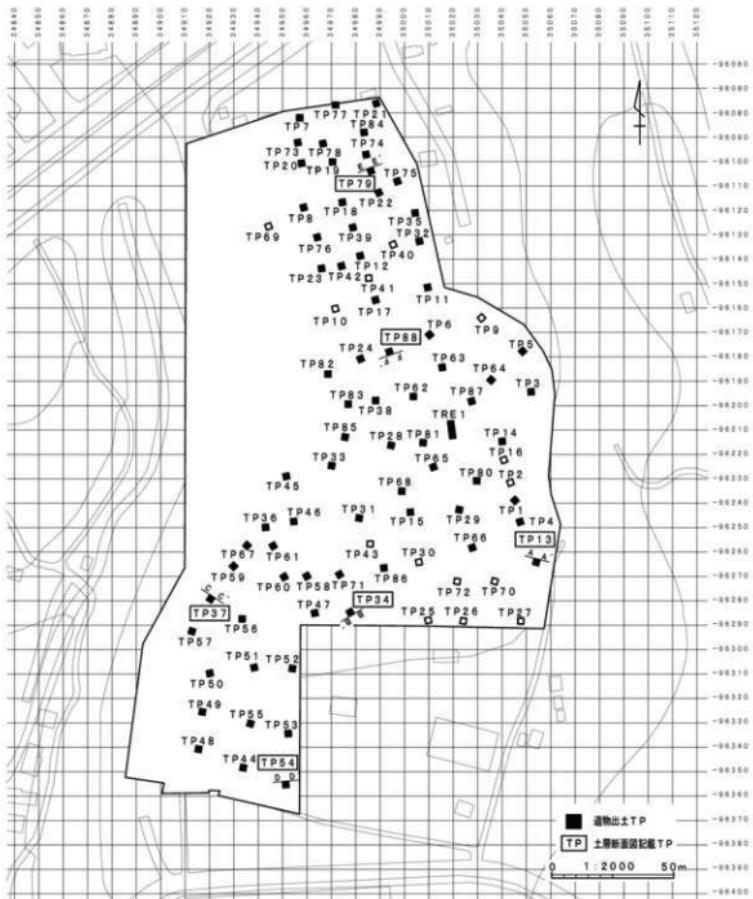
旧石器時代の石器、縄文時代の土器、石器が確認されている集落跡である。

調査の概要

調査区に 2m × 2m のテストピットを 88 か所、トレチナを 1 か所設定し、重機による表土掘削後、人力による掘り下げを行った。検出した遺構と遺物は、測量及び写真撮影を行った。



第 33 図 三明寺遺跡・子ノ神遺跡調査地位置図

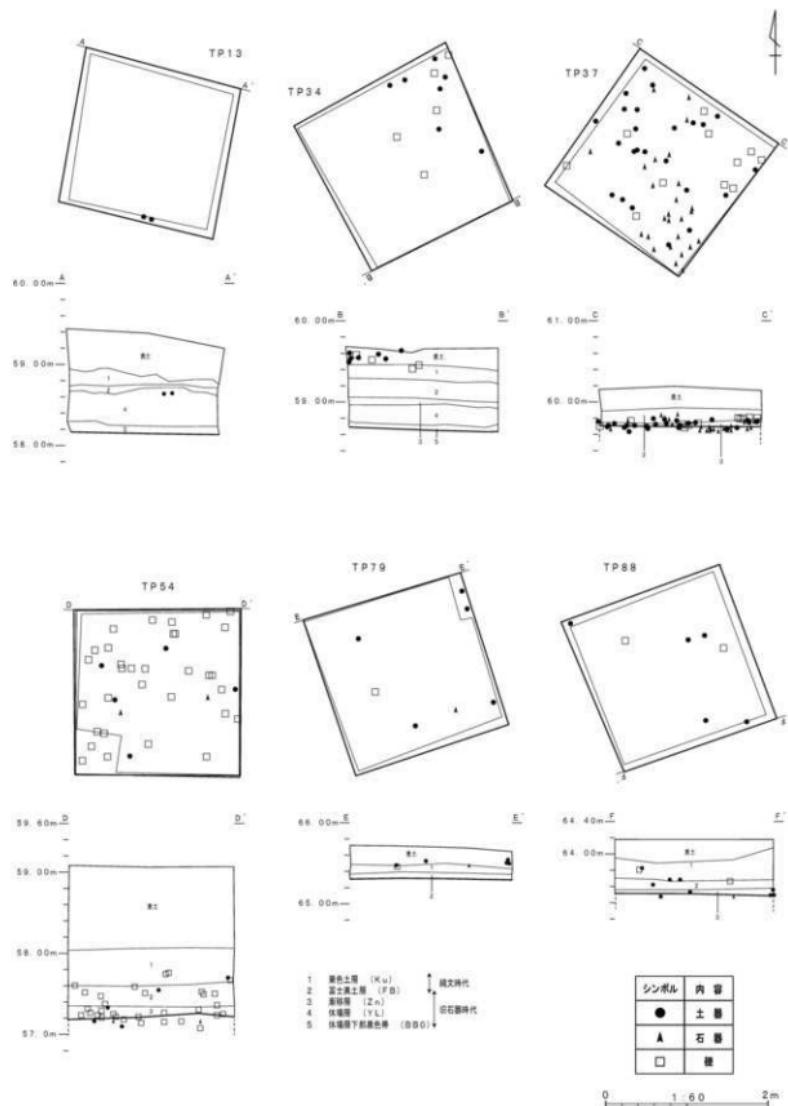


第34図 三明寺遺跡・子ノ神遺跡テストピット配置図

調査の結果

遺物は88か所のテストピットと1か所のトレンチのうち75か所から認められた。出土した遺物は縄文時代の土器を中心に、旧石器時代の礫、石器、古墳時代の土器が出土している。ただし、出土した遺物は、本調査実施予定のため原位置に残して埋め戻した。

確認調査結果から、周知の埋蔵文化財包蔵地外にも埋蔵文化財が遺存することが明らかとなった。そのため、対象地の南側を三明寺遺跡、北側を子ノ神遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更を行った。



第 35 図 三明寺遺跡・子ノ神遺跡テストピット平面図・断面図

第V章 平成21年度の調査

第1節 平成21年度の調査体制

平成21年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教育長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教育次長	村上益男
	文化振興課		
		課長	上原正之
		副参事	鈴木裕篤
		課長補佐	後藤 豊
		文化財調査係長	高尾好之
調査担当者			
岡宮北土地区画整理事業地内試掘調査	文化財調査係長	高尾好之	
日吉磨寺跡確認調査	文化財調査係長	高尾好之	
	指導主事	渡邊 均	
	指導主事	倉地 憲	

第2節 岡宮北土地区画整理事業地内

所在地

沼津市岡宮 906-1 外

調査面積

16m²

調査期間

平成21年9月25日～平成21年9月29日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

遺跡の概要

調査対象地は県立沼津東高等学校の東側約50mに位置し、六右エ門烟遺跡と近接している。

六右エ門烟遺跡は、標高約39mから50mの愛鷹山東南麓に所在する散布地及び集落跡である。縄文時代、奈良時代、平安時代の土器が確認されている。

調査の概要

調査は、調査区に2m×2mのテストピットを4か所設定し、重機による表土掘削後、人力による掘り下げを行った。測量及び写真撮影を行い、埋め戻して終了した。

調査の結果

いずれのテストピットからも遺構、遺物は認められなかったため、調査地は遺跡外と判断した。



第36図 岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図

第3節 日吉庵寺跡

所在地

沼津市富士見町 1859-1 外

調査面積

105m² (工事対象面積 500m²)

調査期間

平成 21 年 12 月 15 日～平成 22 年 3 月 5 日

調査原因

静岡東部拠点第二地区土地区画整理事業

遺跡の概要

日吉庵寺跡は JR 沼津駅の北東約 1 km に位置する。黄瀬川扇状地端の低台地上に立地する弥生時代から平安時代の散布地、集落跡、寺院跡である。

調査の概要

調査は土地区画整理事業に伴い実施した。東側の調査区を 1 区、西側の調査区を 2 区とした。1 区はトレンチを 1 か所、2 区はトレンチを 3 か所設定し、重機による表土掘削後、人力で掘り下げ、測量と写真撮影を行った後、埋め戻して完了した。なお、検出された遺構は将来的な本発掘調査が予定されているため、検出段階で止めている。

調査の結果

遺構は、1 区の調査では、約 1 m 四方の柱穴が北側で 7 基、南側で 4 基検出された。北側と南側の柱穴列は同一軸とはならないため、それぞれ別の遺構と考えられる。また、南側では約 4 m 幅の溝状遺構が検出されている。柱穴との切り合い関係から、溝状遺構の方が新しい時期である。2 区の調査でも柱穴を 10 基検出している。

遺物は、土器類と瓦、埴仏が出土している（第 40 図から第 46 図）。

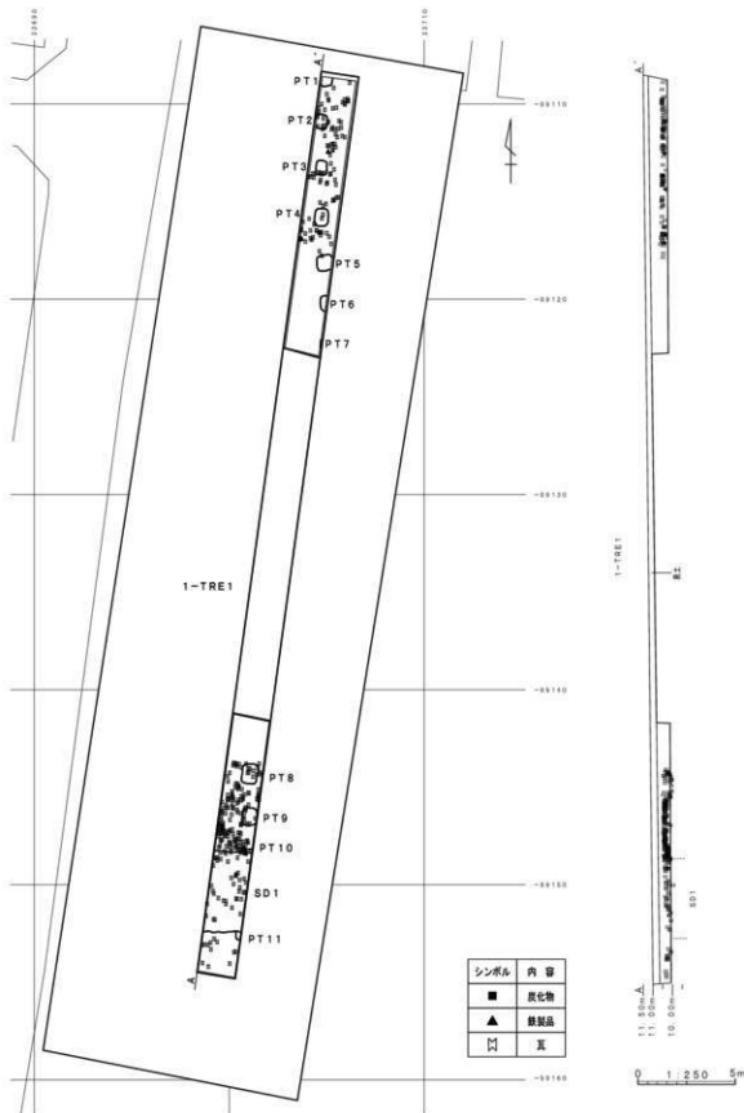
1 は弥生時代後期前半の弥生土器の長頸壺である。折り返し口縁部を呈しており、東駿河 IV-1 様式と推測される。2 は初期型段階の駿東甕で、7 世紀後半である。3 は駿東型球胴甕の口縁部で、8 世紀後半と考えられる。4 は駿東型長胴甕系壺型土器で、8 世紀後半から 9 世紀中頃である。5・6・8 から 11 は壺類であり、9 世紀中頃から後半に位置付けられる。7 は甲変型の模倣皿で、9 世紀後半である。13 は壺状の手捏土器で、底部に木葉痕が残る。14 は「玄」と墨書きされた土器である。15 は高足高台杯で、10 世紀半ばから後半である。16 から 20 は須恵器の壺蓋であり、7 世紀半ばから 8 世紀代に比定される。22 は須恵器の甕とみられる口縁部の破片である。外側には波状文が表現されており、時期は 10 世紀から 11 世紀代である。23 は須恵器の甕の底部である。

24 から 28 はいずれも重圓文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦である。29 は重圓文縁の一部である。30 から 34 は四重弧文軒平瓦である。24 から 34 までは 7 世紀後半以降と考えられる。35 は無文軒平瓦であり、8 世紀代と考えられる。36・37 は葡萄唐草文軒平瓦で、8 世紀第 2 四半期頃と考えられる。38・39 は扁行唐草文軒平瓦で、8 世紀第 3 四半期頃と考えられる。40・41 は丸瓦で、42・43 は平瓦である。44 は埴仏の一部である。頭部は摩滅しているものの、眼鼻が彫られていた様子が読み取れる。埴仏の右側及び下段に同様の文様がみられることから連座埴仏であると考えられる。

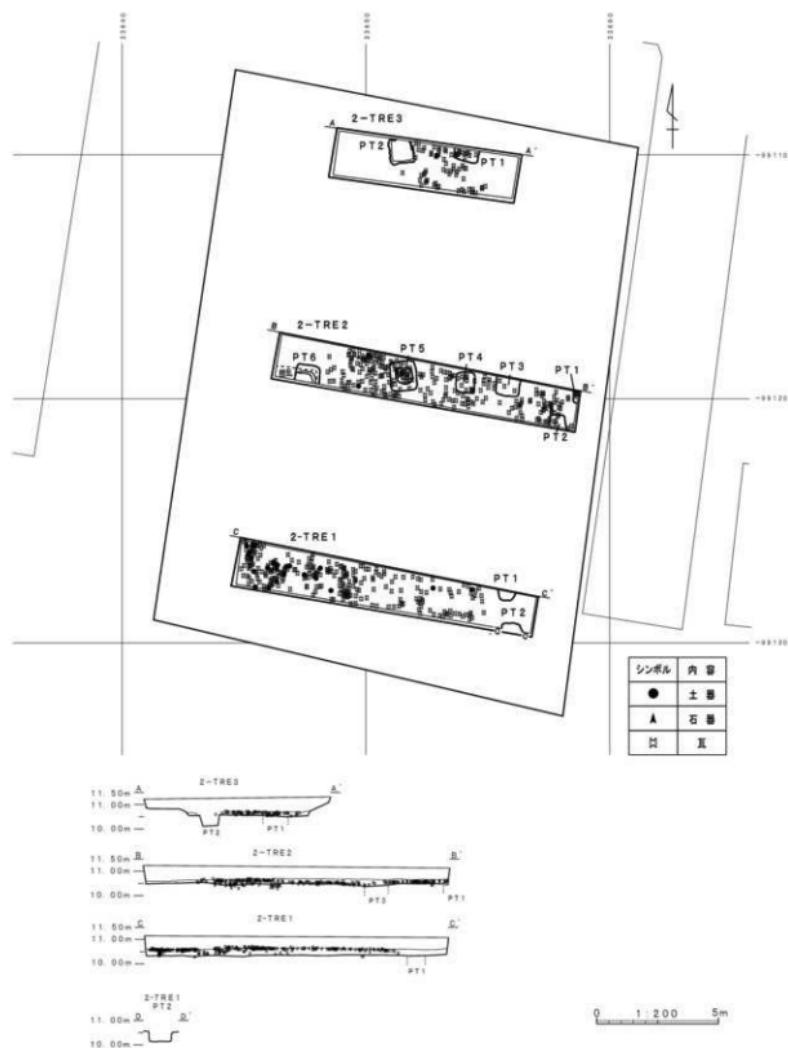
45 から 53 は中世以降の遺物である。時期は 13 世紀から 15 世紀代が中心となる。



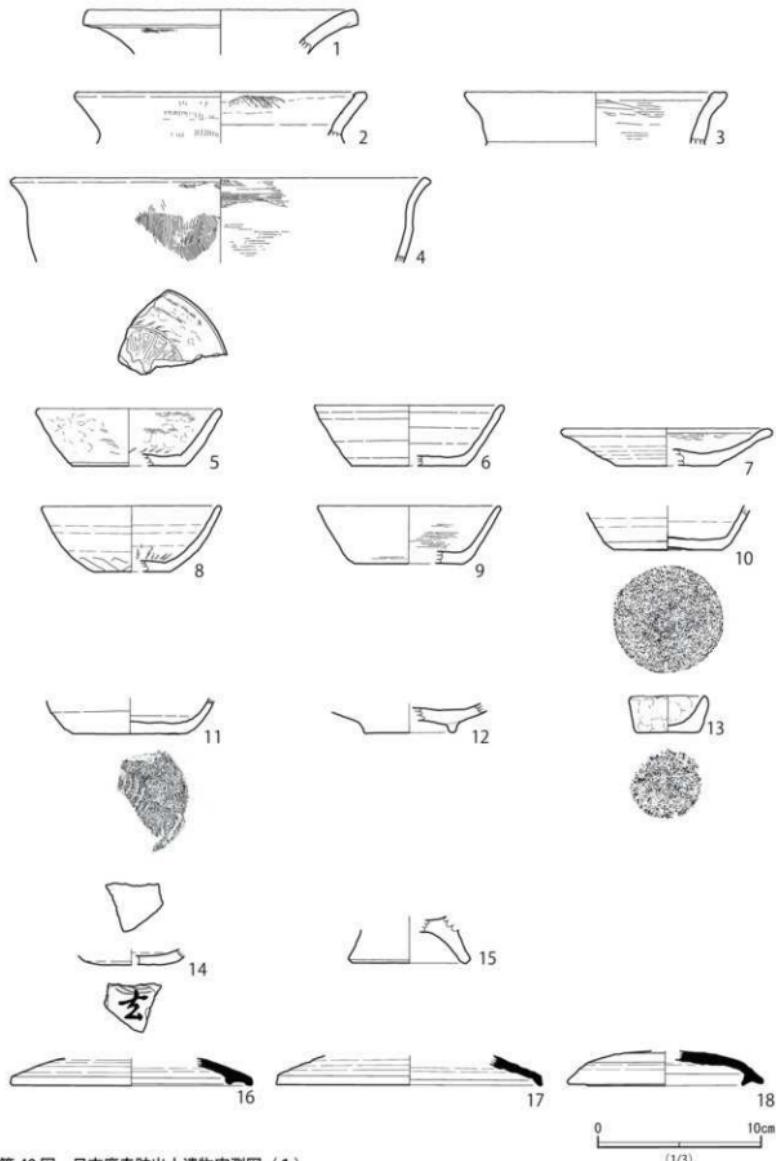
第 37 図 日吉庵寺跡調査位置図



第38図 日吉廃寺跡1区トレンチ配置図・断面図



第39図 日吉庵寺跡2区トレンチ配置図・断面図



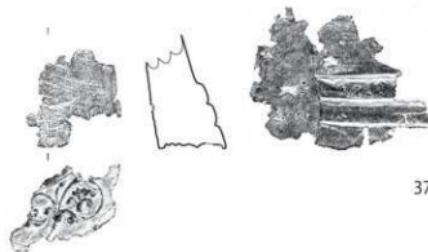
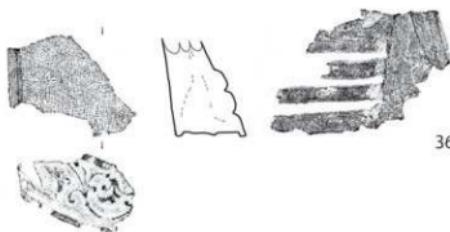
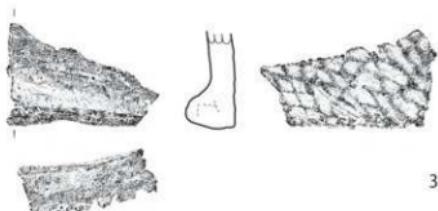
第40図 日吉庵跡出土遺物実測図（1）



第41図 日吉庵跡出土遺物実測図（2）

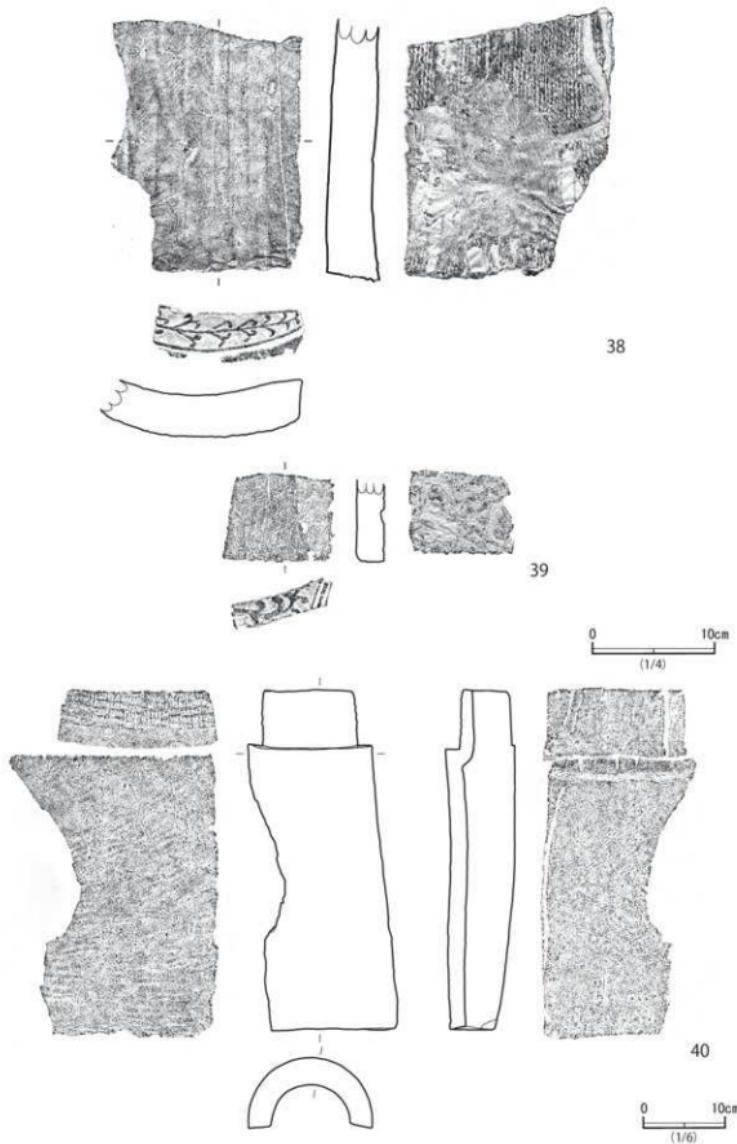


第42図 日吉廃寺跡出土遺物実測図（3）

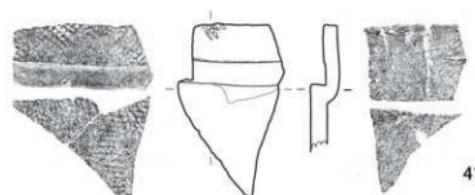


0 10cm
(1/4)

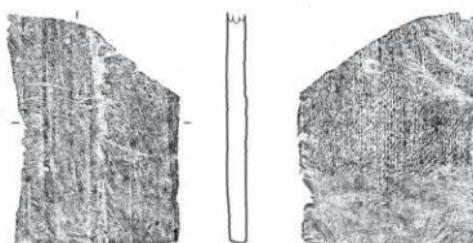
第43図 日吉廃寺跡出土遺物実測図(4)



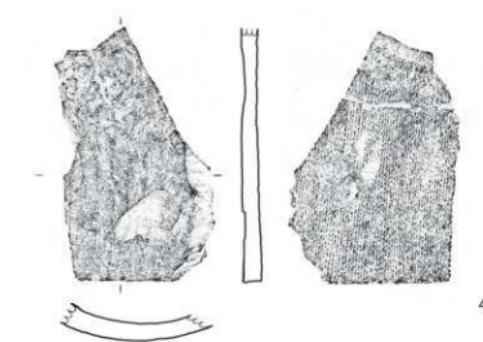
第44図 日吉庵寺跡出土遺物実測図（5）



41



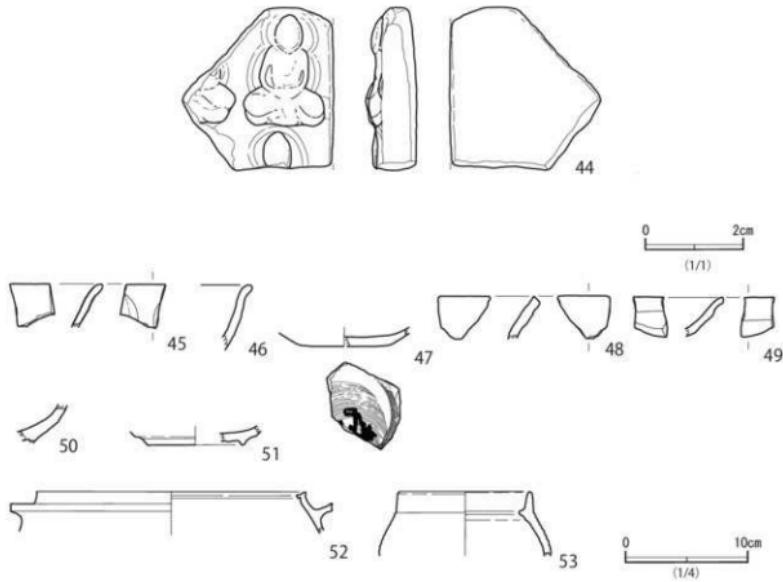
42



43

0 10cm
(1/6)

第 45 図 日吉庵寺跡出土遺物実測図 (6)



第46図 日吉庵寺跡出土遺物実測図（7）

第5表 日吉庵寺跡出土遺物観察表（1）

土器（1）

器物番号	遺物番号	出土土地点	器種	口径 器高 底径 (cm)	胎土	焼成	色調	残存部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第40器 1	-	1区表面	壺	6.4 (2.7) -	白色・赤色 灰白色砂	良	7.5W6.3 に少し褐色 口縁部	口縁部	内側L口縫合	内面 ハケメ 内面 黒葉	性生産前半 東京湾河 - 1種 式
第40器 2	-	2区表面	壺	17.7 (3.1) -	白色・黒色・灰 色砂	良好	2.3W6.4 に少し褐色 口縁部	口縁部	口縁部はやや内面に折り返す	内面 ハケメ後縁ナデ 内面 ハケメ後縁ナデ	土師器 腹巻き状器 TC後半
第40器 3	-	2区表面	壺	16.0 (3.0) -	黑色 平滑明沙粒	良好	5.9W4.2 灰褐色 口縁部	口縁部	口縁部は内面に折り返す	内面 ハケメ後縁ナデ 内面 ハケメ後縁ナデ	土師器 SC後半
第40器 4	6	2区 2-TRE1	壺	25.4 (3.2) -	白色・黒色 灰白色砂	良好	5.9W4 に少し褐色 口縁部	口縁部～胴部	口縁部はやや外反して立ち上がり、腰 部はやや内傾する	内面 口縫部横ナデ、ハケメ 腰部ハケメ 内面 ハケメ後縁ナデ	土師器 SC後半～SC中
第40器 5	287	2区 2-TRE1	壺	11.0 3.8 7.0	白色・灰 色半透明砂粒	良好	5.9W4.3 に少し褐色 口縁部～底部	口縁部～底部	平底から外傾して立ち上がる	内面 体部回転ナデ 内面 体部回転ナデ 肩込み式形状複合 器底の杯	土師器
第40器 6	281	2区 2-TRE1	壺	11.5 3.7 7.0	白色・灰 色半透明砂 粒	良好	5.9W4.2 に少し褐色 口縁部～底部	口縁部～底部	右口クロア形 平底から外傾して立ち上がる	内面 体部回転ナデ 肩部へラケズリ 内面 回転ナデ	土師器
第40器 7	-	2区表面	壺	12.6 2.3 6.2	白色・灰 色砂	良好	7.5W4.2 灰褐色 口縁部～底部	口縁部～底部	右口クロア形 口縁部がやや外反する	内面 体部回転ナデ 内面 体部ヘラスナリ 半變型の板底器	土師器
第40器 8	288	2区 2-TRE1	壺	10.7 4.1 4.6	白色・灰 色砂	良好	5.9W4.4 に少し褐色 口縁部～底部	口縁部～底部	左口クロア形 平底から体部は腰を持ってやや内傾し て立ち上がる	内面 体部回転ナデ ボトム下凹持続 内面 ハラズリ、底部舟切 内面 回転ナデ放射状複合	土師器
第40器 9	-	2区表面	壺	11.0 3.8 6.8	白色・灰 色砂	良好	10W5.1 黒褐色 口縁部～底部	口縁部～底部	右口クロア形	内面 体部回転ナデヘラスナリ 内面 ハラズリ 内面 体部回転ナデ、下位回転ヘラケズリ 内面 腹部引締、ターナーまたは平 底	土師器 SC後半
第40器 10	13	2区 2-TRE1	壺	— (2.7) 6.6	白色・灰 色砂	良好	2.3W4.4 に少し褐色 体部～底部	体部～底部	右口クロア形 平底から腰を持って外傾して立ち上 がる	内面 体部回転ナデ、下位回転ヘラケズリ 内面 腹部引締、ヘラケズリ 内面 回転ナデ	土師器 SC後半 腹突起付
第40器 11	-	2区表面	壺	— (2.2) 7.0	白色・灰 色砂	良好	7.5W4.4 に少し褐色 体部～底部	体部～底部	右口クロア形 平底から腰を持ってやや内傾して立ち 上がる	内面 体部回転ナデ、下位回転ヘラケズリ 内面 腹部引締、ヘラケズリ 内面 体部回転ナデ	土師器 SC後半 腹突起付

第6表 日吉麻寺跡出土遺物観察表（2）

土器（2）

団体 番号	遺物 番号	出土地点	種類	口径 最高 底径 (cm)	地土	焼成	色調	保存部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第40 回 12	-	1 区東側	高台坪	- (1.8) 5.6	黒色、灰色 赤色砂粒	良好	2.5Hx4 に込・赤褐色 爆裂・鉢形	全体～底部	柱状高台 全体が内側して立ち上がる	外蓋 体部回転ナジ ホルナナ調整 内蓋 回転ナジ	土耕器
第40 回 13	14	2 区 2-TRE1	手掘 土器	4.6 2.3 3.8	白色、灰色 赤色砂粒	良	SYR5.4 に込・赤褐色 变形	全体	鉢の爆裂品 半底からやや外傾して立ち上がる	外蓋 進部木業指印張 内蓋 ニコリテ指印張	土耕器 80 年～90 年半 動植物と同じ(?)
第40 回 14	-	2 区東側	坪	- 0.9 3.9	白色、黑色 赤色砂粒	良好	2.5Hx4 に込・赤褐色 爆裂	底部	進部破片	外蓋 進部灰工具のケツバ 内蓋 テグス	土耕器 動植物に似る
第40 回 15	-	1 区東側	高台 高台坪	- 7.0 2.8	白色、黑色、灰色 半透明白砂粒	良好	SYR5.3 に込・黄褐色 爆裂?	底部	底部はハの字状に開く	外蓋 ナナ調整 内蓋 ナナ調整	土耕器 100 年～後半 夏木木(?)内
第40 回 16	-	2 区東側	手掘	14.0 (1.6)	白色、黑色、灰色 半透明白砂粒	良好	SYR6.1 礁石化 天井部一回縫合	天井部～口縫合	底面 右口縫合底	外蓋 回転ナジ 内蓋 回転ナジ	遺物器 70 年半～80
第40 回 17	-	2 区東側	手掘	16.0 (1.8)	白色、黑色 赤色砂粒	良好	NA.0 礁石化 天井部一回縫合	天井部～口縫合	左口縫合底 縫合部はやや外傾して開く	外蓋 回転ナジ 内蓋 回転ナジ	遺物器 80 代
第40 回 18	229	2 区 2-TRE2	手掘	12.0 (2.2) -	白色、灰色砂粒	良好	SYR6.1 礁石化 天井部一回縫合	天井部～口縫合	底面 右口縫合底	外蓋 天井部上位回転ナジ 天井部下位回転ヘタケヅリ 内蓋 回転ナジ	遺物器 70 年後半
第41 回 19	-	2 区東側	手掘	12.0 (1.7)	白色、黑色 赤色砂粒	良好	SYR7.1 礁石化 天井部一回縫合	天井部～口縫合	底面 右口縫合底	外蓋 回転ナジ 内蓋 回転ナジ	遺物器 70 年～80
第41 回 20	1-1	1 区東側	手掘	9.5 (1.7) -	白色、黑色 赤色砂粒	良好	NA.0 礁石化	口縫合	底面 右口縫合	外蓋 回転ナジ、上位回転ヘタケヅリ 内蓋 回転ナジ	遺物器 70 年～80
第41 回 21	-	2 区東側	手掘	12.6 (2.1) -	白色、黑色 赤色砂粒	良好	SYR8.1 礁石化 口縫合	口縫合	底面 右口縫合底	外蓋 回転ナジ 内蓋 回転ナジ	遺物器
第41 回 22	-	2 区東側	坪?	24.2 (3.2)	白色、灰色 赤色砂粒	良好	NA.0 口縫合	口縫合	口縫合はやや外反して立ち上がる	外蓋 回転ナジ 滲状 内蓋 回転ナジ	遺物器 100 ～ 110 代
第41 回 23	-	2 区東側	坪	- (3.0) 11.0	白色、黑色 赤色砂粒	良好	SYR9.1 礁石化 底部	底部	底面から心臓し外傾して立ち上がる	外蓋 ナナ調整 内蓋 ナナ	遺物器 80

瓦 (1)

団体 番号	遺物 番号	出土地点	種類	分類	幅 (cm)	全长 (cm)	厚さ (cm)	凸面頂面	凹面頂面	施工 生糸物 生糸物	焼成	色調	備考	
第41 回 24	205	2 区 2-TRE2	斜丸瓦	直面文様 単刃火裏 墨書き文	直面回 17.4	(8.0) 刀頭 (1.8)	瓦当部 2.6 刀頭 (1.8)	織物様方向ナジ	瓦当表面 斜め方向ケズリ	白色砂粒、 白い壁下の 小石含む やや密	直 凸面 10YR7.1 凹面 25YR5.1 黃褐色	直	凸面 10YR7.1 黃褐色 凹面 25YR5.1 黃褐色	
第41 回 25	93	2 区 3-TRE2	斜丸瓦	直面文様 単刃火裏 墨書き文	直面回 17.8	(8.0) 刀頭 (1.7)	瓦当部 2.6 刀頭 (1.7)	直面回	瓦当裏ナジ 刀頭部・織物様方向ナジ	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.2 凹面 25YR5.1 黃褐色	直 凸面 10YR7.2 反白 凹面 25YR5.1 黄褐色		
第41 回 26	227	2 区 2-TRE2	斜丸瓦	直面文様 単刃火裏 墨書き文	直面回 (10.5)	(8.0) 刀頭 (2.0)	瓦当部 2.5 刀頭 (2.0)	直面回 刀頭回	瓦当裏ナジ 刀頭部回ナジ一様方向ナジ 一様強方向ケズリ	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.2 凹面 25YR5.1 反白	直 凸面 10YR7.2 反白 凹面 25YR5.1 反白		
第41 回 27	236	2 区 2-TRE2	斜丸瓦	直面文様 単刃火裏 墨書き文	直面回 (13.0)	(8.0) 刀頭 (1.7)	瓦当部 2.6 刀頭 (1.7)	直面回 刀頭回	瓦当裏ナジ 瓦当部ナジ 刀頭部回ナジ一様方向ナジ 一様強方向ケズリ	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.3 凹面 25YR5.1 黃褐色	直 凸面 10YR7.3 に込・黄褐色 凹面 25YR5.1 に込・黄褐色		
第41 回 28	47	2 区 2-TRE2	斜丸瓦	直面文様 単刃火裏 墨書き文	直面回 (10.0)	(8.0) 刀頭 (1.7)	瓦当部 2.4 刀頭 (1.7)	直面回	瓦当裏 刀頭部	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.3 凹面 25YR5.1 黃褐色	直 凸面 10YR7.3 に込・黄褐色 凹面 25YR5.1 に込・黄褐色		
第41 回 29	16	2 区 2-TRE2	斜丸瓦	直面文様	直面回 (10.0)	(8.0) 刀頭 (1.7)	瓦当部 2.4 刀頭 (1.7)	直面回 刀頭回	瓦当裏 刀頭部 強方向ナジ 強方向ケズリ	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.1 凹面 25YR5.1 黃褐色	直 凸面 10YR7.1 黄褐色 凹面 25YR5.1 黄褐色		
第42 回 30	294	2 区 2-TRE1	斜平瓦	四重乳文 直面文	直面回 (11.3)	(11.3) 刀頭 (2.4)	瓦当部 3.7 刀頭 (2.0)	織方ナジ	瓦当裏 刀頭部強方向ナジ 刀頭部強方向ナジ	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.1 凹面 M-5 黃褐色	直 凸面 10YR7.1 黄褐色 凹面 M-5 黄褐色		
第42 回 31	-	1 区東側	斜平瓦	四重乳文	直面回 (10.0)	(10.0) 刀頭 (2.4)	瓦当部 3.5 刀頭 (2.0)	織方ナジ 刀頭部 強方向ナジ	瓦当裏 刀頭部 強方向ナジ 強方向ナジ	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.2 凹面 25YR5.1 黃褐色	直 凸面 10YR7.2 に込・黄褐色 凹面 25YR5.1 長葉褐色		
第42 回 32	162	2 区 2-TRE2	斜平瓦	四重乳文	直面回 (10.0)	(10.0) 刀頭 (2.4)	瓦当部 3.4 刀頭 (2.0)	織方ナジ	底面 刀頭部	白色砂粒、 白い壁下の 小石多量に含む やや密	直 凸面 10YR7.2 凹面 25YR5.1 黃褐色	直 凸面 10YR7.2 かけ裏 底面 黄褐色 底面 M-5 黄褐色	幅部欠損	
第43 回 33	257	2 区 3-TRE2	斜平瓦	四重乳文	直面回 (10.0)	(10.0) 刀頭 (2.4)	瓦当部 3.4 刀頭 (2.0)	織方ナジ	—	やや密	直 凸面 10YR7.2 かけ裏 底面 黄褐色 底面 M-5 黄褐色			

第7表 日吉庵寺跡出土遺物観察表(3)

瓦(2)

器物 番号	遺物 番号	出土地点	種類	分類	幅 (cm)	全長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調査	凹面調査	粘土 含有物 有無	構成	色調	備考
第43回 34	1区表探	斜平瓦	四重乳大	瓦当面積 (2.2) 瓦面積 (1.4)	(6.7)	瓦当部 (2.2)	様子なし	—	—	真	表面 25YR5/1 黄灰色 凸面 10YR7/1 淡灰色 底面 10YR7/1 淡灰色	器群欠損	
第43回 35	181	2区 2-TRE2	斜平瓦	無文	(5.5)	(8.0)	瓦当部 (4.0) 側面部 (1.0)	斜格子切妻	ナ字	やや真	表面 10YR6/2 黄褐色 凸面 25YR6/2 黄褐色	—	
第43回 36	81	2区 2-TRE2	斜平瓦	轍筋唐草文	(10.0)	(9.0)	瓦当部 (3.0) 側面部 (3.5)	様子なし	希目	やや真	表面 10YR5/1 黄灰色 凸面 10YR5/1 黄灰色	—	
第43回 37	—	1区表探	斜平瓦	轍筋唐草文	(9.2)	(12.0)	瓦当部 (3.5) 側面部 (3.4)	様子なし	希目	やや真	表面 75YR5/1 黄灰色 凸面 10YR6/1 黄灰色	—	
第44回 38	—	2区表探	斜平瓦	轍筋唐草文	(9.6)	(22.1)	瓦当部 (4.3) 側面部 (3.4)	斜格子切妻	希目、未切痕	やや真	表面 25YR6/1 黄灰色 凸面 10YR6/1 黄灰色	—	
第44回 39	141	2区 2-TRE2	斜平瓦	轍筋唐草文	(7.7)	(21.1)	—	—	斜格子切妻	やや真	表面 10YR5/1 に少し褐色 凸面 10YR6/4 に少し褐色	器群欠損	
第44回 40	218	2区 2-TRE2	丸瓦	—	徳利部 10.3 瓦面積 (15.5)	41.9	2.0	斜格子切妻	希目	やや真	表面 10YR5/1 黄灰色 凸面 10YR5/1 黄灰色	—	
第45回 41	72	2区 2-TRE1	丸瓦	—	徳利部 9.2 瓦面積 (11.1)	(21.3)	3.4	斜格子切妻	希目	やや真	表面 10YR5/2 に少し褐色 凸面 10YR6/2 に少し褐色	—	
第45回 42	—	2区表探	平瓦	—	幅 7.4 高 2.4 厚 20.1	(29.0)	(2.7)	斜格子切妻	希目	やや真	表面 25YR5/1 黄灰色 凸面 5YR6/1 黄色	—	
第45回 43	30	2区 2-TRE3	平瓦	—	幅 9.0 高 3.0 厚 14.4	(31.3)	2.3	斜格子切妻	調目切妻	やや真	表面 10YR5/2 黄褐色 凸面 5YR6/1 黄色	—	

埠伝

器物 番号	遺物 番号	三工地点	種類	良さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	粘土	構成	色調	粘土の特徴	備考
第44回 44	—	2区表探	埠伝	(3.3)	(3.1)	1.0	密	良好	2.5Y5/1 黄灰色	濃度	—

陶磁器

器物 番号	遺物 番号	三工地点	器種	口徑 直径 (cm)	底径 直径 (cm)	粘土	構成	色調	保存部位	落地	備考
第46回 45	—	2区表探	青磁 唐草文瓶	— (2.6)	— (2.6)	密	良好	5YR5/2 に少し褐色	口縁部破片	130.0~140.0 初期 須恵文瓶 61	—
第46回 46	—	1区表探	青磁 瓶	— (3.8)	— (3.8)	密	良好	10YR6/2 灰白色	口縁部破片	—	140.0~150.0 前
第46回 47	—	2区表探	瓶	— (1.2)	— (1.6)	密	良好	10YR6/2 灰白色	通部	壺腹 140~150	—
第46回 48	—	2区表探	粗目	— (2.4)	— (2.4)	密	良好	2.5Y6/2 灰黄色	口縁部破片	壺腹、壺底	—
第46回 49	—	2区表探	粗目小瓶	— (2.7)	— (2.7)	密	良好	5YR5/3 に少し褐色	口縁部破片	—	II期
第46回 50	—	2区表探	焼瓦筋丸くは丸皿	— (2.3)	— (2.3)	密	良好	5YR5/3 に少し褐色	全体破片	—	150.0~
第46回 51	—	2区表探	丸皿	— (1.1)	— (1.1)	密	良好	10YR6/2 に少し褐色	通部	—	160.0
第46回 52	—	1区表探	羽釜	10.6 (2.5)	— (2.5)	密	良好	10YR6/2 灰黄色	口縁部	東海	—
第46回 53	—	2区表探	蓋	— (2.4)	— (2.4)	密	良好	2.5Y6/2 灰黄色	口縁部破片	壺腹、壺底	—

第VI章 平成 22 年度の調査

第1節 平成 22 年度の調査体制

平成 22 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	海瀬 治
	文化振興課	課 長	宮下義雄
		課 長補 佐	山口正文
		主幹兼文化財調査係長	山本恵一
調査担当者			
三芳町遺跡確認調査	主任学芸員	鶴田晴徳	
	指 導 主 事	渡邊 均	

第2節 三芳町遺跡

所在地

沼津市三芳町 191-14 外

調査面積

560.63m² (工事対象面積 1352.5m²)

調査期間

平成 23 年 1 月 11 日～平成 23 年 3 月 25 日

調査原因

沼津駅鉄道高架事業・土地区画整理事業

遺跡の概要

三芳町遺跡は、JR 沼津駅から東へ約 500 m に位置 第 47 図 三芳町遺跡調査位置図

する。黄瀬川扇状地に形成された、弥生時代後期から中世にかけての集落跡である。平成 12 年度、13 年度には、個人住宅建設及びマンション新築工事に伴い確認調査、本発掘調査を行っており、平成 16 年度に報告書が刊行されている。

調査の概要

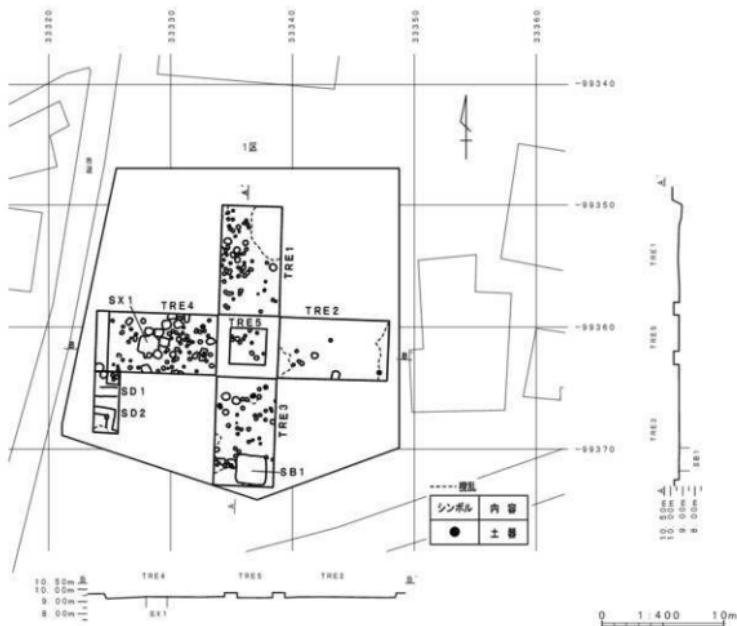
調査地点が市道で分断されるため、便宜的に 3 つの区を設けた。市道東側が 1 区、市道西側が 2 区・3 区と設定した。重機と人力を併用して掘り下げを行い、検出された遺構と遺物は、測量と写真撮影を実施した。

調査の結果

1 区は東西、南北方向にトレンチを 5 つ設定した。表土下位は硬い黄瀬川扇状地であるが、この面まで造成工事により搅乱を受けている。検出された遺構は、竪穴住居址 1 軒と溝状遺構 2 条である。竪穴住居址は TRE 3 の南端で検出され、平面プランは 2 m × 2 m の方形を呈している。溝状遺構は、TRE 4 の西端で検出されており、一部拡張して遺構の広がりを確認したところ、2 条あることが判明した。

2 区・3 区は 3か所のトレンチを設定した。1 区と同様に黄瀬川扇状地直上まで搅乱を受けている。遺構は竪穴住居址 3 軒とビットが多数検出された。竪穴住居址は TRE 6 の中心部から西側にかけて検出されており、直径約 5 m の小判型の平面プランを呈している。

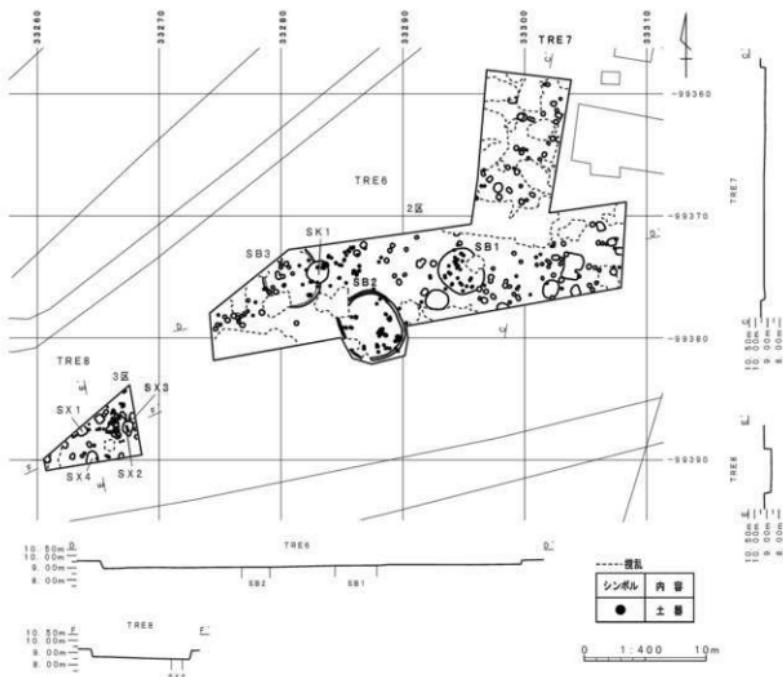




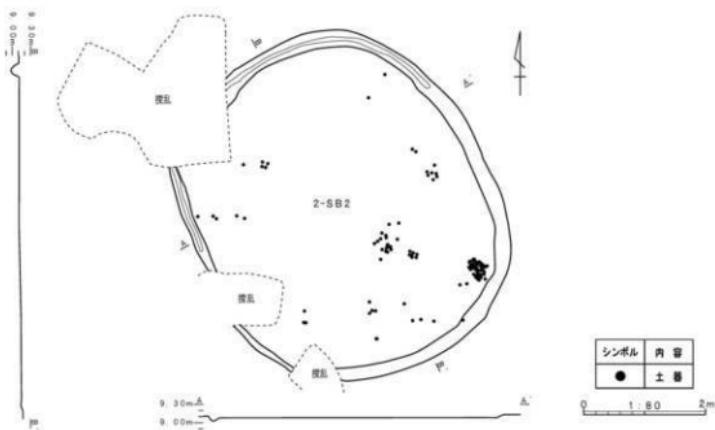
第48図 三芳町遺跡1区トレンチ配置図・断面図

遺物は奈良時代から平安時代の土師器破片等が出土しており、2区の住居址跡の覆土からは弥生土器とみられる破片が出土している。

これらのことから、埋蔵文化財が遺存することが明らかとなったため、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更を行った。



第49図 三芳町遺跡2区・3区トレンチ配置図・断面図



第50図 三芳町遺跡2区住居址2平面図・断面図

第VII章 平成23年度の調査

第1節 平成23年度の調査体制

平成23年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	海瀬 治
	文化振興課	課 長	宮下義雄
		課 長 補 佐	勝又恵三
		主幹兼文化財調査係長	山本惠一
調査担当者			
岡宮北土地区画整理事業地内試掘・確認調査 (六右エ門烟遺跡他)		主任学芸員	鶴田晴徳
		指 導 主 事	倉地 嘉
		指 導 主 事	佐野貴明

第2節 岡宮北土地区画整理事業地内（六右エ門烟遺跡他）

所在地

- 1区 沼津市岡宮字六右エ門烟 889-1
- 2区 沼津市岡宮字土狩烟 977-1
- 3区 沼津市岡宮字土狩烟 968-1

調査面積

88nf（工事対象面積 1,960nf）

調査期間

- 1区・2区
平成23年5月16日～平成23年6月15日
- 3区
平成23年9月7日～平成23年10月11日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

遺跡の概要

六右エ門烟遺跡は、JR沼津駅の北約3kmの位置 第51図 岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図にあり、標高約39mから50mの愛鷹山南麓に所在する散布地及び集落跡である。これまでの調査により縄文時代、奈良時代、平安時代の土器が確認されている。

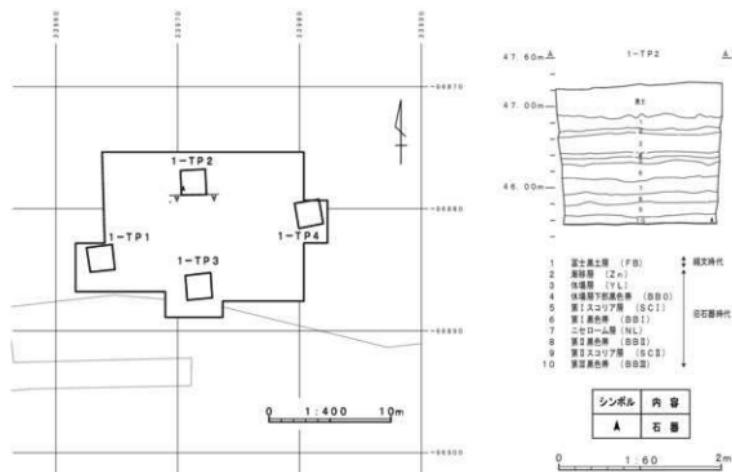
土狩烟遺跡は、六右エ門烟遺跡の北約120mの位置にあり、標高約60mから63mの丘陵上に所在する。これまでの調査により旧石器、縄文時代の遺物が確認されている。

調査の概要

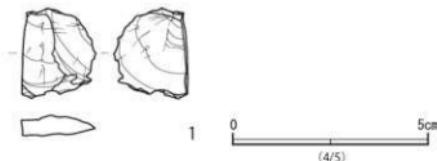
調査対象地は3か所に分かれしており、いずれも土地区画整理事業地内に含まれるため、事前の試掘・確認調査を実施した。1区は六右エ門烟遺跡の中央部に位置する。2区は六右エ門烟遺跡と土狩烟遺跡の中間地点にある。3区は土狩烟遺跡の西側に隣接している。

調査は、各調査区に2m×2mを基本とするテストピットを設定し、表土を重機により除去したのち、第Ⅲスコリア層まで人力による掘り下げを行った。検出した遺物等は測量や写真撮影を行った。





第 52 図 岡宮北土地区画整理事業地内 1 区テストピット配置図・断面図



第 53 図 岡宮北土地区画整理事業地内 1 区出土遺物実測図

第 8 表 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表

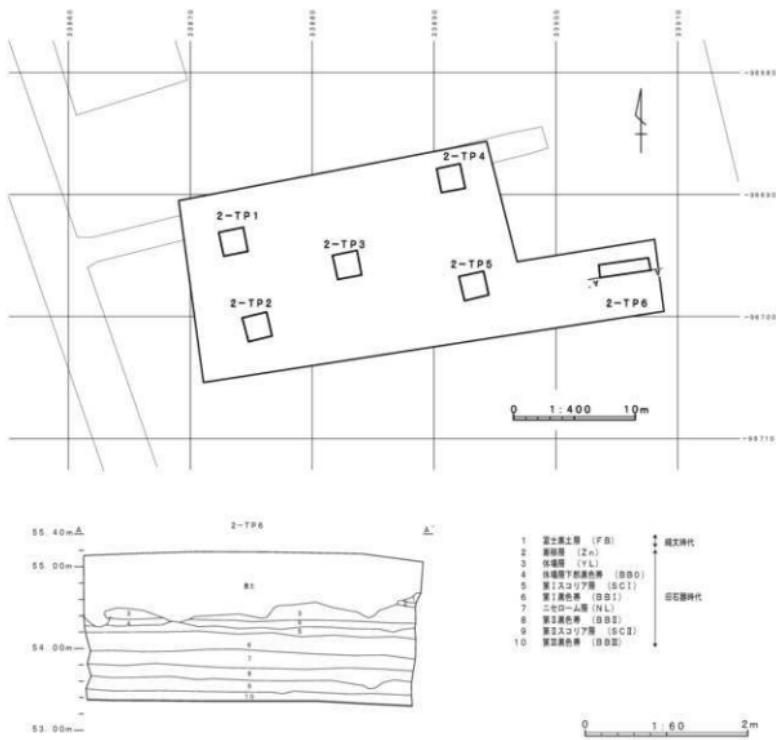
団査番号	遺物番号	出土地点	種類	石材	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第 53 団	1	1 区 TP2	剥片	黑曜石	BB Ⅲ	2.27	1.04	0.46	2.4	

調査の結果

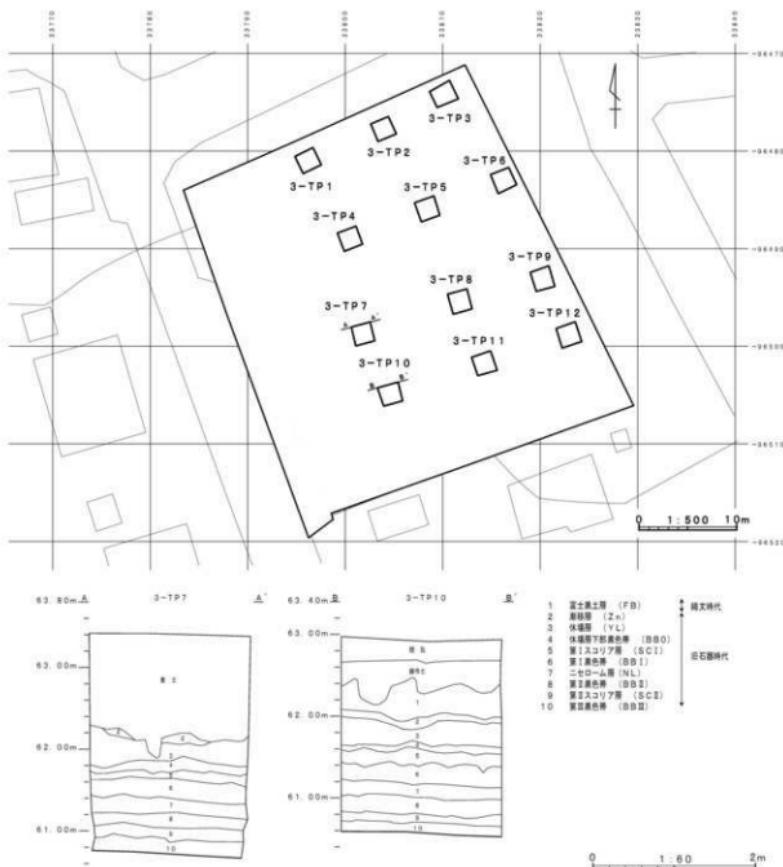
1 区は TP 2 から旧石器時代に比定される黒曜石の剥片が 1 点出土した (第 53 図)。遺構はいずれのテストピットからも確認できなかった。

2・3 区はいずれのテストピットからも遺構・遺物は確認されなかった。

以上の様子から六右エ門烟道跡内には埋蔵文化財が遺存しており、2 区と 3 区は遺跡外であることが確認された。



第54図 岡宮北土地地区画整理事業地内2区テストピット配置図・断面図



第 55 図 岡宮北土地区画整理事業地内 3 区テストピット配置図・断面図

第VII章 平成 24 年度の調査

第1節 平成 24 年度の調査体制

平成 24 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	工藤浩史
	文化振興課	課 長	井原正利
		課 長 補 佐	勝又恵三
		主 幹	池谷信之
		主幹兼文化財調査係長	山本惠一

調査担当者

日吉廃寺跡本発掘調査	主 幹	池谷信之
	指 導 主 事	前嶋秀張
岡宮北土地地区画整理事業地内試掘調査	主任学芸員	鶴田晴徳
若松崎古墳群地形測量調査	主任学芸員	鶴田晴徳

第2節 日吉廃寺跡

所在地

沼津市富士見町 1856-24 外

調査面積

68.4m²

調査期間

平成 24 年 8 月 6 日～平成 24 年 9 月 5 日

調査原因

個人住宅建設

遺跡の概要

日吉廃寺跡は JR 沼津駅の北東約 1 km に位置する。黄瀬川扇状地端の低台地上に立地する弥生時代から

平安時代までの散布地、集落跡、寺院跡である。大正 6 年には、丹那トンネル開設に伴う東海道熱海線の敷設による塔跡の発掘調査が行われた。その後、昭和 34 年から昭和 38 年にかけて日本大学を中心となり発掘調査を実施しており、昭和 41 年には、発掘調査担当者によって、金堂跡や塔跡、礎石、回廊といった古代寺院に関する重要遺構の概要報告が行われている。

昭和 45 年には山神社境内（塔跡）が沼津市指定史跡となり、昭和 52 年に指定範囲の確認調査と復元整備が行われ、史跡公園となった。平成 19 年からは鉄道高架化事業に伴う区画整理事業の確認調査、本発掘調査を実施している。



第 56 図 日吉廃寺跡調査位置図

調査の概要

発掘調査地点は、日吉廃寺跡内の北東側にあたり、JR 東海道本線と JR 御殿場線に挟まれた場所である。個人住宅建設に伴い実施した。事前の試掘調査から、包含層までの深さが約 15cm、遺構検出面までの深さが約 30cm と判明しているが、住宅工事の設計上、30cm の保護層の確保が困難であったため、本発掘調査を行った。

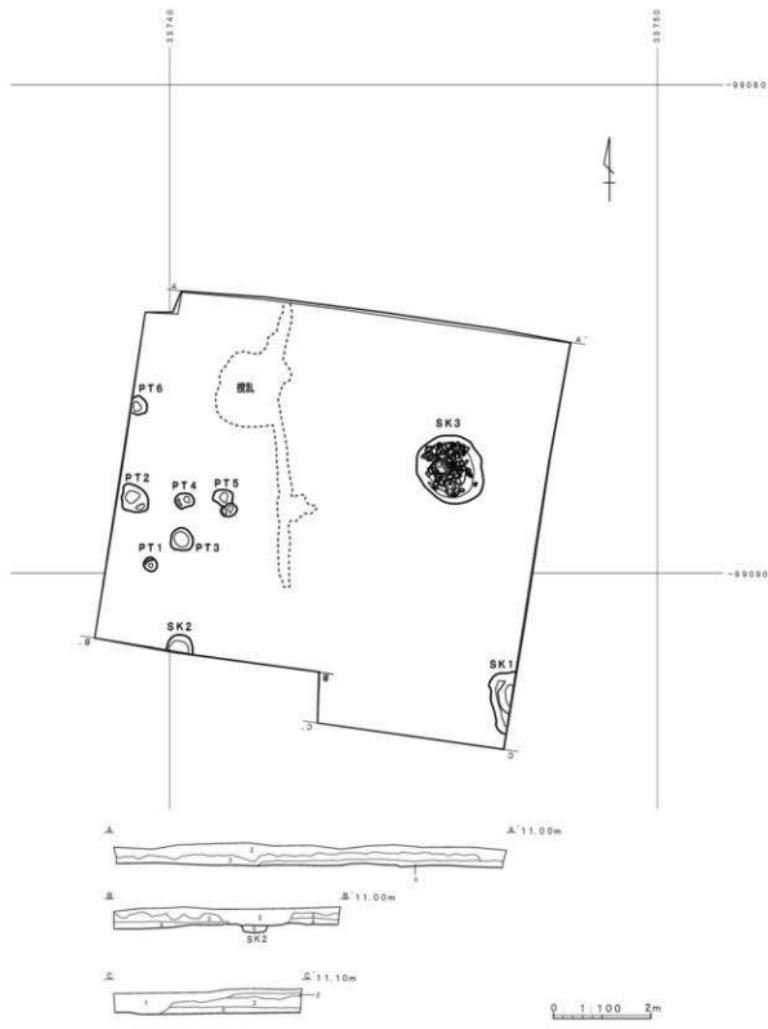
調査は、重機を使用して表土掘削を行った。その後、人力による遺構検出、掘削を行った。最後は、測量及び写真撮影を行い、埋め戻して終了した。

調査の結果

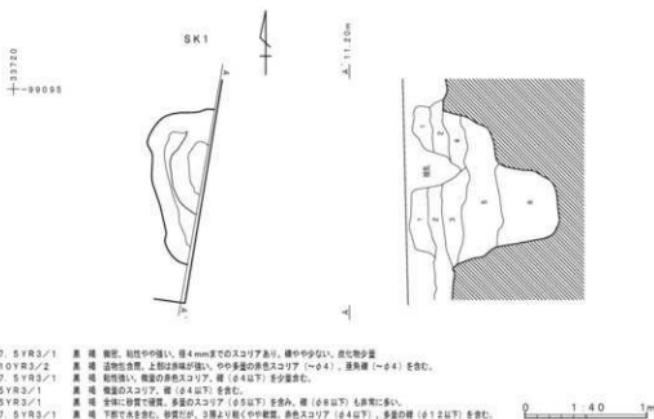
遺構は柱穴 6 基と土坑 3 基を検出した。柱穴は調査範囲が狭小なことから明確な用途は特定できない。検出した土坑 3 基のうち、土坑 3 の下層からは、土師器や須恵器、瓦が一括して出土しており、廐棄土坑と推測される。

出土した遺物は 5 点を図示した（第 61 図）。1 は畿内または遠江産と考えられる土師皿である。外面は横ナデと指頭痕で調整されており、内面に放射状暗文が表現されている。8 世紀前半に位置付けられる。2 は重輪文縁單弁八葉蓮華文の軒丸瓦である。3 は四重弧文軒平瓦である。瓦当部断面の様子から、頸貼り付け技法を用いている。4 は玉縁がある有段式の丸瓦、5 は平瓦である。

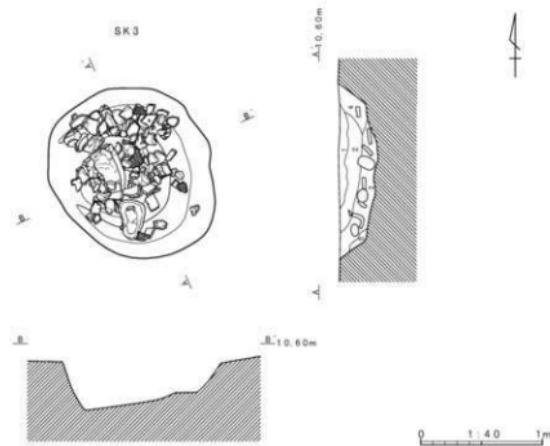
出土した遺物の年代から、遺構は 7 世紀後半から 8 世紀前半までに比定される。



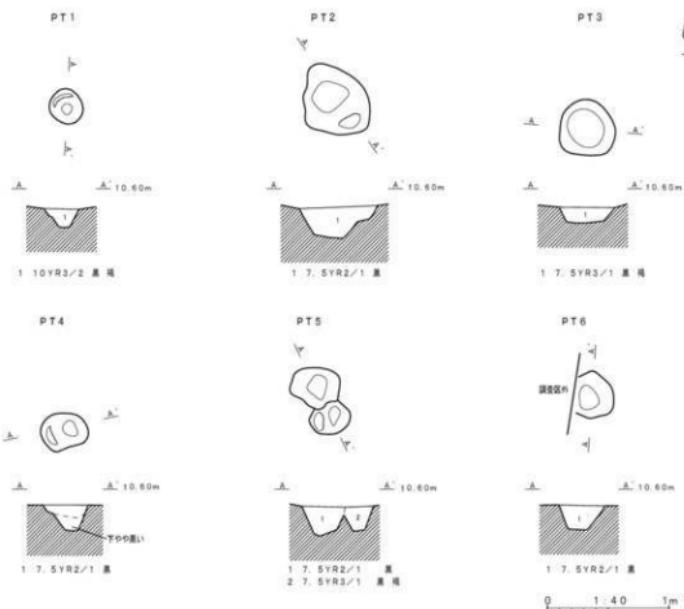
第57図 日吉庵寺跡調査区全体図・断面図



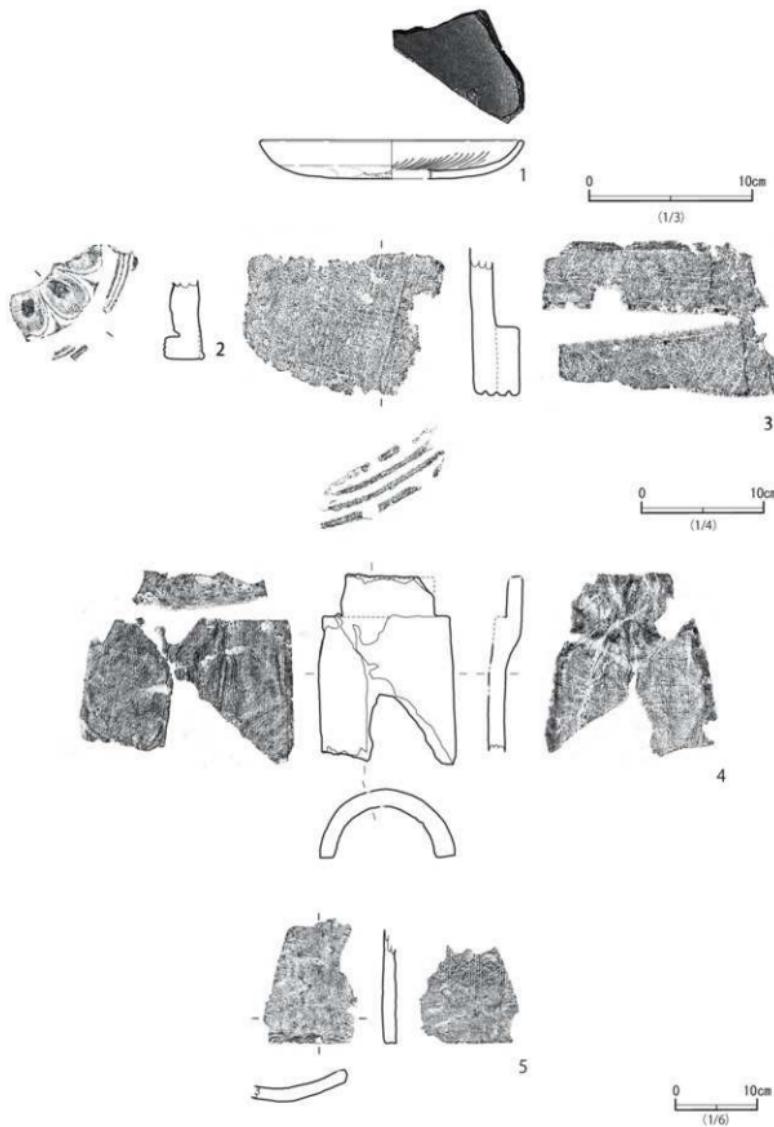
第 58 図 日吉庵寺跡土坑 1 平面図・断面図



第 59 図 日吉庵寺跡土坑 3 平面図・断面図



第60図 日吉庵寺跡ピット平面図・断面図



第 61 図 日吉庵跡出土遺物実測図

第9表 日吉廬寺跡出土遺物観察表

土師器

測定 番号	遺物 番号	出土 地点	種類	口径 前高 底径 (cm)	胎土	焼成	色調	保存部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第41図 1	3-4	表揮	直	15.0 (2.4) —	白色、灰色砂粒 良好	SYRG-4 に近い赤褐色	口縁部～芯部	平底から内窪して立ち上がる	外面 体側3コナデ 底部手持ちヘラケズリ 内面 体側3コナデ後強制状ヘラミガキ	通江産? BC 順手	

瓦

測定 番号	遺物 番号	出土地点	種類	分類	幅 (mm)	全長 (mm)	厚さ (mm)	凸面調査	凹面調査	胎土 含有机 物炭化	焼成	色調	備考
第41図 2	97	SK3	軒丸瓦	直面文端 軒井八重 直面文	瓦当面積 (10.0)	(32)	瓦当部 (2.3) 網目 —	様方向ナデ	有目、様方向ナデ	白色砂粒多量、 高色砂粒少量化 小石含む やや黒	直	凸面 10YR5/1 橙灰 凹面 10YR5/1 橙灰	
第41図 3	123	SK3	軒平瓦	直面板瓦	瓦当面積 (3.5) 瓦当面積 (1.7)	(12.0)	瓦当部 (3.5) 網目 (1.8)	縫目切き	有目、ナデ、一部ケズリ 側面ケズリ	白色、黑色砂粒、 径3mm以下の 小石含む やや黒	直	凸面 25YR5/1 黄灰色 凹面 25YR5/1 黄灰色	
第41図 4	46・51 54・61	SK3	丸瓦	—	腰面積 (11.9) 底面積 —	(23.5)	2.0	縫目切き、様方向ナデ	有目、縫目切き方向ケズリ、 側面ケズリ	白色、黑色砂粒、 径7mm以下、 小石含む 黒	直	凸面 5YR5/1 黄色 凹面 5YR5/1 黄色	
第41図 5	81・91 95	SK3	平瓦	—	腰(4.0) 横(12.2)	(16.5)	1.8	縫目切き、様方向ナデ	有目、縫方向ケズリ	白色、黑色砂粒、 径5mm以下、 小石含む 黒	直 凹面	凸面 25YR5/1 黄灰色 凹面 5YR5/1 黄灰色	

第3節 岡宮北土地区画整理事業地内

所在地

沼津市岡宮字土狩畠 968-3 外

調査面積

24m² (工事対象面積 2,300m²)

調査期間

平成 24 年 9 月 5 日～平成 24 年 10 月 12 日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

遺跡の概要

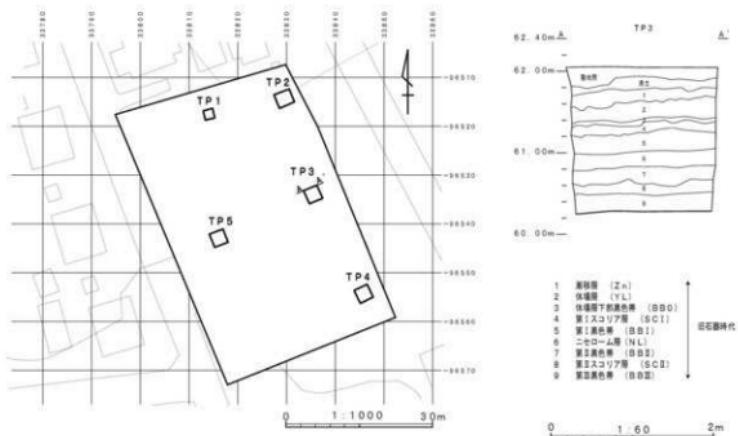
土狩畠遺跡は、JR 沼津駅の北約 3.4km の位置にあり、標高約 60m から 63m の丘陵上に所在する。これまでの調査により旧石器時代と縄文時代の遺物が確認されている。

調査の概要

対象地は土地区画整理事業に該当するため試掘調査を実施した。調査は、2m × 2m のテストピットを 5か所設定し、第Ⅲスコリア層上面まで人力による掘り下げを行った。その後、テストピットの平面・土層断面状況を測量、写真撮影を行い、埋め戻して終了した。

調査の結果

いずれのテストピットからも遺構、遺物は認められなかった。そのため、対象地は遺跡外であることが確認された。



第 63 図 岡宮北土地区画整理事業地内テストピット配置図・断面図

第4節 若松崎古墳群

所在地

沼津市西浦久料 233-4

調査面積

2,000m²

調査期間

平成 24 年 10 月 9 日～平成 24 年 12 月 28 日

調査原因

若松崎古墳群の墳丘の一部に崩落が認められることから、現状把握が必要となったため。

遺跡の概要

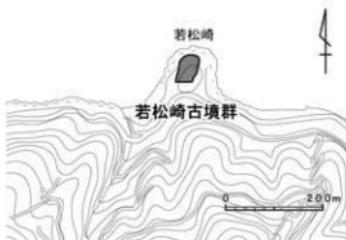
若松崎古墳群は、達磨山北麓に広がる小起伏火山地が海に浸食されてできた岬上に立地する。古墳時代後期の群集墳で円墳 2 基が確認されており、石室が一部露出している。

調査の概要

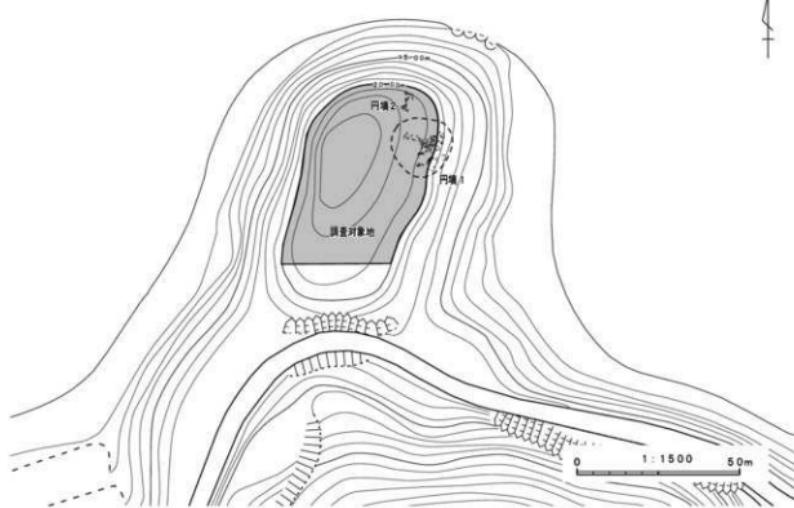
測量調査は、円墳 2 基の現況と周囲の地形測量を把握し、データを記録することを目的に行った。測量作業及び図面作成作業は業務委託で実施した。そして沼津市専門職員の指導のもと GPS 機器によって測量調査を行ったのち、図面を作成した。

調査の結果

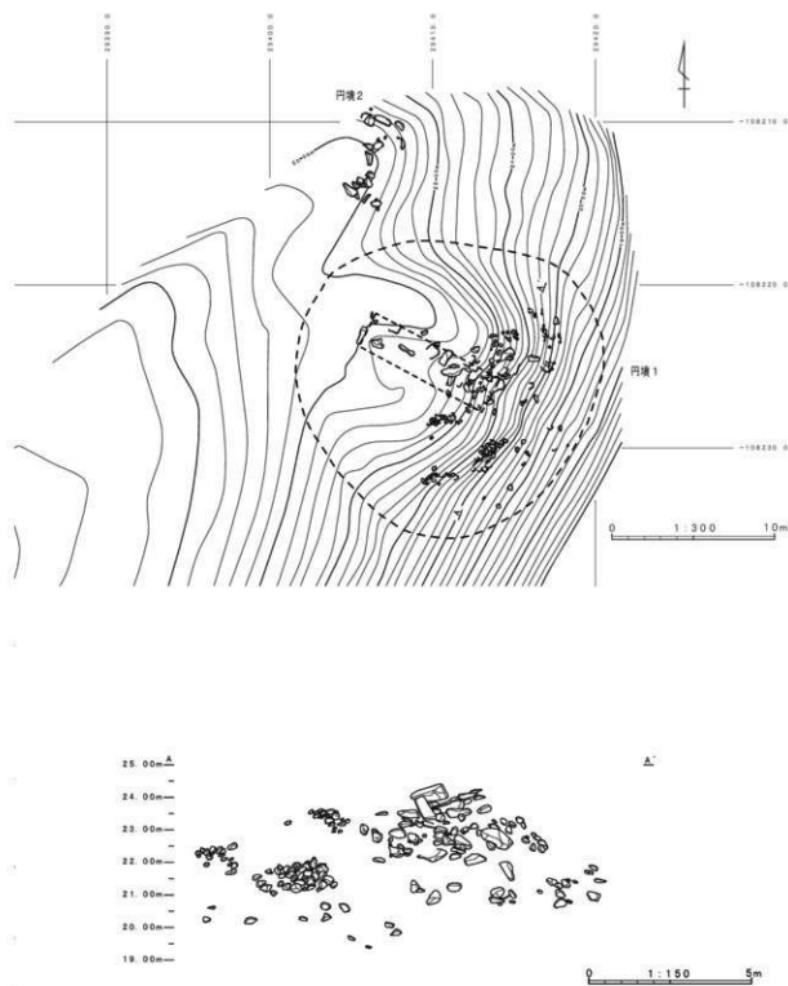
墳丘及び露出している石室石材や葺石の細部計測を行い、現状の情報を得た（第 66 図）。



第 64 図 若松崎古墳群調査地位置図



第 65 図 若松崎古墳群平面図（広域）



第 66 図 若松崎古墳群平面図（詳細）・立面図

第IX章 平成 25 年度の調査

第1節 平成 25 年度の調査体制

平成 25 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	工藤浩史
	文化振興課	課 長	勝又恵三
		課 長 補 佐	山本惠一・高橋清一
		主幹兼文化財調査係長	池谷信之
調査担当者			
御幸町遺跡確認調査		指 導 主 事	前嶋秀張
		主 事	原田雄紀
松長古墳群分布調査		主幹兼文化財調査係長	池谷信之
		主 事	原田雄紀
高架側道 7 号線試掘調査		指 導 主 事	前嶋秀張
		主 事	小崎 晋
御手洗池地区試掘調査		主幹兼文化財管理係長	高尾好之

第2節 御幸町遺跡

所在地

沼津市御幸町 92-1 外

調査面積

1 次調査 20m²

2 次調査 76m² (工事対象面積 11,000m²)

調査期間

1 次調査

平成 25 年 10 月 3 日

2 次調査

平成 26 年 1 月 13 日～平成 26 年 1 月 18 日

調査原因

香陵公園周辺整備事業

遺跡の概要

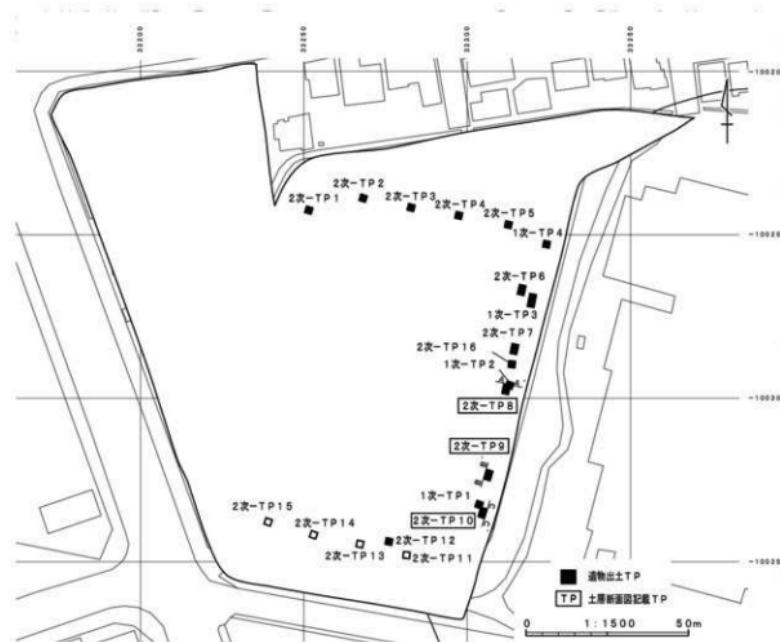
御幸町遺跡は、JR 沼津駅の南東約 1 km の狩野川下流域の低地に所在する。明治 34 年から昭和 42 年に沼津市岡宮に移転するまでは旧制沼津中学校（後の県立沼津東高等学校）が所在していた。昭和 53 年度から昭和 55 年度にわたり沼津市民文化センター建設に伴い本発掘調査を行ったところ、弥生時代後期から古墳時代、奈良時代、平安時代の遺構と遺物が確認された。

調査の概要

対象地は、沼津市民文化センターの西側に隣接している香陵運動場内である。当地は、新市民体育館建設予定地内となっており、その一部に御幸町遺跡が及んでいるが、御幸町遺跡の西側の広がりが不明瞭であったため、範囲確認調査を実施することとなった。



第 67 図 御幸町遺跡調査位置図



第68図 御幸町遺跡テストピット配置図

1次調査は、調査対象地の東側に2m×2mのテストピットを3か所、2m×4mのテストピットを1か所設定し、重機によって掘削した。

2次調査は、調査地内北側に2m×2mのテストピットを5か所、南側に2m×2mのテストピットを5か所、東側に2m×3mを中心としたテストピットを6か所設定した。重機で表土を掘削し、人力による掘り下げを行った。

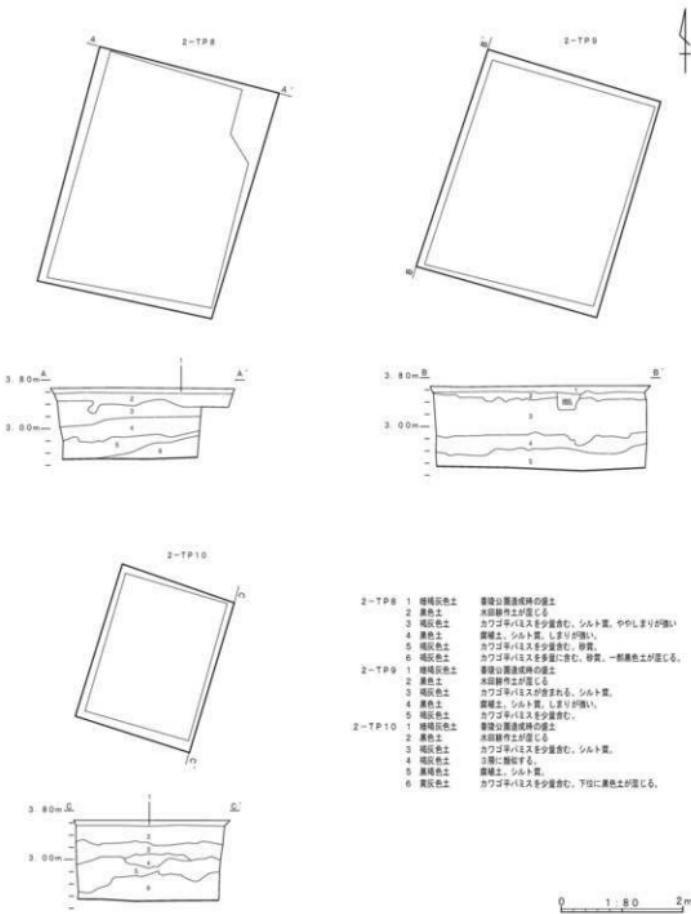
掘削後は、検出された遺構や遺物の測量及び写真撮影を行い、埋め戻して完了した。

調査の結果

1次調査ではすべてのテストピットから遺物が出土した。1次調査において御幸町遺跡の範囲は、当初よりさらに西へ広がることが明らかとなったことから、その範囲を確定するため、2次調査を行なった。

2次調査ではテストピット1から5までは遺構は確認されず、近世の陶磁器のみが出土した。テストピット11から15までは擾乱により遺構・遺物を確認することができなかった。それら以外の東側のテストピットからは弥生時代から平安時代の遺物が認められたため、御幸町遺跡の範囲内と判断された。

その後、この調査結果をもとに、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲を変更し、平成27年度に本発掘調査を実施し、平成28年度に報告書を刊行している。



第69図 御幸町遺跡テストピット平面図・断面図

第3節 松長古墳群

所在地

沼津市小瀬訪～植田

調査対象範囲

約 3,200,000m²

調査期間

平成 25 年 11 月 15 日～平成 25 年 12 月 27 日

調査原因

開発計画と円滑な調整に備え、事前に未確認の遺構を把握する必要があるため

遺跡の概要

松長古墳群は、富士川の土砂が堆積して形成された千本砂礫州上に所在する。当古墳群は、神明塚古墳や 14 基の小円墳の存在が確認されている。

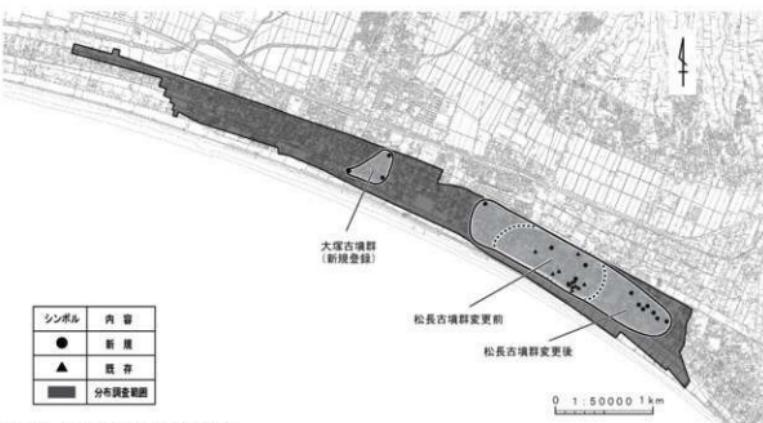
調査の概要

松長地区は、未確認の古墳等が想定されている地域であるが、悉皆的な分布調査がされていないため、詳細が把握できていない。しかし、近年、本地区は、個人住宅建設などの開発計画が盛んな地区となっているため、開発計画と円滑な調整を行うことを目的として事前に古墳等の存在を把握する分布調査を実施した。

分布調査は、間門地区から植田地区までを対象範囲とし、古墳の墳丘や痕跡を GPS 機器を用いてその位置を記録し写真撮影も行った。

調査の結果

古墳の可能性がある 442 カ所の微高地及び古い社の観察と、遺物の分布状況の観察を行った。その結果、小瀬訪地区から大塚地区にかけて新たに古墳数基を発見したため、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更および新規登録（大塚古墳群）を行った（第 70 図）。



第 70 図 松長古墳群調査位置図

第4節 高架側道7号線

所在地

沼津市大岡字宮下 989-8 外

調査面積

28m²（工事対象面積 1,800m²）

調査期間

平成 25 年 12 月 17 日～平成 26 年 1 月 6 日

調査原因

沼津駅高架事業に伴う側道建設

遺跡の概要

対象地は JR 沼津駅から北東約 1.2km の後背湿地上

に位置する。周辺には古代寺院跡である日吉廃寺跡や古代の集落跡である三芳町遺跡、日吉遺跡などが存在する。

調査の概要

対象地は、埋蔵文化財の詳細な分布状況が把握されていないため、事業実施に先立ち試掘調査を実施した。調査は、調査区のうち、掘削が可能であった浪人川より西側の範囲で試掘調査を行った。2 m × 2 m のテストピットを 7か所設定し、遺物包含層までは重機により掘削し、遺物包含層を確認した時点で人力掘削を行った。

調査の結果

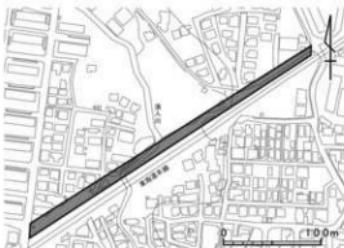
表土から下約 1 m で水田耕作土層を確認し、その直下の粘土が混在する層からは 平安時代の遺物が出土した。そのため、浪人川より西側の範囲に遺物包含層が存在することが明らかになった。

遺物は土師器と須恵器、灰釉陶器が少量出土した。そのうち 2 点を図示した（第 73 図）。

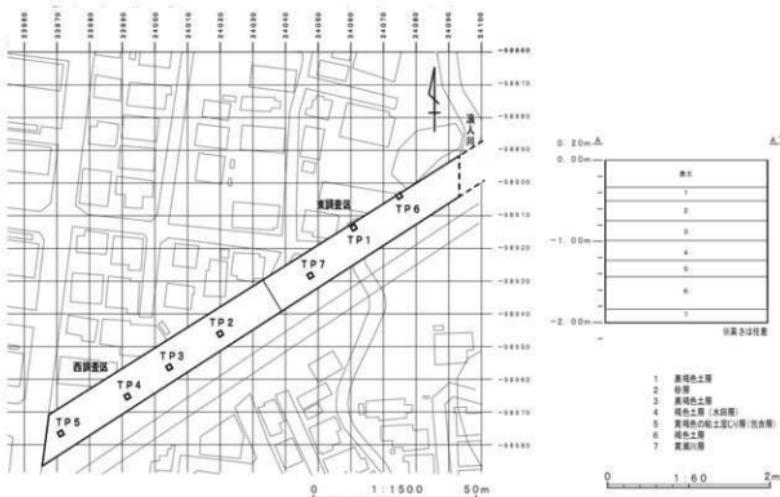
1 は 9 世紀後半頃の須恵器の碗である。2 は貼付高台の灰釉模倣土師器である。時期は 10 世紀半ばから後半頃のものである。

遺物包含層の層厚が極めて薄いことや、水田耕作土層が存在することなどから、当該地はかつて遺跡が存在したが水田耕作のため大きく破壊され、ほぼ消滅したと判断される。

また、浪人川より東側は、周辺地形より標高が 1 m 以上削平されていることから、埋蔵文化財が遺存している可能性は極めて低いと判断した。



第 71 図 高架側道 7 号線調査位置図



第72図 高架側道7号線テストピット配置図・基本土層図



第73図 高架側道7号線出土遺物実測図

第10表 高架側道7号線出土遺物観察表

図版 番号	遺物 番号	出土地点	基盤 面積	口径 直徑 直径	胎土	構成	色調	残存部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第73図 1	-	TP1	硬	29.6 (3.0) -	白色・赤色砂粒	良好	HIV-1 灰色	口縁部	右口クロス成形 口縁部は外反する	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	淡黄色 IG後半
第73図 2	-	TP1	沖	- (2.0) (7.0)	白色・黑色 褐色・赤色砂粒	良好	HIV-2 HIV-3 内面 黒褐色 N4/D 黑色	底部	船付蓋台	外面 ナデ調査 内面 ナデ調査	反転複数 IG半(2~後半)

第5節 御手洗池地区

所在地

沼津市岡宮 71-6

調査面積

7.15m²

調査期間

平成26年2月4日～平成26年2月12日

調査原因

埋蔵文化財を把握するための試掘調査

遺跡の概要

当該地はJR沼津駅の北東約2kmの愛鷹山南麓に位置し、広池遺跡に近接している。調査地南西の筒井公園にはかつて木製井戸が存在し、その井戸を土管に交換する際に井戸底から約50個体の古墳時代の土器が出土したという伝承が残っている。そして平成24年には、広池遺跡の範囲内である天満宮から井戸枠が発見された。そのため、当該地の地下構造を確認するために、試掘調査を実施した。

広池遺跡は国道1号バイパス敷設の際に本発掘調査が行われており、弥生時代の打製石器や土器をはじめ、古墳時代前期の土器類、8世紀代の土器類が多数出土している。

調査の概要

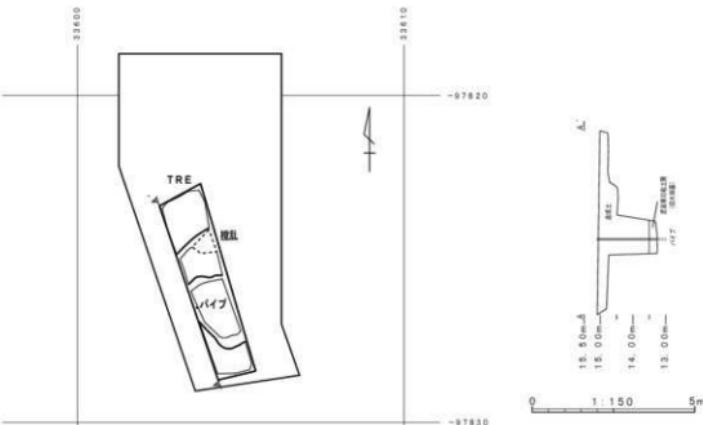
かつて井戸が存在した箇所に幅1.3m×長さ5.5mのトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。掘削後、測量及び写真撮影を行い、埋め戻して終了した。

調査の結果

地表面から1.8m掘り下げたところ、旧水田面である泥炭質の粘土層を確認したが、地下水がにじみ出したため、それ以上の掘り下げは困難となり調査を終了した。遺構や遺物は確認されなかつたことから、遺跡外と判断される。



第74図 御手洗池地区調査地位置図



第75図 御手洗池地区トレンチ配置図・断面図

第X章 平成 26 年度の調査

第1節 平成 26 年度の調査体制

平成 26 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	工藤浩史
	文化振興課		
		課 長	勝又恵三
		課長補佐	山本恵一・山内良太
		主幹兼文化財調査係長	池谷 信之
調査担当者			
戸田石丁場遺跡測量調査		主 事	原田雄紀
岡宮北土地区画整理事業地内試掘・確認調査 (大泉寺畠遺跡他)		主 事	原田雄紀
馬見塚古墳群他分布調査		主 事	原田雄紀

第2節 戸田石丁場

所在地

沼津市戸田字鳥ヶ原

調査対象範囲

約 1,200m²

調査期間

平成 26 年 6 月 16 日～平成 26 年 7 月 31 日

調査原因

今後の総合的調査や遺構保全に向けた基礎資料作成のため

遺跡の概要

田代山丁場は田代山の北側斜面に位置し、周辺には大浦丁場が存在する。大浦丁場周辺は簡易的な分布調査を行っており、角石や刻印、刻銘が多数確認されるとともに、田代山まで連続的に丁場が展開したことが明らかになっている。

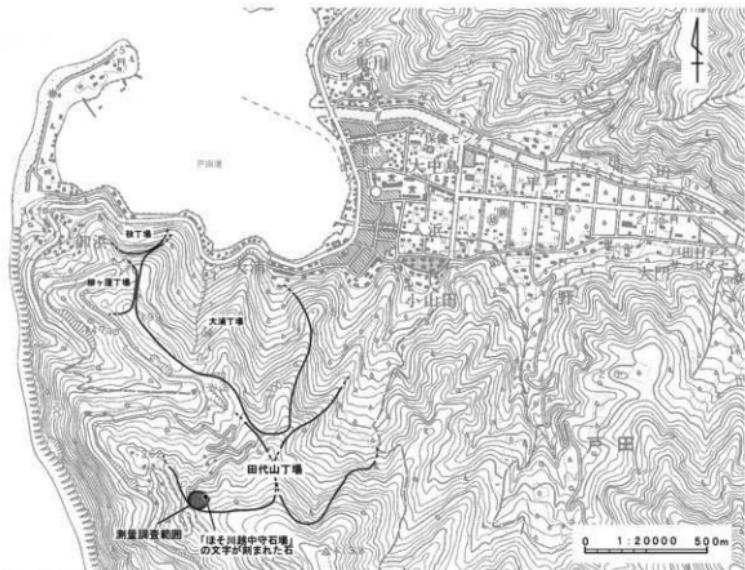
調査の概要

戸田石丁場は携帯型 GPS を使用した調査により、おおまかな分布は把握されている。しかし、その多くは山間部に立地することから、周辺地形を踏まえた遺構の立地環境等の情報は掴めていない。そのため、詳細な遺構図面を作成し、今後の総合的調査や遺構保全に向けた基礎資料を作成するために測量調査を実施した。

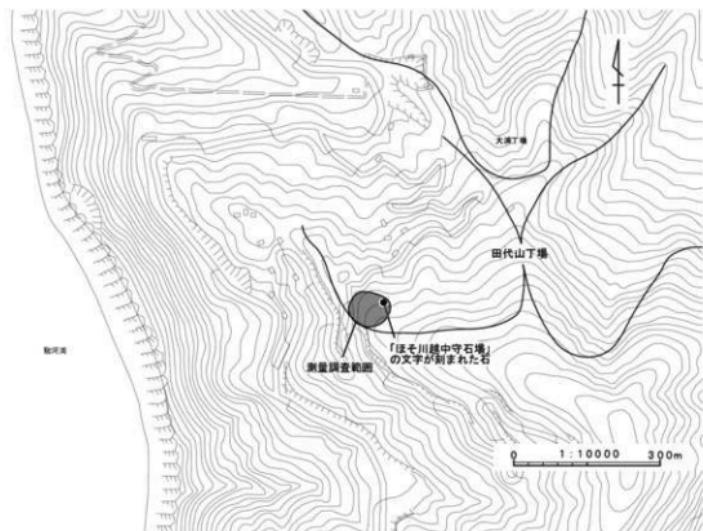
測量地点は、田代山丁場で最も西側に位置し、丁場が展開する北向き斜面が駿河湾側に落ち込む西側斜面に切り替わる尾根付近を対象とした。また、東側は「ほそ川越中守石場」の文字が刻まれた石がある（巻頭カラー・第 79 図）。

調査の結果

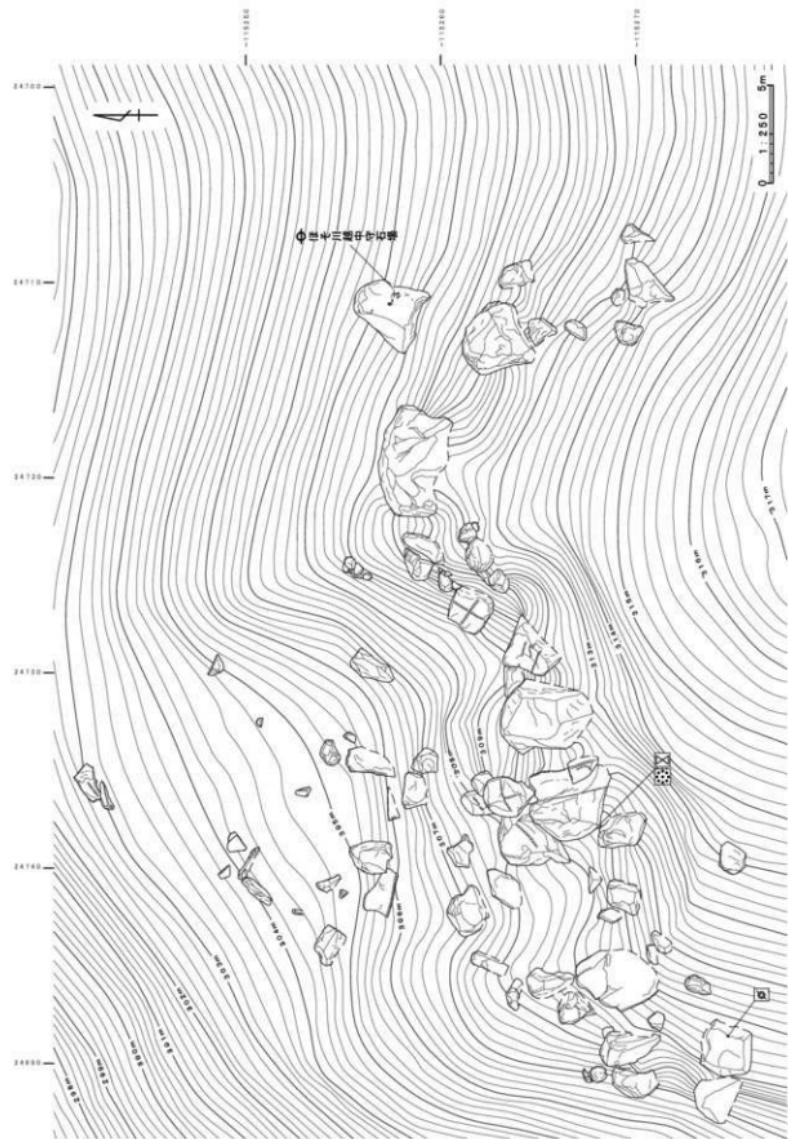
測量調査の結果、矢穴や刻印が刻まれた石の詳細な位置や地形状況を把握することができた（第 78 図）。さらに、標高 303 m から 305 m にかけて平坦地があり、尾根を人工的に削平し、作業場として機能していたと考えられる状況も確認された。



第 76 図 戸田石丁場調査地位置図（広域）



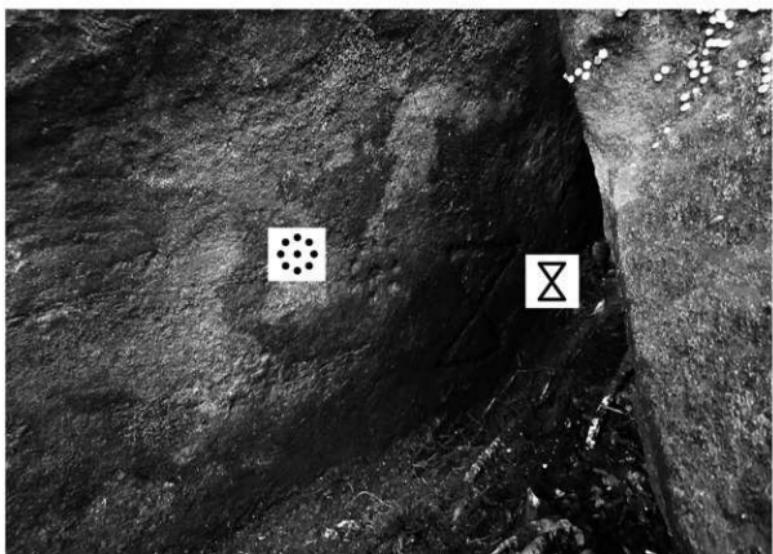
第 77 図 戸田石丁場調査地位置図（詳細）



第 78 図 戸田石丁場平面図



第 79 図 戸田石丁場刻石（1）「ほそ川越中守石場」



第 80 図 戸田石丁場刻石（2）

第3節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡他）

所在地

宮久保地点 沼津市岡宮字宮久保 696-1 外

伊右エ門畠地点 沼津市岡宮字伊右エ門畠 815 外

調査面積

38m² (工事対象面積 2,600m²)

調査期間

平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 1 月 8 日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

遺跡の概要

宮久保遺跡は、JR 沼津駅から北へ 2.5 km、標高 24 m 前後の平坦地に所在している。縄文土器をはじめ、奈良時代や平安時代の土器、住居址が確認されている集落跡である。

大泉寺畠遺跡は県立沼津東高等学校の南側一帯に広がり、標高は約 35 m から 47 m を測り、北から南へ緩やかに下る緩斜面上に所在する。縄文時代の石器や土器が確認される散布地であり、また奈良時代、平安時代の住居址や土器が確認される集落跡でもある。

調査の概要

調査対象地は宮久保地区と伊右エ門畠地区に分かれているが、いずれも岡宮北土地区画整理事業地内に含まれている。そのため、事前の試掘・確認調査を実施した。

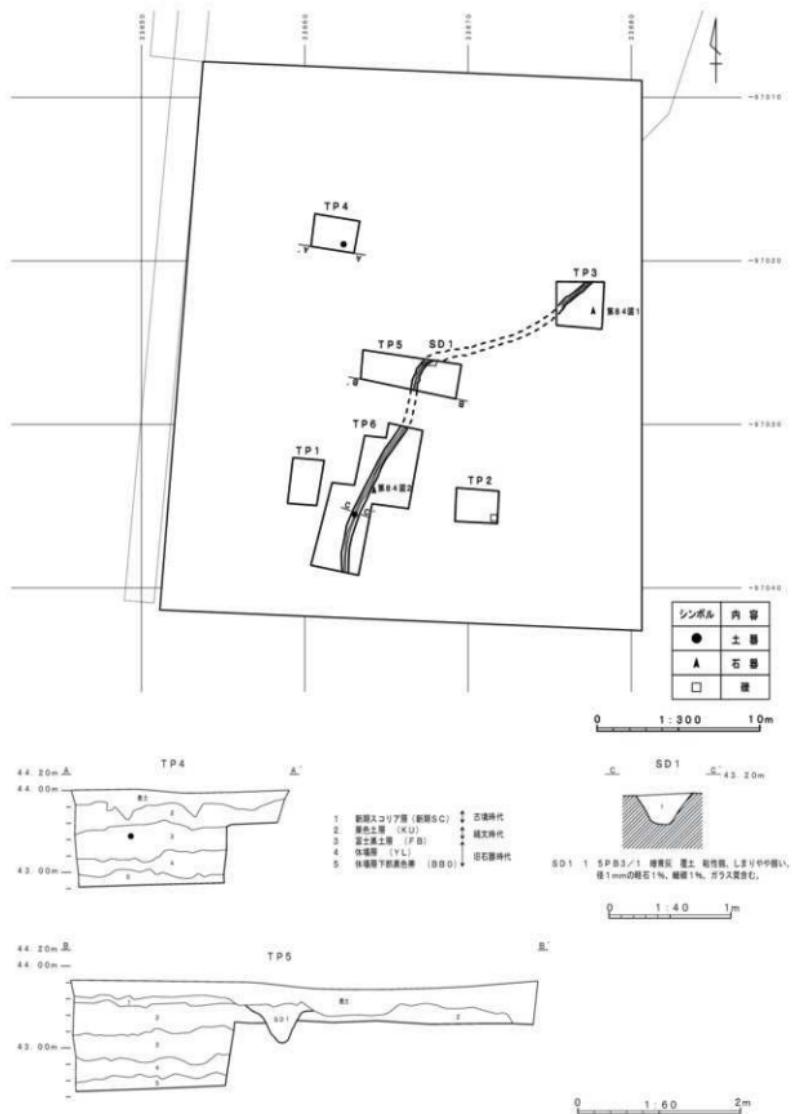
宮久保地区的調査は 2 m × 3 m のテストピットを 3か所設定し、重機によって掘削しながら、遺構・遺物の検出を行った。その後、測量、写真撮影による記録を実施した。



第 81 図 岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図



第 82 図 岡宮北土地区画整理事業地内宮久保地区テストピット配置図



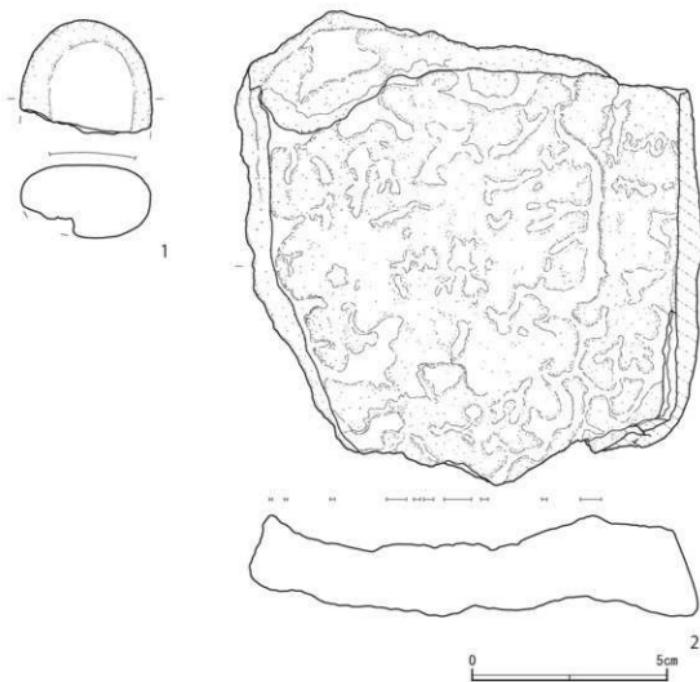
第83図 岡宮北土地区画整理事業地内伊右エ門畠地区テストピット配置図・断面図

一方、伊右エ門畠地区の調査は 2 m × 2 m のテストピットを 5 か所設定し、重機による表土掘削後、人力により第 I スコリア層まで掘り下げた。そして遺構と遺物の検出作業を行い、測量及び写真撮影による記録を実施した。

調査の結果

宮久保地区では遺構と遺物は認められなかったため、調査地は遺跡外と判断した。

伊右エ門畠地点はテストピット 3 と 5 から溝状遺構を検出したため、新たにテストピット 6 を設けたところ、溝状遺構の延長を確認した。しかし、時期を特定できるような遺物は出土しなかった。また、テストピット 3 と 6 からそれぞれ石器 1 点、テストピット 4 から縄文土器小片が 1 点出土している。遺物はそのうち石器 2 点のみ図示した（第 84 図）。1 は安山岩製で板状節理を有する磨石である。2 は安山岩製の台石である。



第 84 図 岡宮北土地区画整理事業地内伊右エ門畠地区出土遺物実物図

(1/3)

第 11 表 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表

団体番号	遺物名	出土地点	器種	石材	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第 84 圖 1	2	伊右エ門畠地区 TP1	磨石	安山岩	Ku	7.0	8.1	4.5	312	板状節理
第 84 圖 2	5	伊右エ門畠地区 TP6	台石	安山岩	Ku	29.1	28.8	5.7	6040	

第4節 馬見塚古墳群

所在地

沼津市足高、宮本、西沢田、東椎路、西椎路

調査対象範囲

約800,000m²

調査期間

平成27年2月23日～平成27年3月13日

調査原因

遺跡未確認地域の詳細把握のため

遺跡の概要

調査範囲内には、西大曲東遺跡や芝荒遺跡、西大曲第II遺跡等多数の遺跡が存在している。

調査の概要

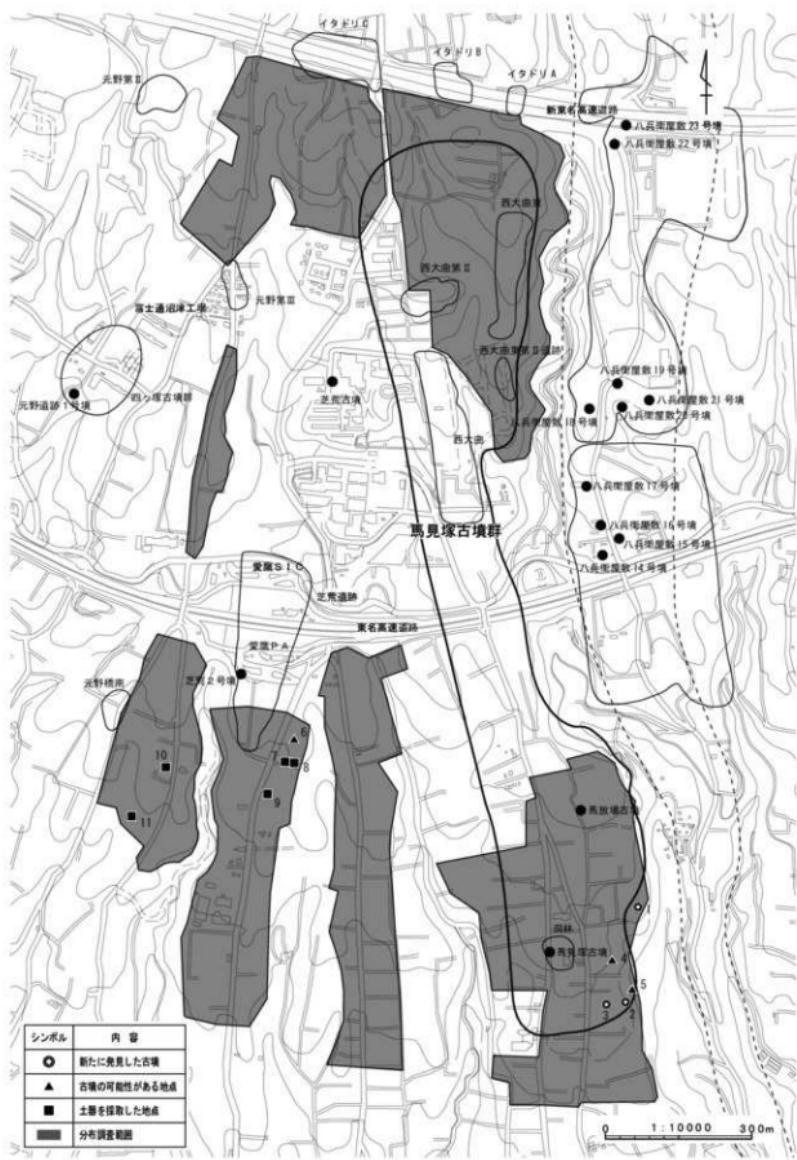
分布調査は、東名愛鷹スマートインターチェンジから南北2km、東西1kmの範囲にある標高約60から180mにかけての愛鷹山麓南側斜面地を中心に行なった。調査の目的は、調査対象地一帯に、既知の古墳とは別に未確認の古墳が存在することが想定されたため、改めて分布調査を行い、古墳の分布状況を把握することであった。

分布調査の方法は、古墳と推測される微高地形や大形の石が確認された地点にGPS機器を用いて記録し、写真撮影を行った後リスト化した。遺物が採取された地点についても、古墳と同様に位置等を記録した。

調査の結果

分布調査の結果、新規発見した古墳は3基、古墳の可能性がある地点は3か所認められ、遺物を採取した地点は5か所に及んだ(第85図)。新規古墳3基は、馬見塚古墳の東側から南東側で確認された。このうち2基は茶畑の造成により墳丘、石室を大きく損傷しているのに対し、1基は墳丘の残存状況が良好であった。古墳の可能性のある3地点では大形の石が見つかり、いずれも石室石材の可能性があるが、明確な墳丘は確認されていない。土器を採取した地点は芝荒遺跡の南側に点在するが、周辺遺跡からの土砂流出の可能性もあり、遺跡として扱うか保留とした。

分布調査結果から、馬見塚古墳、馬放場古墳等を含む古墳群として、新規に周知の埋蔵文化財包蔵地登録を行った。



第 85 図 馬見塚古墳群調査地位置図

第XI章 平成 27 年度の調査

第1節 平成 27 年度の調査体制

平成 27 年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	井原正利
	文化振興課	課 長	勝又惠三
		課 長 補 佐	山内良太
		主幹兼文化財調査係長	池谷 信之

調査担当者

岡宮北土地区画整理事業地内試掘・確認調査 (大泉寺畠遺跡・山神上遺跡他)	主 任	小崎 晋
	学 芸 員	谷口哲也
西浦久料石丁場遺跡測量調査	主 事	原田雄紀

第2節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡・山神上遺跡他）

所在地

1次調査

沼津市岡宮字中荒句 1172-7 外

2次調査

沼津市岡宮字伊右エ門畠 803 外

調査面積

1次調査 60m² (工事対象面積 5,600m²)

2次調査 45m² (工事対象面積 3,561m²)

調査期間

1次調査

平成 27 年 6 月 8 日～平成 27 年 7 月 30 日

2次調査

平成 28 年 2 月 15 日～平成 28 年 3 月 18 日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

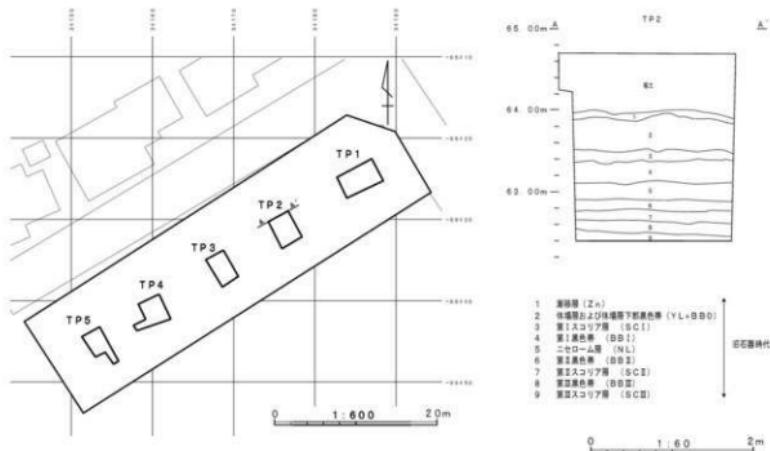
遺跡の概要

大泉寺畠遺跡は県立沼津東高等学校の南側に所在する。標高は約 35m から 47m を測り、北から南へ緩やかに下る緩斜面上にある。縄文時代の石器や土器が確認される散布地であり、また奈良時代、平安時代の住居址や土器が確認される集落跡である。

山神上遺跡は、大泉寺畠遺跡から東側へ約 30m 離れた一帯に広がる。標高は 41m 前後であり、東側は自然の谷地形を呈している。縄文時代の石器や、奈良時代、平安時代の土師器や須恵器が確認されている散布地である。



第 86 図 岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図



第 87 図 岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査 1 区テストピット配置図・断面図

調査の概要

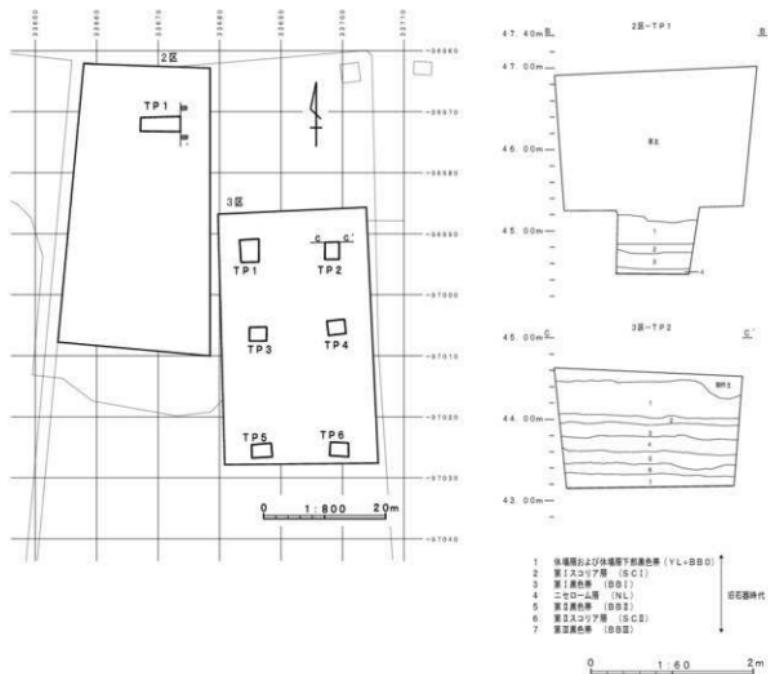
1 次調査の対象地は、調査地点が点在するため 1 区から 5 区まで分けた。1 区は県立沼津東高等学校から北東へ約 700 m の中荒丘地点、2 区、3 区は大泉寺畠遺跡と山神上遺跡の中間地点、そして 4 区と 5 区は山神上遺跡の南東端にあたる地点である。2 次調査の対象地は大泉寺畠遺跡の北東端にあたる地点である。

調査は各調査区に $2 \text{ m} \times 2 \text{ m}$ のテストピットを設定し、表土層を重機によって除去した後、第三スコリア層上面までは人力による掘り下げを行った。その後、測量及び写真撮影を行い、埋め戻して完了した。

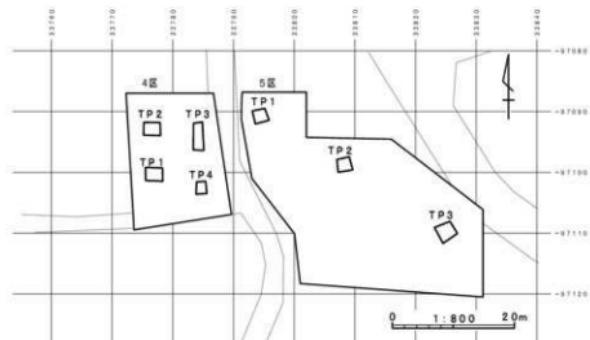
調査の結果

1 次調査はいずれのテストピットからも遺構、遺物は確認できなかった。そのため、調査地は遺跡外と判断した。

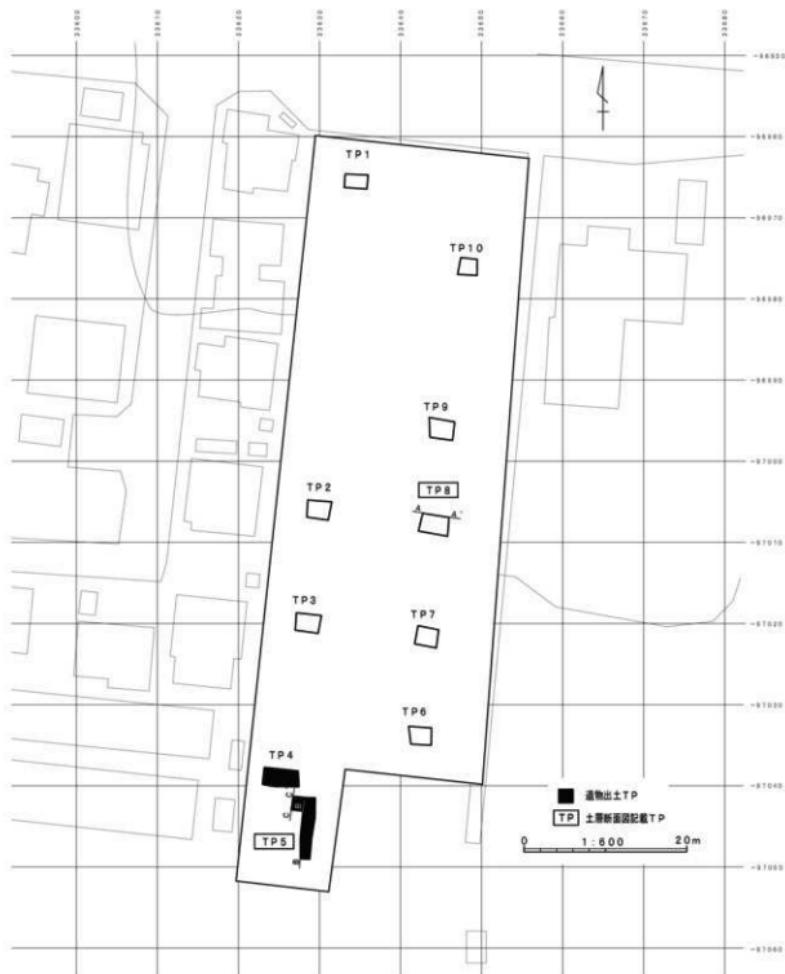
2 次調査では、遺構は認められなかったがテストピット 4 と 5 から縄文土器と石器、剥片が数点出土した。出土した遺物のうち 3 点を図示した(第 92 図)。1 は五角形窓の一種である。素材は片理を有する細粒凝灰岩(緑色凝灰岩)で、丹沢世附(よづく)産と推測される。2 はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。打面側と下端部が折れている。3 は縄文時代早期前半の撚糸文土器口縁部である。



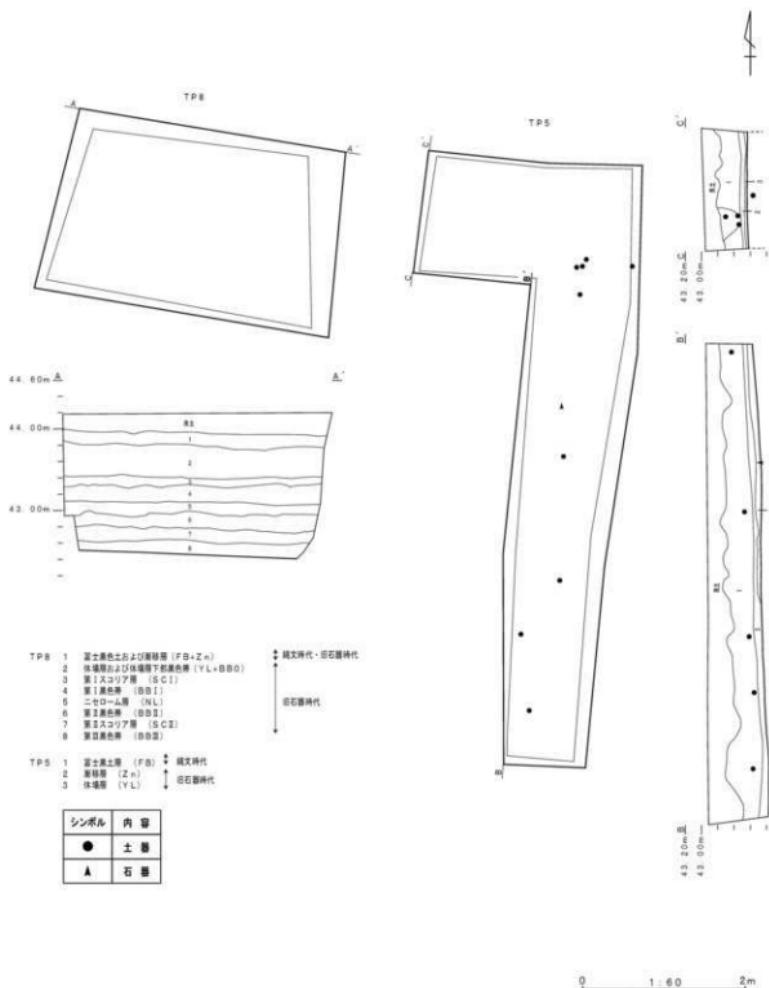
第 88 図 岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査 2 区・3 区テストピット配置図・断面図



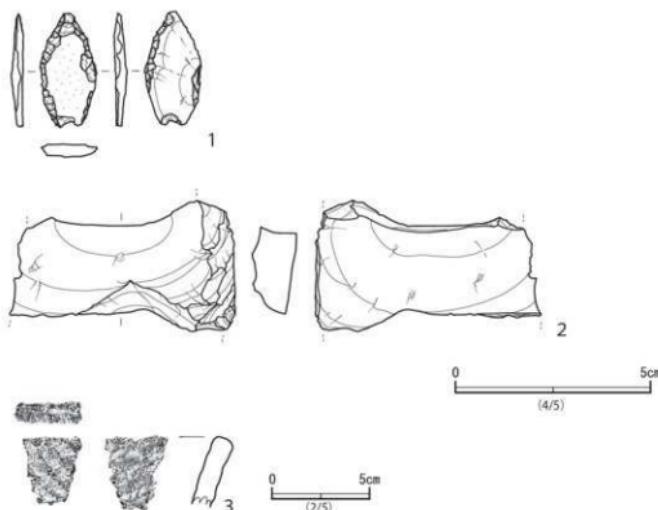
第 89 図 岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査 4 区・5 区テストピット配置図



第 90 図 岡宮北地区画整理事業地内 2 次調査テストピット配置図



第91図 岡宮北土地区画整理事業地内2次調査テストピット平面図・断面図



第 92 図 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図

第 12 表 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表

石器

図版番号	遺物名	出土地点	基種	石片	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第 12 図 1	-	2-TP5	石器	基底面	YL	4.65	2.34	0.30	1.4	
第 12 図 2	-	2-TP5	鉋片	ガラス質黒色 宝山岩	-	5.78	3.31	1.73	28.9	印石器

縄文土器

図版番号	遺物名	出土地点	土器型式	層位	特徴	粘土	基種	施丹部位	色調	備考
第 12 図 3	2	2-TP5	縄文土器	FB	草創前半	白色の岩片3%程度含む 1mm前後の砂利5%程度含む	-	口縁部	SIM4-2 に近い赤褐色	

第3節 西浦久料石丁場

所在地

沼津市西浦久料

調査対象範囲

約 200m²

調査期間

平成 28 年 3 月 8 日～平成 28 年 3 月 31 日

調査原因

経営体育成基盤整備事業（農業生産基盤整備事業）

遺跡の概要

西浦地区は江戸城の石垣石材を切り出した石丁場が多く現存する。その中でも久料地区は、久保田家文書に阿波蜂須賀家の仲洞丁場の名称の記述があることや、蜂須賀家の家紋とされる「卍」の刻印が刻まれた石が発見されるなど蜂須賀家との関係が深い地区である。

調査の概要

調査対象地は、静岡県東部農林事務所による農業生産基盤整備事業が進行中である。その工事計画の中で周辺地盤のかさ上げ及び道路改良が予定されている。将来的に石丁場跡への影響も想定され、このことから遺構の現況を記録保存するため測量調査を実施した。

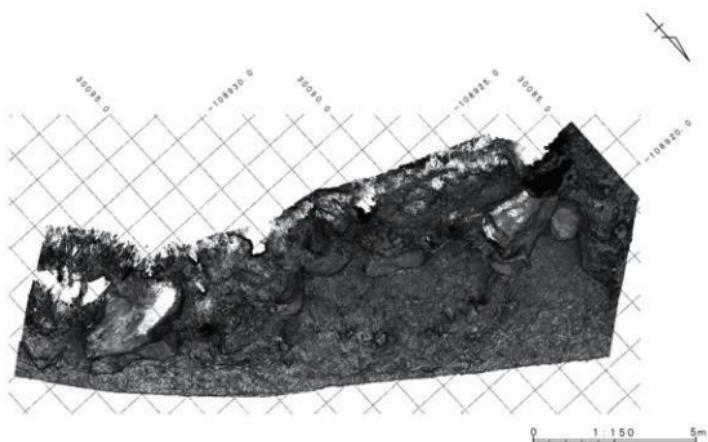
調査は、トータルステーションを用いて、地表に露出して矢穴が刻まれた石 2 点を含む約 20 m の範囲の微細地形と矢穴が刻まれた石の分布状況の計測・記録を行った。

調査の結果

今後の基礎資料として当該地の測量データ、図面等を作成した（第 94 図・第 95 図）。



第 93 図 西浦久料石丁場調査地位置図



第 94 図 西浦久料石丁場平面図



第 95 図 西浦久料石丁場立面図

第XII章 平成28年度の調査

第1節 平成28年度の調査体制

平成28年度の市内遺跡発掘調査等事業は以下の体制で実施した。

調査主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	服部裕美子
調査事務担当	沼津市教育委員会事務局	教 育 次 長	井原正利
	文化振興課	課 長	中島康司
		課 長 補 佐	山内良太
		文化財調査係長	鶴田晴徳
調査担当者			
岡宮北土地区画整理事業地内確認調査 (大泉寺畠遺跡・山神上遺跡)		主 任	小崎 晋
		学芸員	谷口哲也
		学芸員	小林晃太郎
西浦地内分布調査		文化財調査係長	鶴田晴徳
		主 事	原田雄紀

第2節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡・山神上遺跡）

所在地

1次調査

沼津市岡宮 802-1 外

2次調査

沼津市岡宮 816 外

調査面積

1次調査 64m² (工事対象面積 1,900m²)

2次調査 88m² (工事対象面積 3,200m²)

調査期間

1次調査

平成28年5月16日～平成28年6月17日

2次調査

平成29年2月15日～平成29年3月31日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

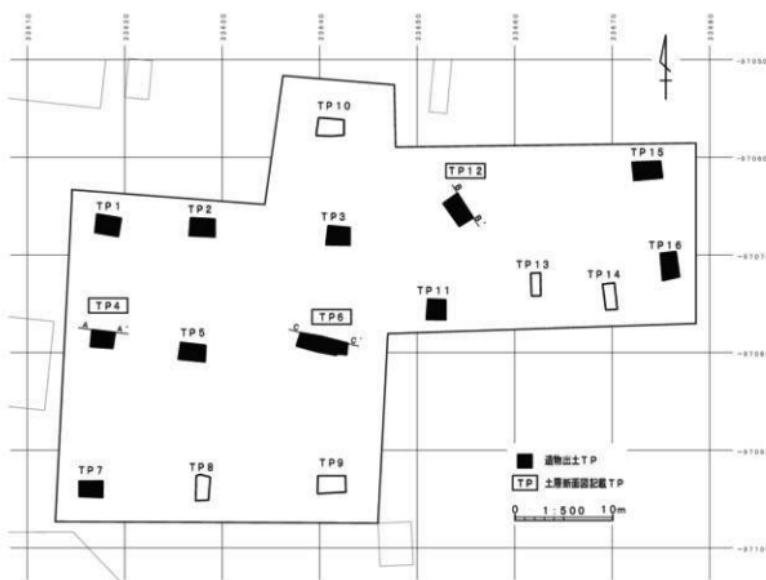
遺跡の概要

大泉寺畠遺跡は県立沼津東高等学校の南側に所在する。標高は約35mから47mを測り、北から南へ緩やかに下る緩斜面上にある。縄文時代の石器や土器が確認される散布地であり、また奈良時代、平安時代の住居址や土器が確認される集落跡である。

山神上遺跡は、大泉寺畠遺跡から東側へ約30mの地点に位置する。標高は41m前後であり、東側は自然の谷地形を呈している。縄文時代や奈良時代、平安時代の遺物が確認されている散布地である。



第96図 岡宮北土地区画整理事業地内調査地位置図



第 97 図 岡宮北土地区画整理事業地内 1 次調査テストピット配置図

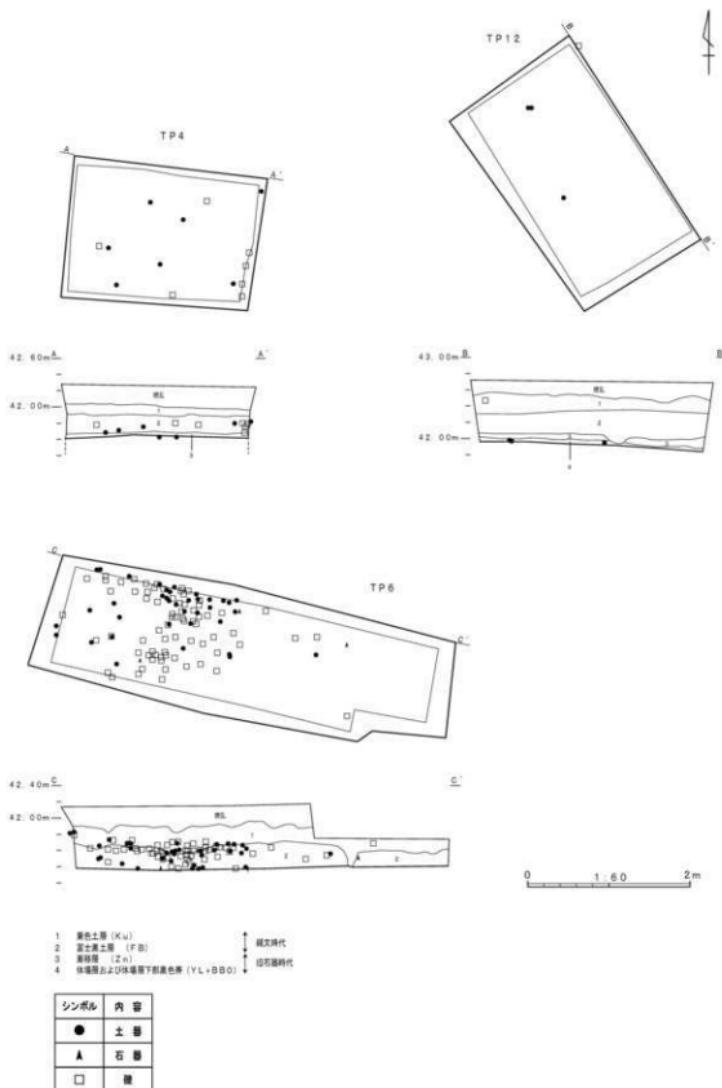
調査の概要

対象地は県立沼津東高等学校南側の約 150 m 地点に位置し、大泉寺畠遺跡及び山神上遺跡内に含まれる。1 次調査と 2 次調査併せて 38 か所のテストピットを設定した。調査は、いざれも重機により表土除去を行ったのち、人力で休場層上面まで掘削した。遺構、遺物が出土しなかったテストピットについては、第 III スコリア層まで掘削した。そして測量、写真撮影を行い埋め戻して完了した。

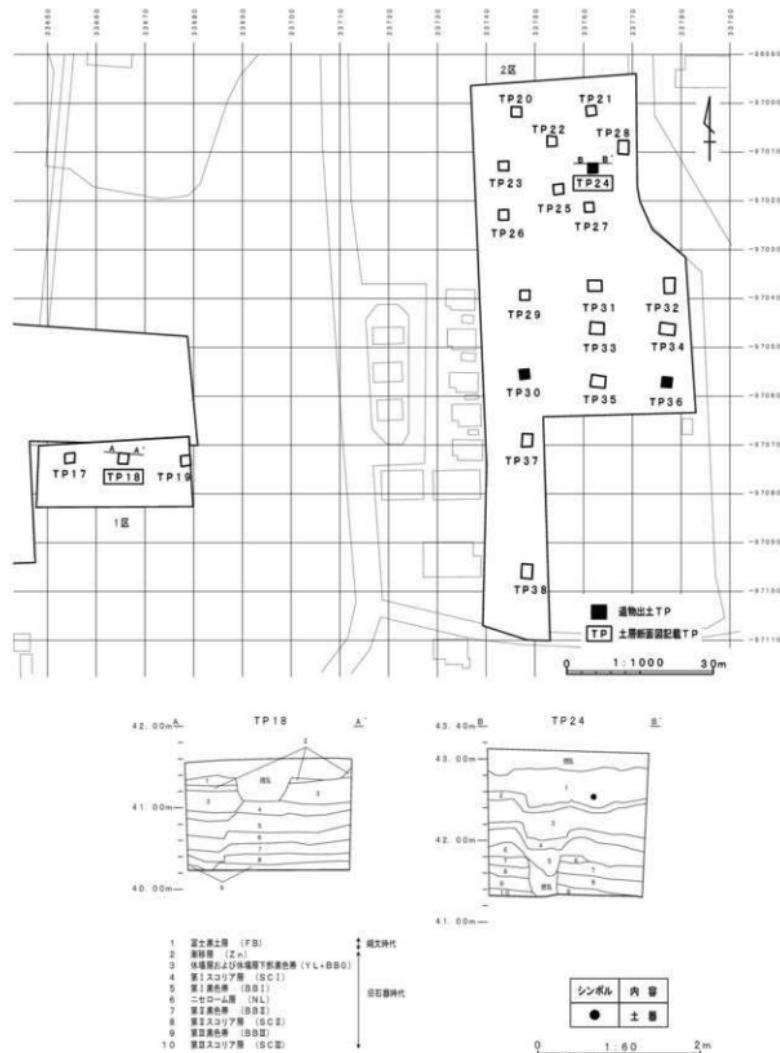
調査の結果

1 次調査区は、16 か所設定したテストピットのうち 11 か所から遺物を確認した。遺構は確認されなかった。出土した遺物は、旧石器時代の石器や縄文時代早期前半の撚糸文土器、礫、平安時代の土師器片、灰釉陶器である（第 100 図・第 101 図）。1 から 16 は縄文時代早期前半の撚糸文土器である。19 は磨石で、20 は特殊磨石である。

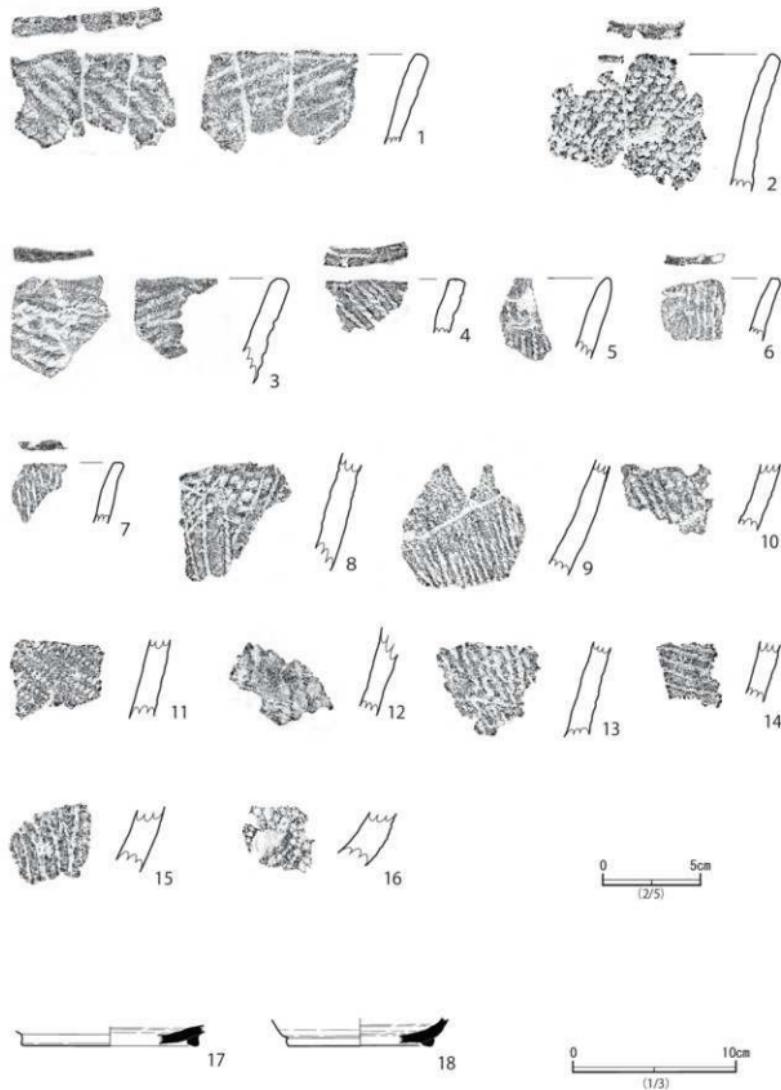
2 次調査では 22 か所設定したテストピットのうち 3 か所から遺物を確認した（第 100 図）。遺構は確認できなかった。17 は 7 世紀後半頃の土器碗の底部である。18 は 7 世紀後半から 8 世紀初頭の有台坏身底部である。



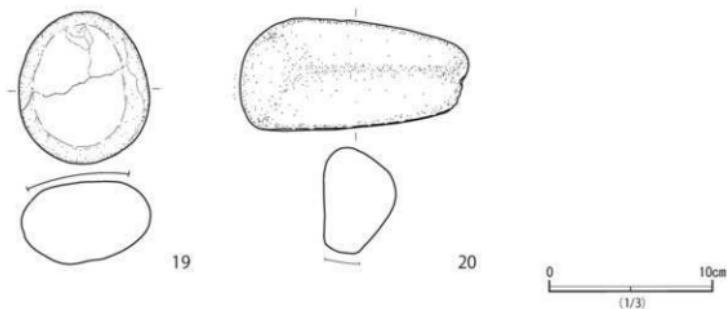
第98図 岡宮北土地区画整理事業地内1次調査テストピット平面図・断面図



第99図 岡宮北土地区画整理事業地内 2次調査テストピット配置図・断面図



第 100 図 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（1）



第101図 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（2）

第13表 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表（1）

縄文土器

団体 番号	遺物 番号	出土地点	土器型式	層位	特徴	地質	断面部	色調	備考
第100回 1	141	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	73YR4/2 褐色
第100回 2	140	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	SVR4/2 褐色
第100回 3	78	TP2	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	SVR4/2 褐色
第100回 4	198	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	73YR2/1 褐色
第100回 5	175	TP5	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	SVR3/2 褐色
第100回 6	91	TP4	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	SVR4/2 に少し赤褐色
第100回 7	97	TP4	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	口縁部	SVR4/2 に少し赤褐色
第100回 8	27	TP6	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	SVR4/2 に少し赤褐色
第100回 9	138	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	23YR4/4 に少し赤褐色
第100回 10	87	TP3	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	23YR4/4 に少し赤褐色
第100回 11	171	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	SVR4/2 褐色
第100回 12	103	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	SVR4/2 褐色
第100回 13	199	TP6	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	SVR4/2 に少し赤褐色
第100回 14	180	TP5	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	SVR4/2 に少し赤褐色
第100回 15	202	TP2	黒糸文土器	FB	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	SVR4/4 に少し赤褐色
第100回 16	177	TP5	黒糸文土器	Ku	草湖町半	白色の表面 25程度含む 1mm前後の砂粒含む	—	瓶部	23YR4/4 に少し赤褐色

第14表 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表（2）

須恵器

団体 番号	遺物 番号	出土地点	器種	口縁 器高 底径	胎土	形成	色調	残存部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第100 団 17	—	2次調査 直接	罐	— (1.7) 4.4	白色 黒色砂粒	良好	2.5Y5/1 黄灰色	全体～底部	點付蓋台	外面 田軒ナゲ 内面 田軒ナゲ	TC後半
第100 団 18	—	2次調査 直接	坪身	(1.25) 10.6	白色 黒色砂粒	良好	1D1H5/2 灰黃褐色	底部	點付蓋台	外面 田軒ナゲ 内面 田軒ナゲ	TC後半～BC初期

石器

団体 番号	遺物№	出土地点	器種	石材	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第101 団 19	E1	TP6	磨石	安山岩	FB	9.4	9.1	5.0	414	
第101 団 20	E20	TP6	特殊磨石	安山岩	FB	14.1	6.9	4.6	602	

第3節 西浦地内分布調査

調査対象地

沼津市内浦重須、西浦木負、西浦河内、西浦久連、西浦平沢、西浦立保、西浦古宇、西浦足保

調査対象範囲

約 800,000m²

調査期間

平成 28 年 8 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日

調査原因

経営体育成基盤整備事業（農業生産基盤整備事業）

遺跡の概要

対象範囲東側にあたる重須地区には長井崎遺跡が存在する。長井崎遺跡は、現在長井崎中学校が建てられている場所一帯にあり、達磨山の裾が駿河湾に向かって突き出した岬の上に立地している。縄文時代・弥生時代・奈良時代そして平安時代の時期の遺物が出土している。

また、対象範囲中央にあたる西浦足保地区や古宇地区は、江戸時代の石丁場跡が確認されている。加藤家文書等によると、尾張徳川家の石丁場であったことが記されている。また、細川家史料からは、足保地区の林丁場は明暦 3 年（1657）に平石を中心に 2,460 本の石を預けられていることが記されているなど、江戸城石垣普請にとって重要な石丁場の一つであったことが伺える。

その他にも、海岸線沿いには権現台遺跡や合渡遺跡、平沢古墳群、足保平尾遺跡等の縄文時代から古墳時代にかけて断続的に続いた集落遺跡が多数存在している。

調査の概要

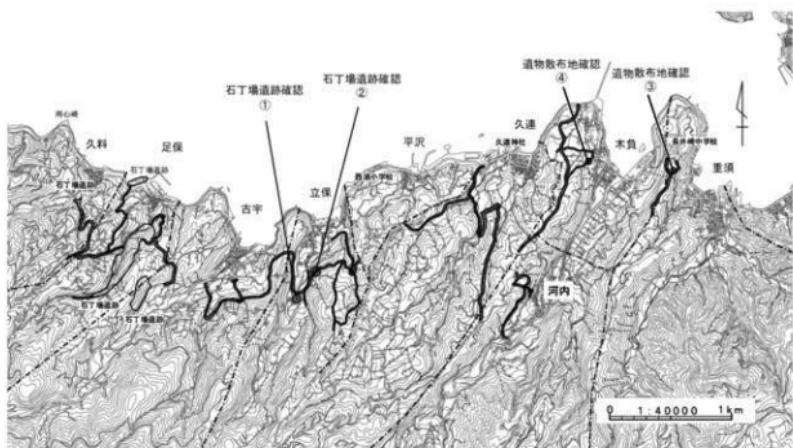
分布調査対象地は、達磨山北側斜面の内浦重須地区から西浦足保地区の東西約 5 km に広がる範囲であり、静岡県東部農林事務所による経営体育成基盤整備事業（農業生産基盤整備事業）が実施されている地区である。付近には江戸時代の石丁場跡が数多く点在することから、平成 26 年に西浦古宇以東の埋蔵文化財の分布調査を行い、事業との調整を図ってきた。平成 28 年度は、静岡県東部農林事務所から当該年度以降の事業について説明を受け、工事を行う区域を優先して分布調査を行うこととなった。

分布調査は、事業予定図をもとに、道路整備が行われる範囲を踏査した。埋蔵文化財が認められた箇所については、GPS 機器等によりその位置の記録及び写真撮影をした。

調査の結果

分布調査の結果、新たに西浦立保地区で石丁場跡 2 か所と、内浦重須地区及び西浦木負地区で遺物散布地 2 か所を確認した（第 102 図）。

内浦重須地区（第 102 図③）で表採した遺物は、縄文土器片や古代の土師器片である（写真図版 PL26）。西浦木負地区（第 102 図④）で表採した遺物は、黒曜石の剥片や古代の土師器片、土錘、近世の擂鉢片である（写真図版 PL26）。



第 102 図 西浦地内分布調査調査地位置図

主要参考・引用文献

[論文等]

嶋田繁 2000 「伊豆半島、天城カワゴ平火山の噴火と縄文時代後～晩期の古環境」

『第四紀研究』39

柴垣勇夫 2001 「沼津市日吉廃寺跡出土の瓦」『沼津市史研究』10 沼津市教育委員会

鈴木敏則 2001 「湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』第5分冊

東海土器研究会

加納俊介・石黒立人 2002 「弥生土器の様式と編年—東海編—」株式会社木耳社

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2002 「白鳳のイメージ—奈良県出土埴仏展—」

沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会 2002 「沼津市史 資料編 考古」

真鍋俊照 2004 「日本仏像事典」吉川弘文館

菊川シンポジウム実行委員会 2005 「陶磁器から見る静岡県の中世社会」

(発表要旨・論考編) (資料編)

沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会 2005 「沼津市史 通史編 原始・古代・中世」

沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会 2006 「沼津市史 通史編 近世」

愛知県史編さん委員会 2007 「愛知県史 別編窯業2 中世・近世 潤戸系」愛知県

文化庁文化財部記念物課 2010 「発掘調査の手引き—整理・報告書編—」文化庁

愛知県史編さん委員会 2012 「愛知県史 別編窯業3 中世・近世 常滑系」愛知県

有吉重蔵 2018 「古瓦の考古学」考古調査ハンドブック18 ニューサイエンス社

[報告書]

池谷初恵 1995 「伊豆国における奈良平安時代の土器様相—三島市壱町田遺跡を中心として—」

『大場川遺跡群』三島市教育委員会

鈴木敏則 2001 「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

富士市教育委員会 2002 「東平遺跡 第16地区(三日市廃寺跡)、第27地区発掘調査報告書」

中日本高速道路株式会社東京支社・静岡県埋蔵文化財センター 2013

『篠場瓦窯跡・上海土遺跡(第二東名No.130地点)』静岡県埋蔵文化財センター調査報告

第27集

原田雄紀 2015 「沼津市の石丁場遺跡」『伊豆半島の石丁場遺跡』静岡県文化財調査報告書第66集

静岡県教育委員会

写 真 図 版



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 1 (北東より)



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 2 (西より)



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 3 (北より)

P.L. 2



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 4 (南東より)



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 5 (南より)



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 6 (北より)



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 7 (東より)



平成 14 年度
興國寺城跡トレンチ 8 (東より)



平成 14 年度
興國寺城跡出土遺物

P.L. 4



平成 19 年度日吉廃寺跡・三芳町遺跡
1区トレンチ 5 (西より)



平成 19 年度日吉廃寺跡・三芳町遺跡
6区トレンチ (北より)



1



2

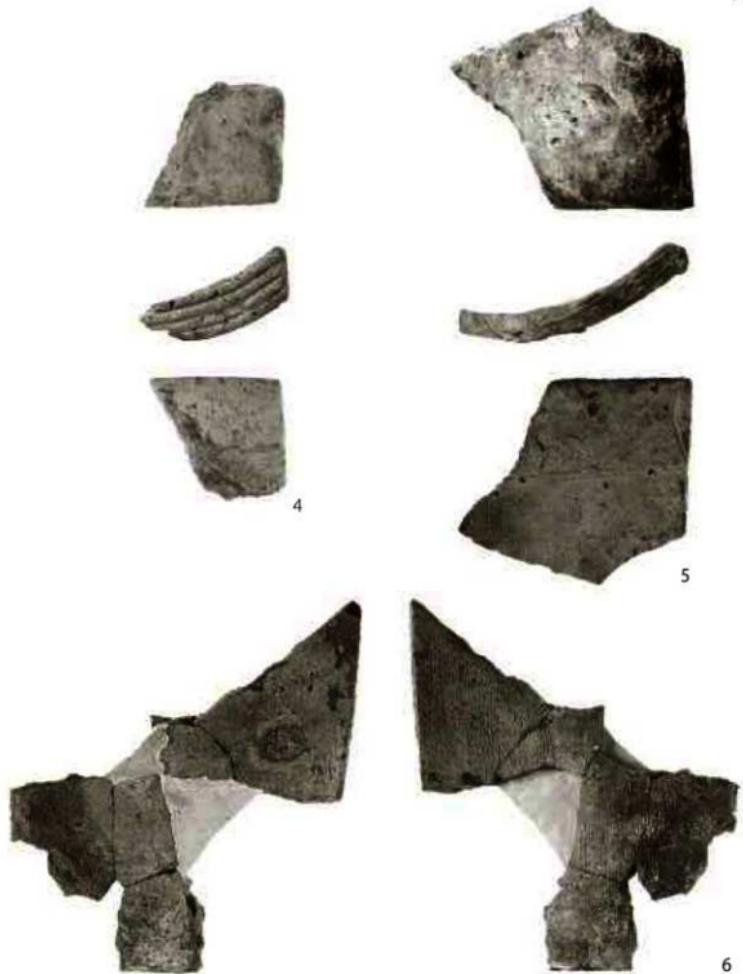


7



3

平成 19 年度日吉廃寺跡・三芳町遺跡出土遺物 (1)



平成 19 年度日吉廃寺跡・三芳町遺跡出土遺物（2）



平成 19 年度日吉廃寺跡・三芳町遺跡出土遺物（3）

P.L. 6



平成 19 年度
静岡東部拠点第一地区
土地区画整理事業地内
掘立柱建物跡（西より）



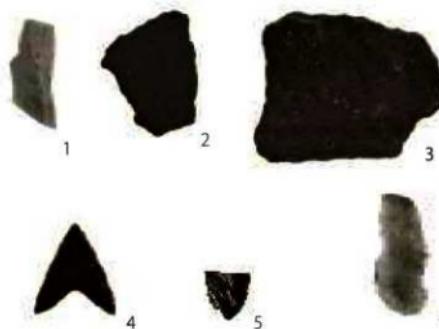
平成 19 年度
静岡東部拠点第一地区
土地区画整理事業地内出土遺物



平成 19 年度
三明寺遺跡テストピット 2



平成 19 年度
拓南遺跡テストピット 7 (西より)



平成 19 年度
拓南遺跡出土遺物



平成 20 年度
三明寺遺跡・子ノ神遺跡
テストピット 13 (北より)

P.L. 8



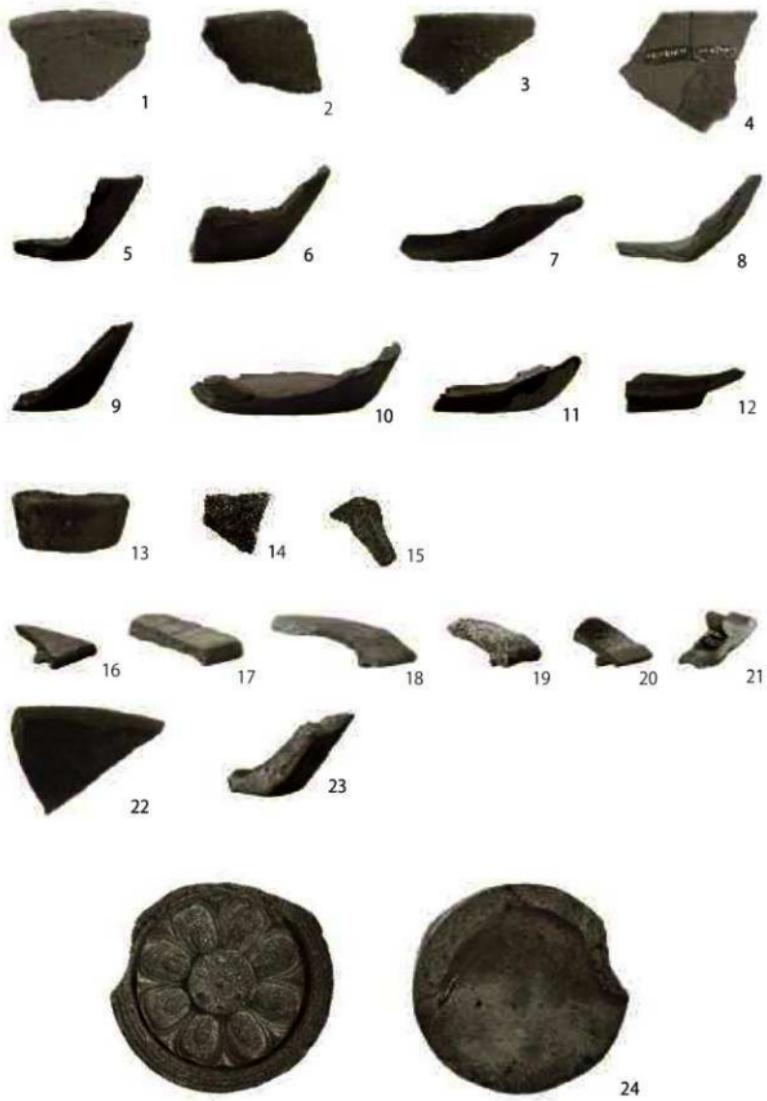
平成 21 年度
日吉廬寺跡 1 区トレンチ 1
北側遺構検出状況（南より）



平成 21 年度
日吉廬寺跡 2 区トレンチ 1
遺物出土状況（北より）



平成 21 年度
日吉廬寺跡 2 区トレンチ 3
遺物出土状況（東より）



平成 21 年度日吉廃寺跡出土遺物（1）



25



26



27



28



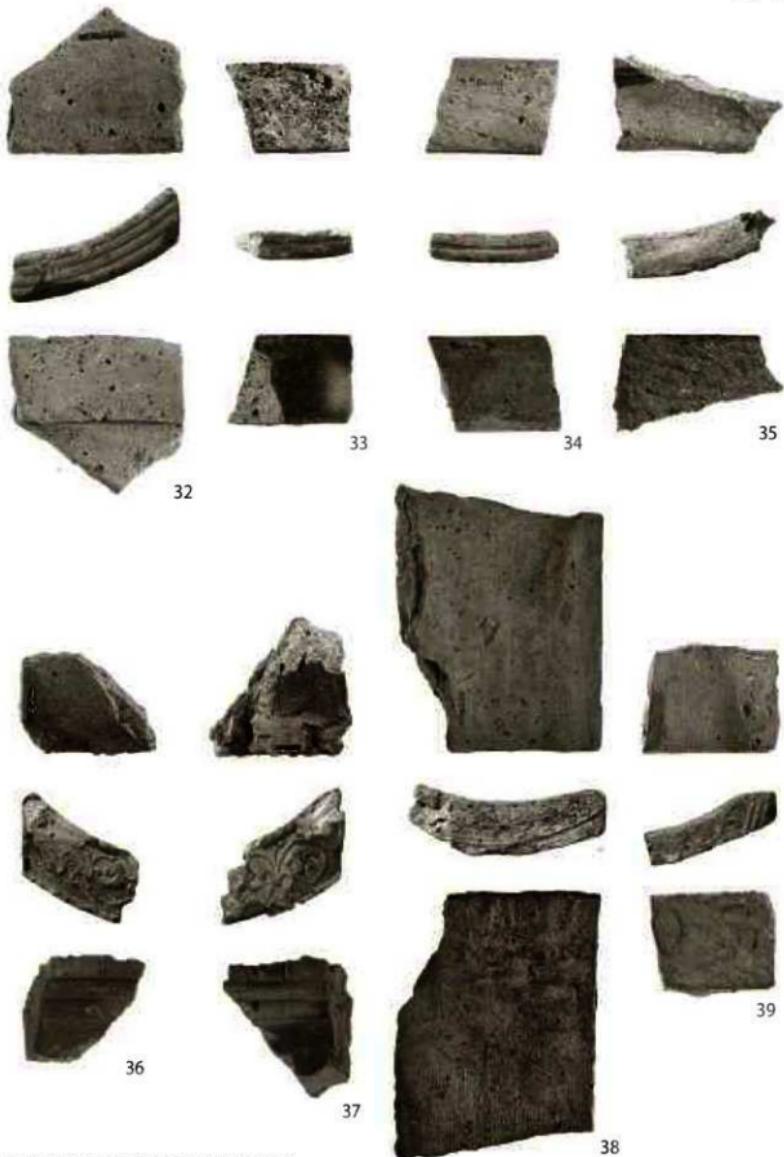
29



30

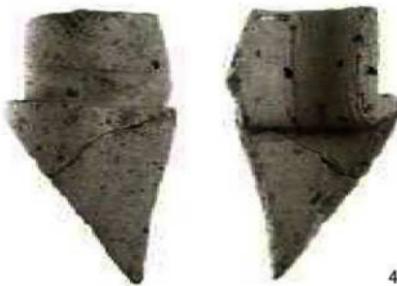


31

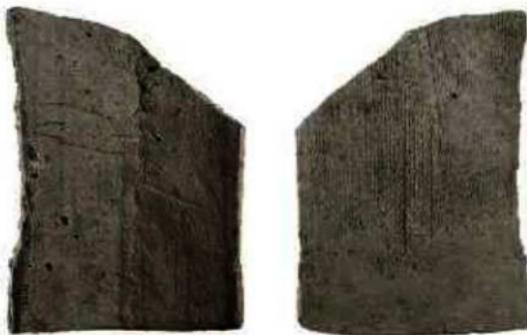




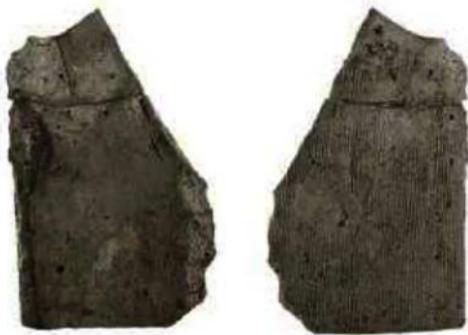
40



41

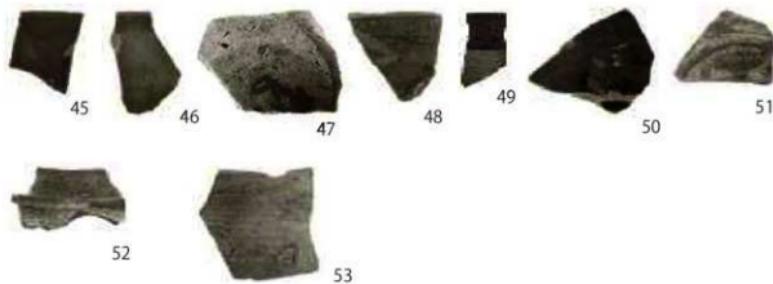


42



43

P.L. 14



平成 21 年度日吉廐寺跡出土遺物（6）



平成 21 年度日吉廐寺跡出土遺物（7）



平成 22 年度
三芳町遺跡 1 区トレンチ 3
住居址 1 (北より)



平成 22 年度
三芳町遺跡 2 区トレンチ
住居址 2 (北より)



平成 23 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
1 区テストピット 2 (北より)

P.L. 16



平成 23 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
2 区テストピット 6 (西より)



平成 23 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
3 区テストピット 10 (北より)



1

平成 23 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
出土遺物



平成 24 年度
日吉廃寺跡南壁土層断面図
(北より)



平成 24 年度
日吉廃寺跡完掘状況（西より）



平成 24 年度
日吉廃寺跡土坑 3
遺物出土状況（南より）



1



2



4



3



5





平成 24 年度
日吉廻寺跡出土遺物（2）



平成 24 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
テストピット 3（南より）



平成 25 年度
御幸町遺跡テストピット 9
(東より)



平成 25 年度
御幸町遺跡テストピット 10
(東より)



平成 25 年度
高架側道 7 号線
テストピット 2 (南西より)



平成 25 年度
高架側道 7 号線
テストピット 3 (南西より)



1



2

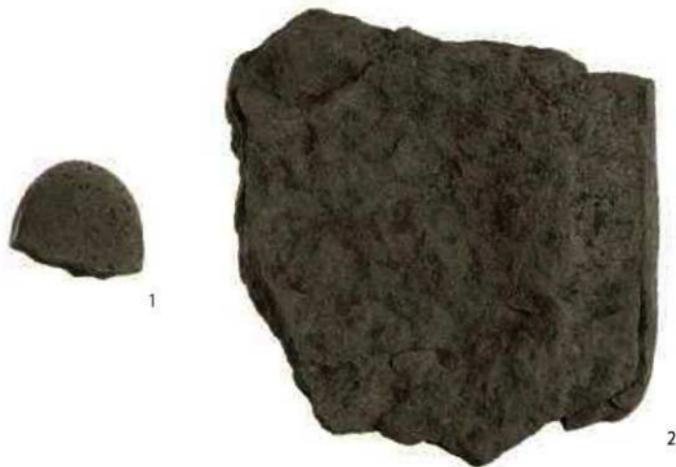
平成 25 年度
高架側道 7 号線出土遺物



平成 25 年度
御手洗池地区テストビット
(北より)



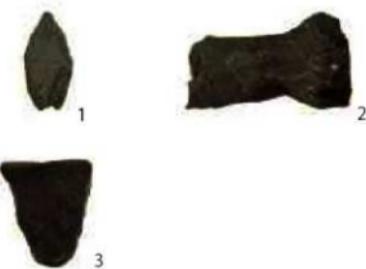
平成 26 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
伊右エ門畠地区溝状構造 (南より)



平成 26 年度岡宮北土地区画整理事業地内伊右工門畠地区出土遺物



平成 27 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
2 次調査テストピット 5 (南東より)



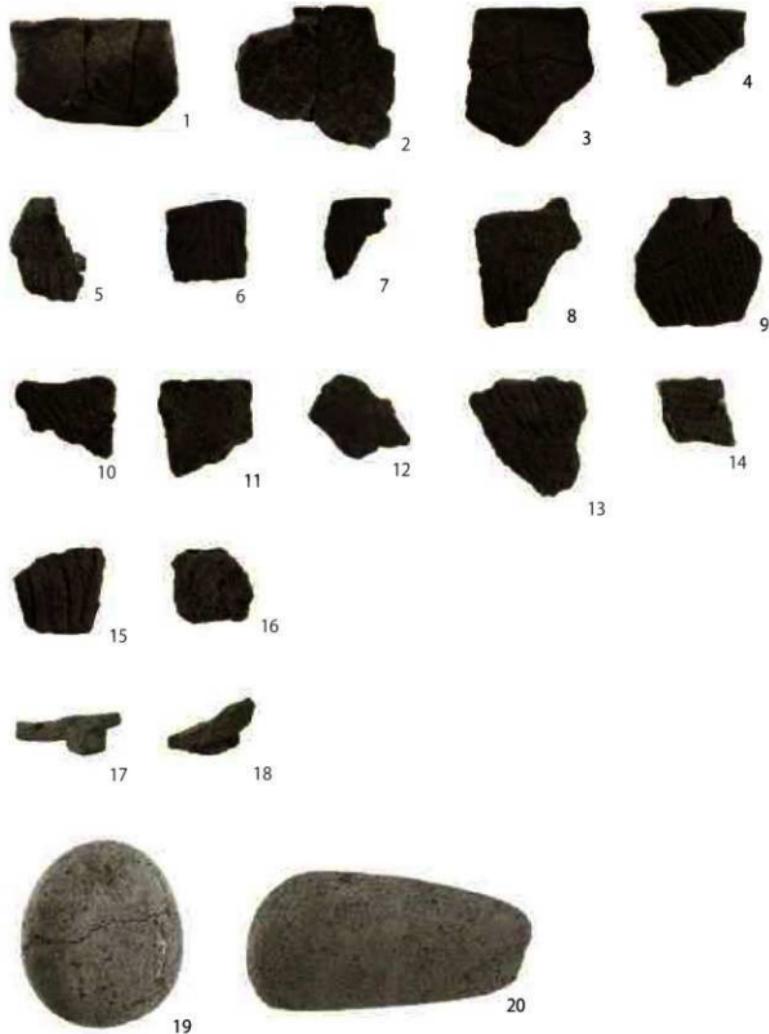
平成 27 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
2 次調査出土遺物



平成 27 年度
西浦久料石丁場矢穴石



平成 28 年度
岡宮北土地区画整理事業地内
1 次調査テストピット 6 (東より)





平成 28 年度
西浦地内分布調査立保地区（1）



平成 28 年度
西浦地内分布調査立保地区（2）



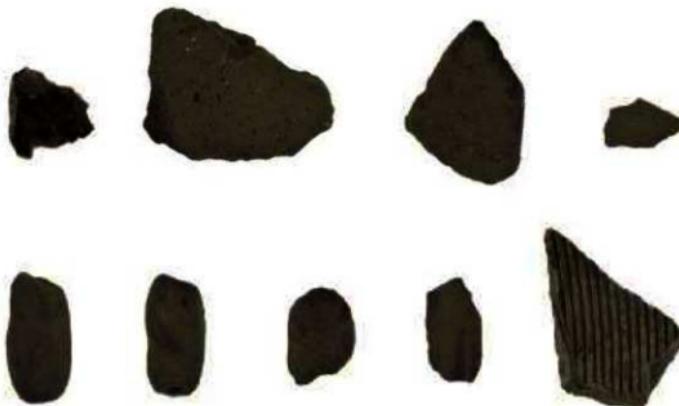
平成 28 年度
西浦地内分布調査立保地区（3）



平成 28 年度
西浦地内分布調査重須地区
表面採集遺物 (1)



平成 28 年度西浦地内分布調査重須地区表面採集遺物 (2)



平成 28 年度西浦地内分布調査木負地区表面採集遺物

報告書抄録

ふりがな	ぬまづしないじせきはっくつちょうさほうこくしょ1
書名	沼津市内遺跡発掘調査報告書1
副書名	
巻次	
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書
シリーズ番号	第118集
編著者名	谷口哲也 矢田晃代
編集機関	沼津市教育委員会
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL055-931-2500 沼津市
市町村コード	22203
発行年月日	西暦 2019年2月28日

調査 年度	所収 番号	所收遺跡名 地区名	所在地	調査期間	主な遺構
		市道跡番号	調査内容 地盤面積		主な遺物 特記事項
H14 第Ⅳ章 第2節	35	興國寺遺跡	沼津市根古屋町赤池 126-3 ㎡	2002.9.17 ~ 2003.3.25	壠・土壙・石垣水路
			35° 08' 22" 138° 48' 22"	戦国	弥生土器・土師器・須恵器・陶器・古銭
H15 第Ⅲ章 第2節	1区	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市富士見町 167-1	2007.11.6 ~ 2007.12.19	溝状構造・土坑・ピット
			35° 06' 19" 138° 52' 8"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	確認調査	232.4㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	2区・1	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市富士見町 170	2007.11.6 ~ 2007.12.19	溝状構造
			35° 06' 21" 138° 52' 7"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	確認調査	57.4㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	2区・2	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市富士見町 178-2	2007.11.6 ~ 2007.12.19	—
			35° 06' 21" 138° 52' 8"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	試掘調査	93.7㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	3区	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市富士見町 181-10	2007.11.6 ~ 2007.12.19	—
			35° 06' 17" 138° 52' 3"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	試掘調査	49.6㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	4区	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市富士見町 180-2	2007.11.6 ~ 2007.12.19	—
			35° 06' 17" 138° 52' 5"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	試掘調査	132.6㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	5区	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市富士見町 181-7	2007.11.6 ~ 2007.12.19	—
			35° 06' 15" 138° 52' 2"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	確認調査	18.8㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	6区	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市三芳町 190-2	2007.11.6 ~ 2007.12.19	駁穴住居址
			35° 06' 14" 138° 51' 59"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第2節	176・181	確認調査	16.9㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第2節	7区	口吉敷寺跡・三芳町遺跡	沼津市三芳町 7	2007.11.6 ~ 2007.12.19	駁穴住居址・ピット
			35° 06' 14" 138° 51' 55"	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶器
H15 第Ⅲ章 第3節	176・181	確認調査	15.5㎡	寺院跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第3節	静岡市立指揮点一地区 土地整理整理事業地区内	沼津市鶴崎町 3-4	2008.1.11	ピット	—
			35° 06' 22" 138° 51' 53"	奈良・平安	土師器
H15 第Ⅲ章 第4節	158	確認調査	24㎡	集落跡	—
			—	—	—
H15 第Ⅲ章 第5節	140	試掘調査	76㎡	集落跡	—
			—	—	—
H20 第Ⅳ章 第2節	158・290	確認調査	360㎡	散布地	—
			—	—	—
H20 第Ⅳ章 第2節	158	確認調査	3988.1 ㎡	土坑・性格不明遺構	—
			35° 08' 9" 138° 52' 51"	縄文	土器・石器・縄
H20 第Ⅳ章 第2節	158・290	確認調査	3606㎡	散布地	—
			—	—	—
H20 第Ⅳ章 第2節	140	試掘調査	76㎡	集落跡	—
			—	—	—
H20 第Ⅳ章 第2節	158	確認調査	3988.1 ㎡	土坑・性格不明遺構	—
			35° 08' 9" 138° 52' 51"	縄文	土器・石器・縄

調査年度	所収番号	所収遺跡名 地区名	所在地	調査期間	主な遺構
		市道路番号	東経	西暦	主な遺物
H21	第V章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内	沼津市岡宮字六右之門畠906-1外15筆	2009.9.25～2009.9.29	—
	—	試掘調査	35° 07' 48" [138° 52' 8"]	—	—
H21	第V章 第3節	日吉庵寺跡 1区	沼津市富士見町 1856-1	2009.12.15～2010.3.5	ピット・溝状遺構
	176	確認調査	35° 06' 21" [138° 52' 11"]	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶磁器
	91.3m			寺門跡	—
H21	第V章 第3節	日吉庵寺跡 2区	沼津市富士見町 171-23	2009.12.15～2010.3.5	ピット
	176	確認調査	35° 06' 22" [138° 52' 9"]	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器・陶磁器・埠塲
	61.5m			寺門跡	—
H22	第VI章 第2節	三芳町道路 1区	沼津市三芳町 191-14外11筆	2011.1.11～2011.3.25	壁穴住居址・溝状遺構・ピット・性格不明遺構
	181	確認調査	35° 06' 14" [138° 51' 57"]	弥生～奈良・平安	土師器・須恵器・石器
	218.9m			集落跡	—
H22	第VI章 第2節	三芳町道路 2区	沼津市三芳町 191-14外11筆	2011.1.11～2011.3.25	壁穴住居址・土坑・ピット・性格不明遺構
	181	確認調査	35° 06' 13" [138° 51' 54"]	弥生～奈良・平安	土師器・須恵器・石器
	255.5m			集落跡	—
H22	第VI章 第2節	三芳町道路 3区	沼津市三芳町 191-14外11筆	2011.1.11～2011.3.25	ピット・性格不明遺構
	181	確認調査	35° 06' 13" [138° 51' 53"]	弥生～奈良・平安	土師器・須恵器・石器
	27.4m			集落跡	—
H23	第IV章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1区	沼津市岡宮字六右之門畠889-1	2011.5.16～2011.6.15	—
	376	確認調査	35° 07' 45" [138° 52' 11"]	縄文	石器
	16m			散布地	六右之門跡
H23	第IV章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 2区	沼津市岡宮字土持畠977-1	2011.5.16～2011.6.15	—
	—	試掘調査	35° 07' 51" [138° 52' 8"]	—	—
H23	第IV章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 3区	沼津市岡宮字土持畠968-1	2011.9.7～2011.10.11	—
	—	試掘調査	35° 07' 59" [138° 52' 4"]	—	—
	48m			寺門跡	—
H24	第Ⅴ章 第2節	日吉庵寺跡	沼津市富士見町 1856-24外1筆	2012.8.6～2012.9.5	土坑・ピット
	176	本音源調査	35° 06' 23" [138° 52' 13"]	奈良・平安	瓦・土師器・須恵器
	68.4m			寺門跡	—
H24	第Ⅴ章 第3節	岡宮北土地区画整理事業地内	沼津市岡宮字土持畠968-3外8筆	2012.9.5～2012.10.12	—
	—	試掘調査	35° 07' 58" [138° 52' 5"]	—	—
	24m			—	—
H24	第Ⅴ章 第4節	若松崎古墳群	沼津市西浦久料 233-4	2012.10.9～2012.12.28	—
	265	測量調査	35° 01' 26" [138° 49' 20"]	舌墳	—
	2000m			舌墳	—
H25	第Ⅵ章 第2節	御幸町道路 1次	沼津市御幸町 92-1外	2013.10.3	—
	211	確認調査	35° 05' 43" [138° 51' 55"]	弥生～奈良・平安	土師器・須恵器・灰釉陶器
	20m			集落跡	—
H25	第Ⅵ章 第2節	御幸町道路 2次	沼津市御幸町 92-1外	2014.1.13～2014.1.18	溝状遺構
	211	確認調査	35° 05' 43" [138° 51' 55"]	弥生～奈良・平安	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器
	76m			集落跡	—
H25	第Ⅵ章 第3節	板長古墳群	沼津市小瀬野跡	2013.11.15～2013.12.27	墳墓
	195	分布調査	35° 06' 41" [138° 49' 39"]	古墳	土師器・須恵器・陶磁器
	—			古墳	調査後範囲変更・大塚古墳群新規登録
H25	第Ⅵ章 第4節	高架橋底7号線	沼津市大岡字下宮989-8外	2013.12.17～2014.1.6	—
	—	試掘調査	35° 06' 28" [138° 52' 25"]	奈良・平安	土師器・須恵器・灰釉陶器?
	28m			散布地	—
H25	第Ⅵ章 第5節	御手洗池地区	沼津市岡宮西五反田 71-6	2014.2.4～2014.2.12	—
	—	試掘調査	35° 07' 15" [138° 51' 56"]	—	—
	7.15m			—	—
H26	第Ⅵ章 第2節	戸田石子場	沼津市戸田字烏ヶ原	2014.6.16～2014.7.31	—
	—	測量調査	34° 57' 41" [138° 46' 17"]	近世	切石
	—			石子場	—
H26	第Ⅵ章 第3節	岡宮北土地区画整理事業地内 宮久保地点	沼津市岡宮字宮久保 696-1外4筆	2014.12.1～2015.1.8	—
	—	試掘調査	35° 07' 36" [138° 52' 5"]	—	—
	18m			—	—

調査 年度	所収 番号	所収道路名		所在地	調査期間	主な遺構
		地区名	市道番号			主な遺物
H26	第X章 第3節	岡宮北土地区画整理事業地内 (伊右エ門)烟地点	沼津市岡宮字伊右エ門815	古墳以降 2014.12.1 ~ 2015.1.8	溝状遺構	土器・石器・礫
		144 確認調査	35° 07' 41" 138° 51' 59"	古墳以降 20m	散布地	大泉寺道遺跡
H26	第X章 第4節	馬見塚古墳群	沼津市足高、宮本、西沢山、東椎路、西椎路	2015.2.23 ~ 2015.3.13	古墳	土器
		419 分布調査	—	—	古墳	馬見塚古墳群として新規登録
H27	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1次 - 1区	沼津市岡宮字中荒町 1172-7 外3筆	2015.6.8 ~ 2015.7.30	—	—
		— 試掘調査	20m	—	—	—
H27	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1次 - 2区	沼津市岡宮字伊右エ門815-2	2015.6.8 ~ 2015.7.30	—	—
		— 試掘調査	4m	—	—	—
H27	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1次 - 3区	沼津市岡宮字山神上 849-1	2015.6.8 ~ 2015.7.30	—	—
		— 試掘調査	24m	—	—	—
H27	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1次 - 4区	沼津市岡宮字山神上 840-4	2015.6.8 ~ 2015.7.30	—	—
		375 確認調査	16m	—	—	山神上遺跡
H27	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1次 - 5区	沼津市岡宮字山神上 841 地内外	2015.6.8 ~ 2015.7.30	—	—
		375 確認調査	12m	—	—	山神上遺跡
H27	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 2次	沼津市岡宮字伊右エ門803-3筆	2016.2.15 ~ 2016.3.18	—	—
		144 確認調査	42m	—	—	大泉寺道遺跡
H27	第XI章 第3節	西浦久料石丁場	沼津市西浦久料	2016.3.8 ~ 2016.3.31	—	—
		— 测量調査	—	—	石丁場	—
H28	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 1次	沼津市岡宮字伊右エ門802-1 外2筆	2016.5.16 ~ 2016.6.17	—	—
		144 確認調査	64m	—	散布地	大泉寺道遺跡
H28	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 2次 - 1区	沼津市岡宮字伊右エ門816	2017.2.15 ~ 2017.3.31	—	—
		144 確認調査	12m	—	—	大泉寺道遺跡
H28	第XI章 第2節	岡宮北土地区画整理事業地内 2次 - 2区	沼津市岡宮字山神上 840-1 外2筆	2017.2.15 ~ 2017.3.31	—	—
		375 確認調査	76m	—	散布地	山神上遺跡
H28	第XI章 第3節	西浦地内分布調査	沼津市内浦重須外	2016.8.1 ~ 2016.8.31	石丁場	—
		— 分布調査	—	—	散布地	石丁場・散布地

沼津市文化財調査報告書 第118集
沼津市内遺跡発掘調査報告書1

平成31年2月22日 印刷
平成31年2月28日 発行

編集／沼津市教育委員会
発行／沼津市教育委員会
沼津市御幸町16番1号
TEL (055) 931-2500㈹
印刷／みどり美術印刷株式会社